

平成19年度

スポーツ環境委員会 活動報告書

JOC SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION REPORT 2007

温暖化でスポーツを消さないで！

STOP THE 'GLOBAL WARMING'

子供たちのために、未来をとり返そう



財団法人日本オリンピック委員会 (JOC)は「ゲーム・マイナス6%」に参加しています。



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
SPORTS AND ENVIRONMENT COMMISSION

財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境委員会



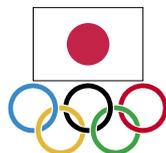
財団法人 日本オリンピック委員会
JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE

スポーツ環境専門委員会
SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION

平成19年度

スポーツ環境委員会 活動報告書

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE



財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門委員会

スポーツと環境についての啓発活動

Japanese Olympic Committee

●環境大臣訪問(2007年11月28日)



左から鴨下一郎環境大臣、竹田恒和JOC会長、松岡修造JOC環境アンバサダー、水野正人JOC副会長、板橋一太JOCスポーツ環境専門委員長



鴨下一郎環境大臣と語る竹田恒和JOC会長(右)



●第24回ユニバーシアード競技大会(2007 / タイ)日本代表選手団結団式 2007年8月3日(金)



左から銭谷真美文部科学省事務次官、スウィット・シマサクン駐日タイ王国特命全権大使、竹田恒和JOC会長



早田卓次団長



左から選塚研一JOC副会長、早田卓次団長、竹田恒和JOC会長、兵藤慎剛旗手、奥村幸大主将



●第2回アジアインドアゲームズ

会期：2007年10月26日(金)～11月3日(祝)／会場：中華人民共和国マカオ特別行政区



ムエタイ
左から板橋一太団長、石井宏樹選手、北出雅人監督、松本哉朗選手



ムエタイ



インラインスタント
左から安床由起夫監督、相原祐介選手、荻野寛太選手、板橋一太団長



スポーツクライミング
左から北山真監督、平山裕示選手、安間佐千選手、野口啓代選手



カバディ日本代表チーム



会場のペーパータオルボックス

●第5回オリンピックファミリーゴルフ(日本赤十字社チャリティ大会)

会期：2007年6月11日(日)／会場：程ヶ谷カントリー倶楽部／参加人数：124名



●オリンピックコンサート2007

会期：2007年6月17日(日)／会場：NHKホール／参加人数：2,818名



●オリンピックフェスティバル

会期：2007年10月8日(祝)／会場：駒沢オリンピック公園総合運動場／参加人数：15,435名



竹田恒和JOC会長



●オリンピックデーラン2007

●鳥取大会／2007年9月2日(日)



●鳥取大会／2007年9月2日(日)



●青森大会／2007年9月9日(日)



●土別大会／2007年9月30日(日)



●ひたちなか大会／2007年10月21日(日)



●スノーラン山形大会／2008年3月23日(日)



オリンピックデーラン2007 [開催日]

- | | |
|--|--------------|
| ・大阪大会／2007年5月13日(日) | 参加人数:13,800名 |
| ・喜多方大会／2007年7月15日(日) | 参加人数:819名 |
| ・岐阜大会／2007年8月4日(土) | 参加人数:1,871名 |
| ・鳥取大会／2007年9月2日(日) | 参加人数:1,040名 |
| ・青森大会／2007年9月9日(日) | 参加人数:1,271名 |
| ・土別大会／2007年9月30日(日) | 参加人数:1,521名 |
| ・オリンピックフェスティバル(東京)
／2007年10月8日(月・祝) | 参加人数:15,435名 |
| ・ひたちなか大会／2007年10月21日(日) | 参加人数:1,960名 |
| ・神戸大会／2007年11月4日(日) | 参加人数:1,591名 |
| ・長野大会／2007年11月11日(日) | 参加人数:1,842名 |
| ・愛媛大会／2008年1月13日(日) | 参加人数:2,410名 |
| ・スノーラン山形大会／2008年3月23日(日) | 参加人数:1,114名 |

●第3回JOCスポーツと環境・地域セミナー

会期：2007年9月14日(金)／会場：東京都 都民ホール／参加人数：約200名



水野正人 JOC副会長



荒川満東京オリンピック招致本部長



染野憲治環境省地球環境局地球温暖化対策課
国民生活対策室長



武市敬東京オリンピック招致委員会事務次長



小沼博靖東京都環境局環境政策部副参事



平松純子 JOCスポーツ環境専門委員



板橋太 JOCスポーツ環境専門委員長

●第4回スポーツと環境担当者会議

会期：2007年11月30日(金)／会場：東京・国立スポーツ科学センター／参加人数：約100名



水野正人 JOC副会長



板橋 大 JOCスポーツ環境専門委員長



清武正孝 環境省地球環境局



田嶋 幸三 JOCスポーツ環境専門副委員長



佐野和夫 JOCスポーツ環境専門副委員長



瀬戸 邦宏 幹事



武市敬東京オリンピック招致委員会事務次長



〈司会〉
八木 沼純子
JOCスポーツ環境アンバサダー

●第7回IOCスポーツと環境世界会議

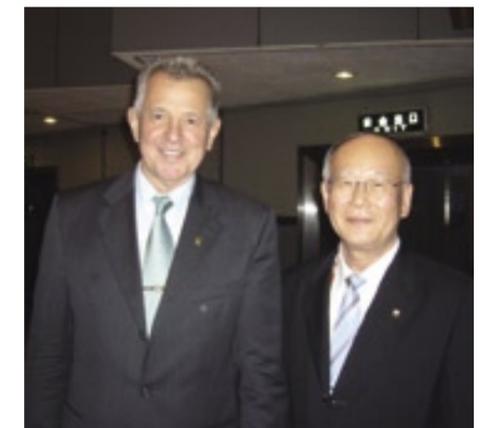
会期：2007年10月25日(木)～27日(土)／会場：中華人民共和国・北京市 国際会議場



左から二人目、ジャック・ロゲIOC会長とバル・シュミットIOCスポーツと環境委員長(右隣)



水野正人IOCスポーツと環境委員



バル・シュミットIOCスポーツと環境委員長と佐野和夫JOCスポーツ環境専門副委員長



佐野和夫JOCスポーツ環境専門副委員長



佐野副委員長(左端)とスピーカー

(財) 日本陸上競技連盟

Japan Association of Athletics Federations

●IOCスポーツと環境委員会

会期：2007年10月28日(日)／会場：中華人民共和国・北京市／国際会議場



●IOCスポーツと環境・東アジア地域セミナー

会期：2008年3月28日(金)～29日(土)／会場：大韓民国 仁川(インチョン)市



水野正人IOCスポーツと環境委員



鎌賀秀夫JOCスポーツ環境専門委員



左から水野IOCスポーツと環境委員、バル・シュミットIOCスポーツと環境委員長、鎌賀秀夫JOCスポーツ環境専門委員



セミナー参加者

●第91回日本陸上競技選手権大会

会期：2007年6月29日(金)～7月1日(日)／会場：大阪市長居陸上競技場



中曽根弘文副会長と山本征悦JOCスポーツ環境専門委員(右)



●第11回IAAF世界陸上競技選手権大阪大会

会期：2007年8月25日(土)～9月2日(日)／会場：大阪市長居陸上競技場



左から室伏広治選手、Lamine Diack IAAF会長、河野洋平会長、関淳一大阪市長



(財)日本水泳連盟

Japan Swimming Federation

●2007日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会

会期：2007年10月19日(金)～21日(日)／会場：大分スポーツ公園九州石油ドーム



●第38回ジュニアオリンピック陸上競技大会

●第91回日本陸上競技選手権リレー競技大会

会期：2007年10月26日(金)～28日(日)／会場：神奈川・日産スタジアム



●第63回びわ湖毎日マラソン大会

会期：2008年3月2日(日)

会場：滋賀県大津市



澤木啓祐専務理事(左端)と山本征悦JOCスポーツ環境委員(右端)

●2008名古屋国際女子マラソン大会

会期：2008年3月9日(日)

会場：愛知県名古屋市



瀬古利彦JOCスポーツ環境アンバサダー

●第83回日本選手権水泳競技大会競泳競技

会期：2007年4月5日(木)～8日(日)／会場：千葉県国際総合水泳場



●第83回日本選手権水泳競技大会シンクロナイズドスイミング競技

会期：2007年5月2日(水)～5日(祝)／会場：東京辰巳国際水泳場



●第83回日本選手権水泳競技大会水球競技／第24回全国女子水球競技大会

会期：2007年6月29日(金)～7月1日(日)／会場：東京都体育館屋内プール／参加人数：213名



●第58回日本実業団水泳競技大会

会期：2007年8月4日(土)～5日(日)
会場：別府市宮青山プール



佐野和夫JOCスポーツ環境専門副委員長(中央)

●第54回全国国公立大学選手権水泳競技大会

会期：2007年8月8日(水)～9日(木)
会場：神戸市立ポートアイランド



左から林利博会長、佐野和夫副会長兼専務理事、阿部喜方常務理事

●第49回日本短水路選手権水泳競技大会
—ジャパンオープン2008—

会期：2008年2月23日(土)～24日(日)／会場：東京辰巳国際水泳場／参加人数：664名



●世界競泳2007イン ジャパン

会期：2007年8月21日(火)～24日(金)／会場：千葉県国際総合水泳場／参加人数：483名



●第47回全国中学校水泳競技大会

会期：2007年8月21日(火)～23日(木)
会場：盛岡市立総合プール
参加人数：483名



●第83回日本学生選手権水泳競技大会 競泳競技

会期：2007年9月7日(金)～9日(日)
会場：東京辰巳国際水泳場
参加人数：1,200名



●OWS木原珠子選手 × 岩崎恭子(JOCスポーツ環境アンバサダー)対談
“できることから始めよう”

岩崎恭子 × 木原珠子



スペシャル環境対談
誰かやるから、ではなく自分から始めよう。
ムリせず、気長に、できることから始めよう。

地球温暖化が原因とされる地球環境の変化が深刻化しています。「水」という地球最大の資源があるからこそ水資源が乏しくなるという危機感も強まっています。しかし、環境問題に対しては、誰かやるからと待たないで自分から始めることが大切です。日本オリンピック委員会の久保田博之副委員長(以下「久保田氏」)は、日本水泳連盟のスポーツ環境委員を務められている岩崎恭子(以下「岩崎氏」)と、OWS環境大使として活躍中の水泳選手木原珠子(以下「木原氏」)と対談しました。(聞き手：長谷川)

岩崎氏：日本オリンピック委員会のスポーツ環境アンバサダーとして各地でジュニアの選手達を対象に環境教育を行っています。水泳の環境教育は、選手が泳ぐ場所であるプールに環境教育の場が広がっています。水泳の環境教育は、選手が泳ぐ場所であるプールに環境教育の場が広がっています。水泳の環境教育は、選手が泳ぐ場所であるプールに環境教育の場が広がっています。

木原氏：私は今年からジュニアの選手として活躍しています。水泳の環境教育は、選手が泳ぐ場所であるプールに環境教育の場が広がっています。水泳の環境教育は、選手が泳ぐ場所であるプールに環境教育の場が広がっています。



(財)日本サッカー協会

Japan Football Association

●キリンカップサッカー 2007 日本代表 対 コロンビア代表
会期：2007年6月5日(火)／会場：埼玉スタジアム2002／参加人数：138名



岡田武史日本代表監督(JOCスポーツ環境アンバサダー)



●キリンチャレンジカップ2008 日本代表 対 チリ代表
会期：2008年1月26日(土)／会場：国立霞ヶ丘競技場／参加人数：174名



●Jリーグクラブのスポーツ環境活動



清水エスパルス カーボンオフセットクラブ化計画の概要発表(2008年2月1日)



横浜FC ISO14001取得の概要発表(2008年3月14日)



ヴァンフォーレ甲府 リユースカップ



ベガルタ仙台 エコプロジェクト



ジュビロ磐田・Jリーグサウズウィーク



横浜F・マリノス リユースカップ

(財)全日本スキー連盟

Ski Association of Japan

●SKIERS SUMMIT TAG MATCH 2007

会期：2007年6月2日(土)～3日(日)／会場：デサント東京オフィス・イベントホール／参加人数：約3,200名



各会場を結ぶ階段には「ストップ温暖化」バナー、「この星にスポーツを」バナーを掲示



選手のトークショー。左から皆川賢太郎、生田康宏、福島のリ子、河野健児、瀧澤宏臣の各選手

●2007FISサマーグランプリ白馬ジャンプ大会

会期：2007年9月8日(土)～9日(日)／会場：白馬ジャンプ競技場



●2008フリースタイルFISワールドカップ猪苗代大会

会期：2008年2月14日(木)～17日(日)／会場：福島県猪苗代町 リステル・スキーファンタジアほか



上村愛子選手



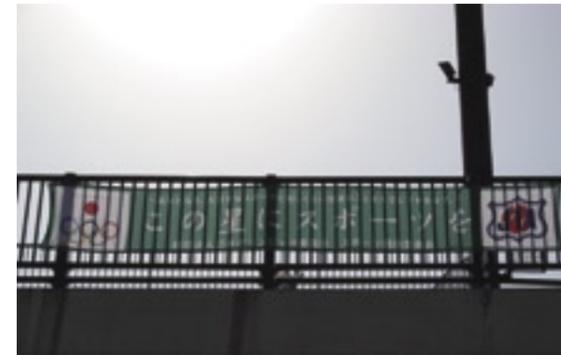
出場選手

(財)日本テニス協会

Japan Tennis Association

●DUNLOPジャパンオープンジュニアテニス選手権大会

会期：2007年4月2日(月)～7日(土)
会場：愛知県東山公園テニスセンター



●トヨタジュニアテニストーナメント2007

会期：2007年4月11日(水)～14日(土)
会場：愛知県東山公園テニスセンター



左から井本善友、村上武資、右近藤三の各JTAナショナルコーチ
JTA常務理事・田中耕二、ナショナルチームGM・小浦武志

●フェドカップ ワールドグループ プレーオフ 対ドイツ戦

会期：2007年7月14日(土)～15日(日)／会場：愛知県豊田市 スカイホール豊田



ヤン・メネケン氏ITF役員、渡邊康二JTA専務理事(右)



福井烈JTA常務理事

●第31回全日本都市対抗テニス大会

会期：2007年7月19日(木)～22日(日)
会場：大分県大分スポーツ公園テニス場



●第25回全国小学生テニス選手権大会

会期：2007年7月28日(土)～30日(月)
会場：東京都第一生命相模園グラウンドテニスコート



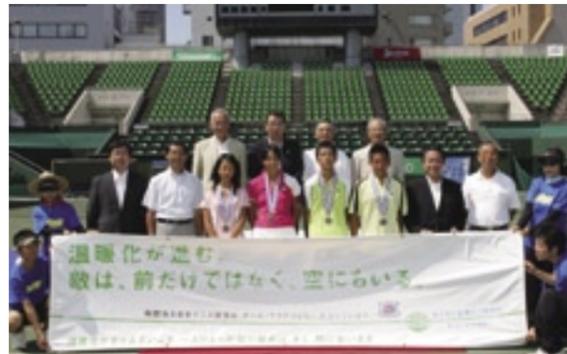
出場選手と坂井利郎JTA常務理事、倉光哲トーナメントディレクター(右)

●ダンロップ全日本ジュニアテニス選手権2007

会期：2007年8月4日(土)～16日(木)／会場：大阪府鞆(うつぼ)テニスセンター



12歳シングルス優勝者・準優勝者と盛田正明JTA会長他 大会関係者



16歳入賞者と大会関係者

●第34回全国中学生テニス選手権大会

会期：2007年8月18日(土)～24日(金)
会場：愛知県東山公園テニスセンター



出場ジュニア選手

●AIG OPEN 2007

会期：2007年10月1日(月)～7日(日)
会場：有明コロシアム 有明テニスの森



杉山愛選手と大会スタッフ

●デビスカップ ワールドグループ
プレイオフ 対ルーマニア戦

会期：2007年9月21日(金)～23日(日)
会場：門真市 なみはやドーム



●大阪市長杯2007世界スーパージュニア
テニス選手権大会

会期：2007年10月8日(祝)～14日(日)
会場：大阪府鞆(うつぼ)テニスセンター



男女シングルス優勝選手と盛田正明JTA会長他 大会関係者

●第11回ヨネックス豊岡オープンテニストーナメント

会期：2007年10月21日(日)
会場：兵庫県豊岡市 神美台スポーツ公園テニスコート
参加人数：110名



出場選手および大会関係者

●イザワクリスマスオープン2007
テニストーナメント

会期：2007年12月10日(月)～16日(日)
会場：兵庫県神戸ワールド記念ホール



中央左から井澤社長夫人、男子シングルス優勝・本村剛一、準優勝・添田豪、大会名誉会長・井澤武尚

●修造チャレンジトップジュニアキャンプ

会期：2007年5月8日(火)～11日(金)
会場：千葉県エーストレホテル&テニスクラブ
参加人数：9名



松岡修造JTA理事待遇・環境委員と参加選手

●第82回ニッケ全日本テニス選手権大会2007

会期：2007年11月11日(日)～18日(日)
会場：有明コロシアム 有明テニスの森



左から中西知郎トーナメントディレクター、渡邊康二専務理事、川廷榮一副会長、女子シングルス優勝・中村藍子、準優勝・波形純理、盛田正明会長

●ヨネックスカップ2007
第28回全日本ジュニア選抜室内テニス
選手権大会

会期：2008年1月25日(金)～27日(日)
会場：大阪府江坂テニスセンター



男女シングルス優勝、準優勝者

●JTAコーチーズカンファレンス

会期：2008年3月2日(日)～3日(月)
会場：東京 国立スポーツ科学センター
参加人数：390名



(社)日本ボート協会

Japan Rowing Association

●第34回全日本学生競漕選手権大会

●第47回オックスフォード盾レガッタ

会期：2007年8月23日(木)～26日(日)／会場：戸田オリンピックボートコース／参加人数：1,240名



●第62回国民体育大会ボート競技

会期：2007年10月5日(金)～8日(祝)／会場：秋田県・大湯漕艇場／参加人数：1,070名



●荒川川岸水辺の清掃

会期：2007年4月21日(日)
会場：戸田市荒川・埼玉側川岸
参加人数：20名



●マングローブ植樹

高体連ボート専門部・沖縄県ボート協会

会期：2007年12月26日(水)
会場：沖縄県・塩屋湾付近
参加人数：34名



(社)日本ホッケー協会

Japan Hockey Association

●高円宮杯 2007男子日本リーグ

会期：2007年4月28日(土)～7月15日(日)／会場：山梨県甲府市 山梨学院ホッケースタジアム 他／参加人数：272名



横断幕掲揚



ゴミの分別

●高円宮杯 2007女子日本リーグ

会期：2007年4月14日(土)～7月1日(日)／会場：奈良県天理市 親里ホッケー場 他／参加人数：190名



試合会場



手塚愛実選手(グラクソ・スミスクリン)

●2007年度ルール研修会

会期：2008年2月9日(土)～10日(日)／会場：大阪府大阪市 靱テニスセンター／参加人数：70名



加藤直美(技術委員会審判部長)



研修会受講者

(財)日本バレーボール協会

Japan Volleyball Association

●サントリーカップ第27回全日本バレーボール小学生大会

会期：2007年8月14日(火)～17日(金)／会場：東京体育館ほか



最後列中央左からサントリーサンパース越川優選手、大林素子JOCスポーツ環境アンバサダー、(同)山村宏太選手と各チーム代表選手

●天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会

会期：2007年9月1日(土)～2008年1月6日(日)／会場：全国各地



関東ブロックラウンド



バックスタンド最前列に2枚、エンドライン後方スタンド最前列に各1枚、計4枚メッセージバナー掲出

みんなが手を上げれば
温暖化は
ブロックできる。

全日本女子バレーボールチーム監督 柳本晶一

JVA 全日本バレーボール協会。チーム・マイナスイタに参加しています。www.team-6.jp

みんなが手を上げれば温暖化はブロックできる。チーム・マイナスイタ。温暖化がすすんでいます。一人ひとりが取り組み、まだ、間に合います。

ポスター

●第21回ビーチバレージャパン

会期：2007年8月23日(木)～26日(日)
会場：湘南・鶴沼海岸



●マスターカードマーメイドカップ

会期：2007年8月23日(木)～25日(土)
会場：湘南・鶴沼海岸



●FIVBワールドカップバレーボール2007男女大会

会期：2007年11月2日(金)～12月2日(日)／会場：東京体育館ほか



会場内では規定により会場装飾以外の懸垂膜、応援バナーなどは一切掲出不可となっており、チームマイナス6%バナーのみ例外とされた

●JVA主催大会における、メッセージバナー掲出活動

会期：2007年8月以降の諸大会／会場：各地



大学リーグ(男子)



大学リーグ(女子)

(財)日本体操協会

Japan Gymnastic Association

●第46回NHK杯

会期：2007年6月9日(土)～10日(日)／会場：千葉ポートアリーナ



米田功選手



富田洋之選手。会場内には温暖化ストップを呼びかけるバナーも掲示

●全日本社会人体操選手権大会

会期：2007年9月22日(土)～24日(祝)
会場：茨城・笠松運動公園体育館
参加人数：2,000名



●第25回全日本ジュニア新体操選手権大会

会期：2007年10月20日(土)～21日(日)
会場：代々木第一体育館
参加人数：2,700名



●第62回国民体育大会体操競技

会期：2007年10月2日(火)～5日(金)
会場：秋田市立体育館
参加人数：8,500名



●第60回全日本新体操選手権大会

会期：2007年11月23日(祝)～25日(日)
会場：東京体育館
参加人数：3,000名



●第61回全日本体操競技選手権大会

会期：2007年10月26日(金)～28日(日)／会場：代々木第一体育館／参加人数：3,800名



女子、ナショナル選手



男子、ナショナル選手

●第10回全日本新体操チャイルド選手権大会 第7回全日本新体操キッズコンテスト

会期：2008年2月22日(金)～24日(日)
会場：東京体育館
参加人数：5,500名



●第23回全国高等学校新体操選手権大会

会期：2008年3月29日(土)～30日(日)
会場：山形市総合スポーツセンター
参加人数：2,000名



●第8回全国体操小学生大会

会期：2008年3月27日(木)～28日(金)
会場：茨城・大洗町
参加人数：1,800名



◆炭酸マグネシウム容器の改良



従来の容器



環境に配慮して、口を狭くし粉塵化を最小限に抑える

(財)日本スケート連盟

Japan Skating Federation

●第14回全日本スピードスケート距離別選手権大会

会期：2007年10月26日(金)～28日(日)／会場：長野市オリンピック記念アリーナ(エムウェーブ)／参加人数：3,576名(観客含む)



左から有賀豊文理事、林泰章副会長、畠山睦夫実行委員長



運営スタッフによるゴミの分別

●第76回全日本フィギュアスケートジュニア選手権大会

会期：2007年11月24日(土)～25日(日)／会場：仙台市体育館／参加人数：120名(選手、役員)



●2007NHK杯国際フィギュアスケート競技大会

会期：2007年11月29日(金)～12月2日(日)
会場：仙台市体育館



●第76回全日本スピードスケート選手権大会

会期：2007年12月16日(日)～18日(火)
会場：岩手県営スケート場
参加人数：132名(選手、役員)



橋本聖子会長による表彰式風景

●第76回全日本フィギュアスケート選手権大会

会期：2007年12月26日(水)～28日(金)／会場：なみはやドーム(大阪府立門真スポーツセンター)
参加人数：154名(選手、役員)



左から中野友加里選手、浅田真央選手、安藤美姫選手、村主章枝選手



北村博彦京都府スケート連盟副会長と桂千恵子大阪府立門真スポーツセンター館長(右)

●第31回全日本ジュニアスピードスケート選手権大会

会期：2008年1月10日(木)～13日(日)／会場：八戸市長根公園スケートリンク



●2008 ISU世界距離別スピードスケート選手権大会・長野大会

会期：2008年3月6日(木)～9日(日)／会場：長野オリンピック記念アリーナ(エムウェーブ)



橋本聖子会長と久田順子事務局長(右)



(財)日本レスリング協会

Japan Wrestling Federation

●JOCジュニアオリンピックカップ

2007年度全日本ジュニアレスリング選手権大会

会期：2007年4月21日(土)～22日(日)
会場：横浜文化体育館
参加人数：1,134名



●平成19年度 明治乳業カップ 全日本選抜レスリング選手権大会(2007年世界選手権大会代表選考会)

会期：2007年6月9日(土)～10日(日)
会場：代々木第二体育館
参加人数：196名



●第55回全日本社会人レスリング選手権大会

会期：2007年7月7日(土)～8日(日)／会場：佐倉市民体育館／参加人数：209名



●ドン・キホーテ杯／第3回全日本ビーチレスリング選手権大会

会期：2007年7月29日(日)／会場：台場海浜公園／参加人数：239名



●平成19年度全国高等学校総合体育大会／2007青春・佐賀総体

会期：2007年8月2日(木)～5日(日)／会場：佐賀市諸富文化体育館



高田裕司協会専務理事と富山英明強化委員長(右)

●平成19年度第24回全国少年少女レスリング選手権大会

会期：2007年8月10日(金)～12日(日)／会場：駒沢オリンピック公園総合運動場体育館／参加人数：172クラブ・1,447名



左から菅芳松理事長、池田進副会長、永田克彦選手、浜口京子選手、今泉雄策副会長、岩名秀樹会長、伊調馨選手、吉田沙保里選手、伊調千春選手



(財)日本セーリング連盟

Japan Sailing Federation

●国際レスリング連盟女子レスリングコーチクリニック

会期：2007年11月15日(木)～18日(日)／会場：国立スポーツ科学センター



左から福田富昭日本連盟会長、ラファエル・マルティニティ FILA会長、キム・イッチョン FILAビューロメンバー

●天皇杯

平成19年度全日本レスリング選手権大会

会期：2007年12月21日(木)～23日(祝)
会場：国立代々木競技場第二体育館
参加人数：305名



●第17回少年少女レスリング東京選手権大会

●第6回全日本マスターズレスリング選手権大会

会期：2008年1月19日(土)
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室
参加人数：418名／100名



●第21回少年少女レスリング選手権大会

会期：2008年2月11日(祝)
会場：新宿区・スポーツ会館
参加人数：247名



●JOCジュニアオリンピックカップ 兼 第12回全国少年少女選抜レスリング選手権大会

会期：2008年3月8日(土)～9日(日)
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室
参加人数：334名



●JSAF環境キャンペーン



国際ポートショーで「油ゴミ」の実態について講演する大倉氏・JEAN (2008年3月8日)



同ショーで「JSAFエコバッグ」の使用を促す岡田達雄JSAF環境委員長

●第5回全国中学校ヨット選手権大会

会期：2007年7月27日～29日
会場：千葉県稲毛ヨットハーバー



「海の日」環境キャンペーン用ポスター

(社)日本ウエイトリフティング協会

Japan weightlifting Association

●第53回全日本学生個人戦選手権大会

会期：2007年5月11日(金)～13日(日)／会場：大阪府羽曳野市立総合スポーツセンター／参加人数：102名



2009年ジュニア世界選手権大会48kg級チャンピオンでこの大会53kg級で優勝した立命館大学の角田祥子選手もこの日の別



69kg級で優勝し男子最優秀選手に選ばれた大阪商業大学の五百蔵正和(左)、小平紀生全日本学生ウエイトリフティング連盟会長(中央)、63kg級に日本新記録を樹立して優勝し女子最優秀選手に選ばれた金沢学院大学の橋田麻由

●全国中学生選手権大会

会期：2007年8月25日(土)／会場：大阪府羽曳野市立総合スポーツセンター／参加人数：34名



最優秀選手に選ばれた48kg級優勝の大谷弘稀(大阪府・河原城中学校)のスナッチ



53kg級優勝の白草翔太選手(大阪府・河原城中学校)もこの日の別

●内閣総理大臣杯

第44回全日本社会人選手権大会・大分国体女子記念杯

会期：2007年11月16日(金)～18日(日)／会場：大分県国東市アストくにさき／参加人数：205名



団体優勝し内閣総理大臣杯を獲得した自衛隊体育学校チーム

●国際ウエイトリフティング連盟(IWF)理事会

会期：2008年3月10日(月)～12日(水)／会場：グランドプリンスホテル高輪



左からDr.Tamás Aján IWF President、竹田恒和JOC会長、Yannis Sgouros IWF General Secretary



●第23回全国高等学校選抜大会

会期：2008年3月28日(金)～30日(日)

会場：石川県金沢市総合体育館

参加人数：168名



69kg級に優勝し男子最優秀選手に選ばれた豊見城高校の金城聖丸(左)、飛田秀一日本ウエイトリフティング協会会長(中央)、58kg級で優勝し女子最優秀選手に選ばれた埼玉栄高校の吉野千枝里

(財)日本ハンドボール協会

Japan Handball Association

●JAPAN CUP 2007 TOYOTA GAMES

—北京オリンピック男子アジア予選愛知・豊田リハーサル大会—

会期：2007年7月6日(金)～8日(日)／会場：愛知県豊田市・スカイホール豊田／参加人数：5,000名



●2008北京オリンピック男子アジア予選愛知・豊田大会

会期：2007年9月1日(土)～6日(木)／会場：愛知県豊田市・スカイホール豊田／参加人数：10,000名



●第62回国民体育大会ハンドボール競技

会期：2007年10月4日(木)～8日(月)／会場：秋田県湯沢市総合体育館ほか／参加人数：12,000名



●第59回全日本総合ハンドボール選手権大会

会期：2007年12月20日(木)～24日(月)

会場：駒沢体育館ほか

参加人数：5,000名



●第16回JOCジュニアオリンピックカップ2007

ハンドボール大会

会期：2007年12月25日(火)～28日(金)

会場：大阪府堺市家原大池体育館ほか

参加人数：10,000名



●2008北京オリンピックアジア予選再試合

会期：2008年1月29日(火)～30日(水)／会場：国立代々木競技場第一体育館／参加人数：16,000名



●第32回日本ハンドボールリーグANA CUP

女子プレーオフ

会期：2008年2月16日(土)～17日(日)

会場：大阪市立住吉スポーツセンター

参加人数：2,000名



●第32回日本ハンドボールリーグANA CUP

男子プレーオフ

会期：2008年3月15日(土)～16日(日)

会場：駒沢体育館

参加人数：5,000名



(財)日本自転車競技連盟

Japan Cycling Federation

●第3回全国ジュニア自転車競技大会・記念植樹

会期：2007年11月18日(日)／会場：三重県四日市市桜町／参加人数：130名



「環境にやさしい自転車」がコンセプトの大会を記念し昨年
に引き続きコース沿いにメイシノ30本を植樹した。
(財)オン環境財団の岡田卓也理事長と四日市市の井上
哲夫市長が立会いのもと、関係者、地域住民が参加した。

●第62回国民体育大会自転車競技

会期：2007年9月30日(日)～10月4日(木)／会場：秋田県大仙市、美郷町



●第3回全国ジュニア自転車競技大会

会期：2007年11月4日(日)
会場：三重県四日市市



●ツール・ド・おきなわ2007

会期：2007年11月11日(日)
会場：沖縄県名護市ほか



(財)日本卓球協会

Japan Table Tennis Association

●第25回全国ホープズ卓球大会

会期：2007年8月8日(水)～10日(金)
会場：東京体育館



左から齋藤 進大会委員長、山口宇宙副会長、本間一廣審判長、小川敏夫競技委員長

●平成19年度全日本卓球選手権大会 (マスターズの部)

会期：2007年11月9日(金)～11日(日)
会場：越谷市立総合体育館



左から鈴木静香審判長、吉見康二競技委員長、平田 武大会委員長、木村興治専務理事

●天皇杯・皇后杯平成19年度全日本卓球 選手権大会(一般の部・ジュニアの部)

会期：2008年1月15日(火)～20日(日)
会場：東京体育館



東京体育館の大型映像装置に映し出された環境ポスター

●第62回国民体育大会卓球競技

会期：2007年9月30日(日)～10月3日(水)
会場：鹿角市記念スポーツセンターほか



国体会場休憩所に分別ゴミ箱(3種)

●平成19年度ラージボール卓球大会

会期：2007年12月6日(木)～9日(日)
会場：那覇市民体育館



環境ポスター・標語と分別ゴミ箱

●日本卓球協会 環境委員会 開催

会期：2008年1月18日(金)
会場：東京体育館第四会議室



左から佐藤正喜委員、折居克春委員、渋谷五郎理事、若尾輝夫理事、原田宜亮委員長

(財)全日本軟式野球連盟

Japan Rubber Baseball Association

●高円宮賜杯第27回全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント

会期：2007年8月4日(土)～9日(木)／会場：茨城県水戸市ほか／参加人数：1,200名



大山則夫専務理事と岡部英男会長(右)



競技会場に横断幕を掲揚



大会レセプション会場にポスターを掲示

●天皇賜杯第62回全日本軟式野球大会

会期：2007年10月12日(金)～17日(水)／会場：大分県別府市ほか／参加人数：約1,400名



監督・主将会議室にポスターを掲示



競技会場に横断幕を掲揚

(社)日本馬術連盟

Japan Equestrian Federation

●第31回全日本ジュニア障害馬術大会2007

会期：2007年8月2日(木)～5日(日)

会場：山梨県馬術競技場

参加人数：1,200名



左から春田恭彦専務理事、山内英樹理事長、土橋武雄理事・環境委員長

●第59回全日本馬場馬術大会2007

会期：2008年3月29日(土)～30日(日)

会場：御殿場市馬術スポーツセンター

参加人数：3,000名



八木三枝子選手とラスブレイン号(写真：及川孝)。各競技会においてポスターの掲示およびパンフレットの配布を実施した

●第59回全日本障害馬術大会2007PartI

会期：2008年3月7日(金)～9日(日)／会場：JRA馬事公苑／参加人数：10,000名



後列左から山内英樹理事長、嘉納寛治副会長、米山順副会長、竹田恒和JOC会長、土橋武雄理事・環境委員長



広田龍馬選手とゼロ号(写真：(株)ユナイテッドフォトプレス)。会場には延べ1万人の観客が集まり、パンフレット300枚をすべて配布した

●馬術情報誌への環境ポスターの掲載(11月号および1月号)



(財)全日本柔道連盟

All Japan Judo Federation

●平成19年度全日本選抜少年柔道大会

会期：2007年9月17日(祝)／会場：東京武道館



●2007柔道フェスタ

会期：2007年10月28日(日)／会場：全国5力所(宮城・富山・愛知・広島・鹿児島)／参加人数：4,000名



左から佐藤愛子選手、上野雅恵選手、金丸雄介選手、井上康生選手(宮城会場)



塘内将彦選手(富山会場)



ポスターとゴミの分別(鹿児島会場)

●平成19年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

会期：2007年11月17日(土)～18日(日)
会場：千葉ポートアリーナ



横断幕



ポスターとゴミの分別

●第21回近代柔道杯全国中学生柔道大会

会期：2008年3月27日(木)～28日(金)
会場：東京武道館



(財)日本ソフトボール協会

Japan Softball Association

●第40回日本女子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント

会期：2007年11月10日(土)～11日(日)
会場：西京極野球場



本協会環境標語横断幕

●2007 JAPAN CUP 国際女子ソフトボール大会

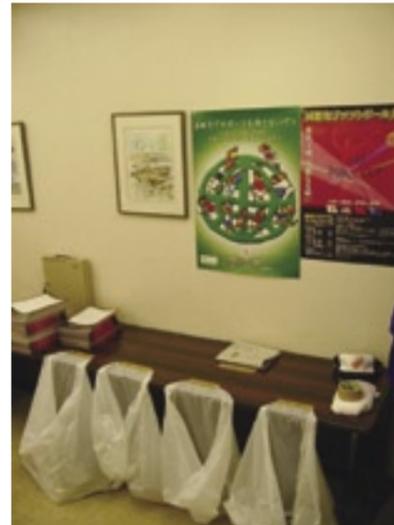
会期：2007年11月16日(金)～18日(日)／会場：横浜スタジアム



斉藤ヘッドコーチ、浦野コーチ(右)



アメリカ戦



上野由岐子投手

(財)日本バドミントン協会

Nippon Badminton Association

●バドミントン日本リーグ2007

会期：2007年12月23日(祝)／会場：高岡市民体育館(高岡市)／参加人数：2,500名



左から舛田圭太(トナミ運輸バドミントン部)、橘慶一郎(高岡市長)、綿貫民輔(財)日本バドミントン協会会長、今井茂満(同環境委員長)

会期：2007年12月9日(日)
会場：ウイングアリーナ刈谷(刈谷市)
参加人数：2,700名

会期：2007年12月20日(木)
会場：あいづ総合体育館(会津若松市)
参加人数：1,600名



潮田玲子、小椋久美子(右)



潮田玲子、小椋久美子(右)



高岡市民体育館での分別状況

(社)日本ライフル射撃協会

National Rifle Association of Japan

●第62回国民体育大会ライフル射撃競技

会期：2007年9月30日(日)～10月3日(水)／会場：秋田県由利本荘市・秋田県立総合射撃場ほか／参加人数：428名



来栖行正常務理事と坂本剛二会長(右)



深谷雅子理事



D&D 水野

●ライフル射撃情報誌への環境ポスターの掲載



(社)日本山岳協会

Japan Mountaineering Association

●国際山岳連盟(UIAA)総会

会期：2007年10月3日(水)～6日(土)
会場：長野県松本市
参加人数：約160名(38の国と地域)



会場内風景(ポスターを掲示)

●松本国際山岳自然環境会議

会期：2007年10月7日(日)～9日(火)
会場：長野県松本市
参加人数：約150名



氷河の融解と氷河湖の決壊の危機を訴えるアン・ツェリン・シェルバ(ネパール山岳協会会長)



会場内風景(アジアからの参加者等)

●(社)全日本登山体育大会

会期：2007年10月19日(金)～21日(日)
会場：山口県山口市
参加人数：約300名



式典会場内に掲載した横断幕

●(社)日本山岳協会自然保護委員総会

会期：2007年11月3日(祝)～4日(日)
会場：埼玉県秩父市
参加人数：160名



総会で挨拶する田中文男会長(日本山岳協会)

●(社)日本山岳協会新春懇談会

会期：2008年1月19日(土)
会場：東京都新宿区
参加人数：約120名



挨拶に立つ駐日ネパール大使ガネシュ・ヨンザン・タマン氏

(財)日本アイスホッケー連盟

Japan Ice Hockey Federation

●2007-2008アジアリーグアイスホッケー

会期：2007年9月22日(土)
会場：ダイドードリンコアイスアリーナ
参加人数：1,818名



シーズン開幕戦 西武プリンスラビッツ vs 日光アイスバックス

●平成19年度第2回理事会・評議員会

会期：2007年9月29日(土)
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
参加人数：88名



左から坂井寿如JIHF常務理事、土田忠JIHF常務理事、清野勝JIHF専務理事、遅塚研一JIHF副会長(JOC副会長)、富田正一JIHF会長、片岡勲JIHF副会長、君塚晋JIHF副会長、植木孝JIHF監事



●関東大学アイスホッケーリーグ戦

会期：2007年12月10日(月)
会場：ダイドードリンコアイスアリーナ
参加人数：1,600名



優勝した早稲田大学

●第63回国民体育大会冬季大会(開会式)

会期：2008年1月27日(日)
会場：長野県民文化会館



左から洲上英機JIHF専務理事、君塚晋JIHF副会長、松沢国夫長野県アイスホッケー連盟副会長、土田忠JOCスポーツ環境専門委員



●U16長野オリンピックメモリアルカップ

会期：2008年2月8日(金)
会場：長野ビッグハット
参加人数：300名



左から福田弥夫JIHF常務理事、遅塚研一JOC副会長、洲上英機JIHF専務理事



優勝した日本代表チーム

●第75回全日本アイスホッケー選手権大会

会期：2008年2月9日(土)
会場：釧路アイスアリーナ
参加人数：2,070名



準決勝戦の日本製紙クレインズvs日光アイスバックス

●第2回女子高校生大会

会期：2008年2月15日(金)～17日(日)
会場：日光霧降アイスアリーナ



女子レフェリー団

●第27回全日本女子アイスホッケー選手権大会(A)

会期：2008年3月16日(日)
会場：札幌市月寒体育館
参加人数：500名



優勝した西武プリンスラビッツ

●2008IIHF世界選手権ディビジョン1グループB

会期：2008年4月13日(日)～19日(土)
会場：札幌市月寒体育館



左から君塚晋JIHF副会長、ルネ・ファゼルIIHF会長、富田正一JIHF会長、上田文雄札幌市長、片岡勲(財)北海道アイスホッケー連盟副会長、若林仁大会実行委員、水野正人JOC副会長

(社)日本トライアスロン連合

Japan Triathlon Union

- トーシンパートナーズ チームケッズカップ
 駅伝・デュアスロンin国営昭和記念公園大会
 会期：2008年1月6日(日)／会場：国営昭和記念公園／参加人数：320名



- 第24回天草国際トライアスロン大会
 会期：2008年5月25日(日)／会場：熊本県天草市



ゴミの分別

(財)日本ゴルフ協会

Japan Golf Association

- 第40回日本女子オープンゴルフ選手権競技
 会期：2007年9月27日(木)～30日(日)
 会場：北海道 樽前カントリークラブ



- 第72回日本オープンゴルフ選手権競技
 会期：2007年10月11日(木)～14日(日)
 会場：神奈川県 相模原ゴルフクラブ



安西孝之会長と菅原春雄副会長(右)



(社)日本アマチュアボクシング連盟

Japan Amateur Boxing Federation

●第62回国民体育大会ボクシング競技

会期：2007年10月4日(木)～8日(祝)
会場：男鹿市若美総合体育館



●第77回全日本アマチュアボクシング選手権大会

会期：2007年11月14日(水)～18日(日)／会場：大分県立津久見高等学校体育館／参加人数：101名



吉本幸司氏津久見市長と川島五郎(社)日本アマチュアボクシング連盟会長(右)



大分県立津久見高等学校体育館に横断幕を掲示

(財)日本ソフトテニス連盟

Japan Soft Tennis Association

●第2回ソフトテニスジュニアジャパンカップ「競技者育成プログラム(STEP-4)」

会期：2007年11月22日(木)
会場：サンホテルフィニクス「国際会議場」



開講式であいさつに立つ笠井達夫日本ソフトテニス連盟専務理事

●第62回国民体育大会ソフトテニス競技

会期：2007年9月29日(土)～10月3日(水)
会場：大館市高館テニスコート



左から藤澤浩秋田県ソフトテニス連盟副会長、笠井達夫日本ソフトテニス連盟専務理事、鈴木洋一秋田県ソフトテニス連盟会長、林敏弘日本ソフトテニス連盟副会長、萬正一秋田県ソフトテニス連盟理事長

(社)日本フェンシング協会

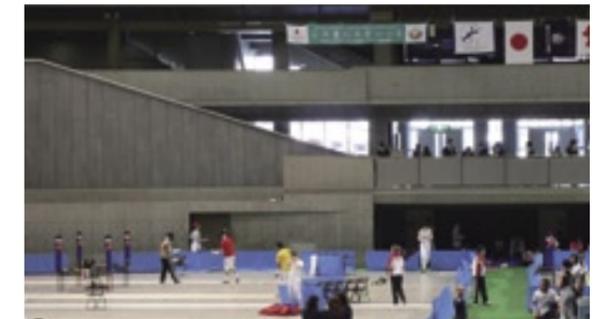
Fédération Japonaise d'Esgrime

●高円宮杯フェンシングワールドカップ2007

会期：2007年5月18日(金)～20日(日)／会場：東京体育館／参加人数：216名



張西厚志専務理事



環境保全啓発バナー

●第15回JOCジュニアオリンピックカップフェンシング選手権大会

会期：2008年1月11日(金)～14日(祝)
会場：水戸市民体育館
参加人数：512名



川合俊一氏による講演

(社)日本近代五種・バイアスロン連合

Modern Pentathlon and Biathlon Union of Japan

●第2回JOCジュニアオリンピックカップ

兼 第4回チャレンジ近代五種国際大会 in 千葉

会期：2007年9月9日(日)／会場：日本エアロビックセンター(千葉県長生郡)／参加人数：延べ250名



フットと環境保全に取り組む大会風景

(財)日本ラグビーフットボール協会

Japan Rugby Football Union

- 第44回全国大学ラグビーフットボール選手権大会
会期：2007年12月16日(日)～2008年1月12日(土)
会場：国立霞ヶ丘競技場ほか
- 第45回日本ラグビーフットボール選手権大会
会期：2008年2月23日(土)～3月16日(日)
会場：秩父宮ラグビー場ほか



- 2008年4月13日(日)日本協会ホームページ
配信ニュース「環境保全活動推進宣言」



(社)全日本アーチェリー連盟

All Japan Archery Federation

- 第23回全国中学生大会
会期：2007年7月29日(日)
会場：東京都立大井陸上競技場



穂刈穂苺美奈子理事(後列右から二人目)と子どもたち

- 第49回全日本ターゲットアーチェリー選手権大会
会期：2007年10月26日(金)～28日(日)
会場：静岡県掛川市つま恋



〈北京オリンピックアーチェリー代表女子チーム〉
左から末田 実強化本部長(副会長)、林 勇気(株式会社堀場製作所)、北島紗代子(ミキハウス)、早川浪(日本体育大学)、飯塚十朗副会長

- 全国指導者講習会
会期：2007年11月24日(土)～25日(日)
会場：松山市松山東雲高校



飯塚十朗副会長(前列中央)と指導を受けた高校生たち(四国四県より参加)

(社)日本カヌー連盟

Japan Canoe Federation

- 第30回NHK杯全日本選抜カヌースラローム選手権大会
会期：2007年4月29日(日)
会場：群馬県みなかみ町



左から二人目、福田康夫首相(前会長)も観戦

- 平成19年度日本カヌースラローム選手権大会
会期：2007年10月26日(金)～28日(日)
会場：愛知県豊田市



(財)全日本空手道連盟

Japan Karatedo Federation

- 2007日本スポーツマスターズ滋賀〈空手道〉
会期：2007年9月15日(土)～17日(祝)
会場：大津市皇子が丘公園体育館



蓮見圭一副会長

- 第35回全日本空手道選手権大会
会期：2007年12月9日(日)
会場：日本武道館



(財)全日本ボウリング協会

Japan Bowling Congress

- JOCジュニアオリンピックカップ
第31回全日本高校ボウリング選手権大会
会期：2007年7月24日(火)～25日(水)
会場：品川プリンスホテルボウリングセンター
参加人数：227名



左から赤木恭平会長、浅田梨奈選手、
(女子優勝)、高橋弘選手(男子優勝)、
相澤隆也専務理事

- NHK杯争奪第41回全日本選抜ボウリング選手権大会
会期：2007年5月11日(金)～13日(日)
会場：東京都国分寺市国分寺パークレーン
参加人数：277名



スポンサー展示ブースにJOC環境ポスターを掲示

- 平成19年度第1回定時評議員会・理事会
会期：2007年5月27日(日)
会場：東京都港区田町ハイレーン会議室
参加人数：約80名

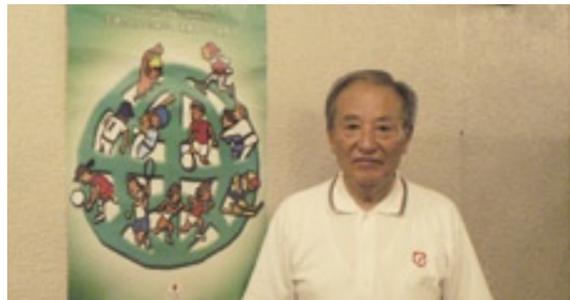


赤木恭平会長、木林博一副会長、臼井日出男副会長以下理事各位

全日本アマチュア野球連盟

Baseball Federation of Japan

- 第89回全国高等学校野球選手権大会
会期：2007年8月8日(水)～22日(水)
会場：阪神甲子園球場



脇村春夫全国高等学校野球連盟会長

- 第80回記念選抜高校野球大会
会期：2008年3月22日(土)～4月4日(金)
会場：阪神甲子園球場



(社)日本カーリング協会

Japan Curling Association

- 第25回日本カーリング選手権大会
会期：2008年2月6日(水)～11日(祝)
会場：長野県 スカップ軽井沢
参加人数：90名



選手控え室にポスターを掲示

(社)日本ビリヤード協会

Nippon Billiard Association

- 第8回全日本学校対抗ナインボール選手権大会
会期：2008年3月20日(祝)
会場：東京・池袋 ビリヤード・ロサ



会場でポスター掲示



参加賞として作成配布されたエコバッグを持つ参加選手たち。
左から京都大学、琉球大学、東京農業大学、京都大学

JOC環境パートナー 佐川急便(株)

JOC Environmental Partner Sagawa Express Co.,Ltd

●オリンピックデーラン 喜多方大会

会期：2007年7月15日(日)



●オリンピックデーラン 岐阜大会

会期：2007年8月4日(土)



●オリンピックデーラン 土別大会

会期：2007年9月30日(日)



●オリンピックデーラン ひたちなか大会

会期：2007年10月21日(日)



●オリンピックデーラン 神戸大会

会期：2007年11月4日(日)



●オリンピックデーラン 長野大会

会期：2007年11月11日(日)



●オリンピックデーラン 愛媛大会

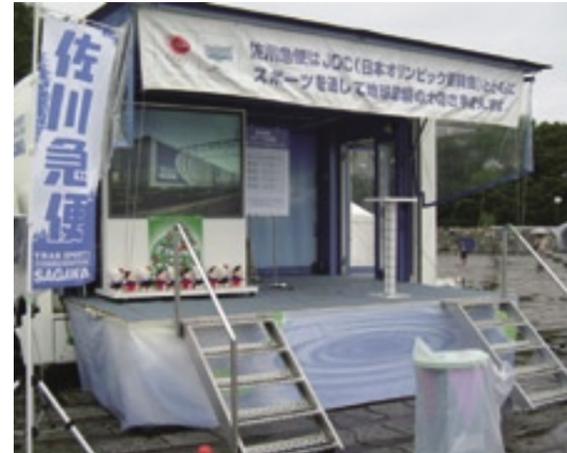
会期：2008年1月13日(日)



●2007オリンピックフェスティバル

会期：2007年10月8日(祝)

会場：駒沢オリンピック公園総合運動場



●エコプロダクツ2007

会期：2007年12月13日(木)～15日(土)

会場：東京ビッグサイト

参加人数：164,903名



●ENEX2008

会期：2008年1月30日(水)～2月1日(金)※東京会場

会場：東京ビッグサイト

参加人数：50,818名



NPO日本オリンピックアカデミー

Japan Olympic Academy (JOA)

●日本オリンピックアカデミー総会

会期：2007年5月27日(日)／会場：明治大学アカデミー コモン



小野清子 JOA副会長と猪谷千春 JOA会長(右)

●JOAユースセッション2007

人見絹枝生誕100年記念シンポジウム

会期：2007年8月4日(土)／会場：岡山市 環太平洋大学／参加人数：300名



●第30回日本オリンピックアカデミーセッション

会期：2007年11月17日(土)／会場：上智大学四谷キャンパス



日本トップリーグ連携機構

Japan Top League

●2007年度審判研修会

会期：2007年8月18日(土)～19日(日)

会場：国立スポーツ科学センター



パネルディスカッション参加者。左から山本浩NHK解説主幹、利根川忠史バレーボール審判、宮武庸介バスケットボール審判、市原則之日本トップリーグ連携機構専務理事



「動体視力について」スポーツビジョン研究所の講演



グループワーク発表

(財)日本体育協会

Japan Sports Association

●平成19年度日本体育協会加盟団体事務局長会議

会期：2007年4月25日(水)／会場：岸記念体育会館 地下講堂



水野正人JOC副会長



●第62回国民体育大会本大会

会期：2007年9月29日(土)～10月9日(火)／会場：秋田県立中央公園県営陸上競技場ほか



左から佐野和夫JOCスポーツ環境専門委員、水野明人社長、林利博日本水泳連盟会長、水野正人JOC副会長、青木剛日本水泳連盟副会長

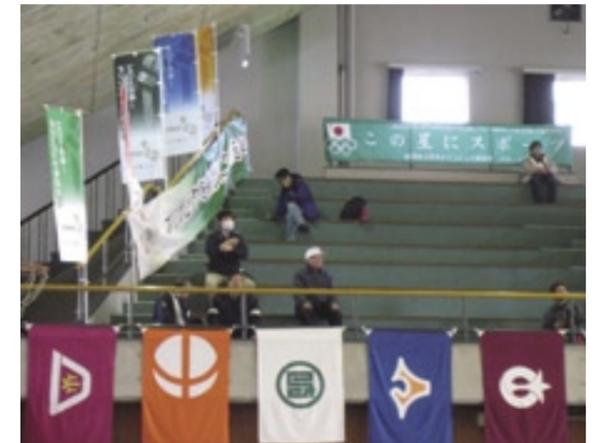


●第63回国民体育大会冬季大会

会期：2008年1月26日(土)～2月22日(金)／会場：長野県／参加人数：4,680名



開会式



長野市若里多目的スポーツアリーナ(ビッグハット)選手通路



休憩所

●2008生涯スポーツコンベンション

会期：2008年2月15日(金)／会場：リーガロイヤルホテル広島／参加人数：904名



日本体育協会の展示ブースにてポスターを掲示

●日本スポーツマスターズ2007びわこ大会

会期：2007年9月14日(金)～20日(木)

(開会式・前夜祭)

会場：大津プリンスホテル
参加人数：1,200名



(バスケットボール競技)

会場：滋賀県立体育館
参加人数：1,280名



(「宇津木さんのスポーツ教室」)

会場：滋賀県立森山北高等学校
参加人数：200名



宇津木妙子さんを囲んで

(ゴルフ競技)

会場：琵琶湖カントリークラブ



(水泳・テニス競技)

会場：滋賀県立彦根総合運動場
参加人数：900名



(ソフトテニス競技)

会場：長浜ドーム



環境省との連携

Ministry of the Environment

●環境省の「チームマイナス6%」広告に協力

2008年3月21日付読売新聞朝刊

Sports loves the earth

スポーツ・ラブズ・アース

陸上をやることは、誰よりも、大地や空気に感謝することだ。
プロ陸上競技選手 為末大

財団法人日本陸上競技連盟は、チーム・マイナス6%に参加しています。

温暖化がすすむと、水不足になる。飲む水がないのに、泳ぐ水があるだろうか。
競泳選手 北島康介

財団法人日本水泳連盟は、チーム・マイナス6%に参加しています。

サッカーファンが立ち向かえば、温暖化防止は、全世界の運動になる。
JFA環境プロジェクトメンバー 岡田武史

財団法人日本サッカー協会は、チーム・マイナス6%に参加しています。

温暖化がすすむ。敵は、前だけではなく、空にもいる。
プロテニスプレイヤー 杉山愛

財団法人日本テニス協会は、チーム・マイナス6%に参加しています。

温暖化がすすむと、ぜったいに消えるスポーツがある。
フリースタイルスキー モーグル 上村愛子 (北陸選手会所属)

財団法人全日本スキー連盟は、チーム・マイナス6%に参加しています。

温暖化を止めるのは、個人戦ではない。世界がひとつになる団体戦だ。
体操選手 富田洋之 鶴見虹子 (男子体操選手クラブ)

財団法人日本体操協会は、チーム・マイナス6%に参加しています。

みんなが手を上げれば温暖化はブロックできる。
全日本女子バレーボールチーム監督 柳本晶一

財団法人日本バレーボール協会は、チーム・マイナス6%に参加しています。

温暖化を止めるためには冬を愛する人間が先頭に立つことだ。
スピードスケート 長島圭一郎 吉井小百合
フィギュアスケート 浅田真央 高橋大輔
ショートトラック 寺尾悟 桜井美馬

財団法人日本スケート連盟は、チーム・マイナス6%に参加しています。

日々の積み重ねしか道がないのは、柔道も温暖化対策も同じだ。
柔道選手 井上康生

財団法人全日本柔道連盟は、チーム・マイナス6%に参加しています。

温暖化に勝たなければ、地球に、次のピリオドはない。
レスリング選手 浜口京子 吉田沙保里

財団法人日本レスリング協会は、チーム・マイナス6%に参加しています。

温暖化でスポーツを消さないで!

STOP THE 'GLOBAL WARMING'
子供たちのために、未来をとり返そう

みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

財団法人日本オリンピック委員会
JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
オリンピックを日本に、2016年!

温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量を6%削減する。京都議定書で定めた日本の目標です。2008年4月、その約束の時が始まります。www.team-6.jp [マイナス6%] と検索してください。

66

67

(特非)東京オリンピック招致委員会

Tokyo 2016 Olympic Games Bid Committee



河野一郎東京オリンピック招致委員会事務総長



馬術競技などの会場となる「海の森」での植樹イベント。
石原慎太郎東京都知事(左から二人目)や会場設計者の安藤忠雄氏(右端)も参加



校庭芝生化



臨海部の東京風車



太陽光発電(朝霞浄水場)



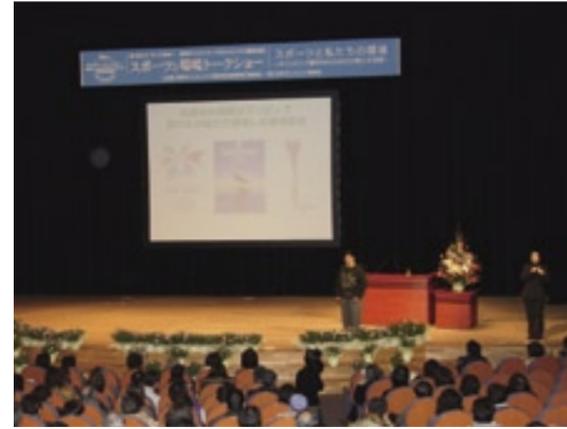
バイオディーゼル車を使用する都バス

JOCスポーツ環境専門委員会

JOC Sports and Environment Commission

●長野オリンピック10周年記念「スポーツと環境トークショー」

会期: 2008年2月11日(祝) / 会場: 長野市若里市民文化ホール / 参加人数300名



あいさつに立つ小林寛長野オリンピックムーブメント推進協会会長



水野正人JOC副会長



スピーカークのテーブルを五輪色に演出



〈司会〉
山本浩NHK解説主幹



〈ゲスト〉
伊藤みどり氏



大林素子JOC環境アンバサダー



松岡修造JOC環境アンバサダー

●スポーツ環境アンバサダー会議



(前列) 左から塚原光男、瀬古利彦、大林素子、小林孝至の各スポーツ環境アンバサダー



塚原健司



松岡修造



岩崎恭子



岡田武史



黒岩敏幸



八木沼純子



阿武教子

●JOCスポーツ環境専門委員会



(前列) 左から佐野和夫副委員長、板橋一太委員長、市原則之JOC総務委員長、田嶋幸三副委員長、山口香委員
(後列) 左から萩原健司委員、土田忠委員、鎌賀秀夫委員、朝倉正昭委員、橋爪功委員、別所恭一委員、水野正人JOC副会長



(前列) 左から水野正人JOC副会長、市原則之JOC総務委員長、板橋一太委員長、山口香委員
(後列) 左から伊藤晃委員、朝倉正昭委員、土田忠委員、田嶋幸三副委員長、橋爪功委員、鎌賀秀夫委員



平松純子委員



松岡修造委員



山本征悦委員

●JOC事務局内レクチャー



■環境基本理念

財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、オリンピック・ムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC事務所の環境への取り組みを実践し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより地球環境の保全に貢献する。

■行動指針

1. JOC事務所において、電力の節減、紙の有効利用などの省資源及び資源リサイクルを推進する。
2. 新たに物品を調達するにあたってはグリーン購入を優先する。
3. 環境に関する法的要求事項及び、その他の要求事項を遵守する。
4. 環境の教育啓発活動の推進によって、全ての職員が環境方針を理解し、その実現に努めるとともに、環境方針を外部にも公表する。

平成18年3月17日
財団法人日本オリンピック委員会
会長 竹田 恆和

平成20年度 スポーツ環境専門委員会 啓発・実践活動用ポスター



■写真によるスポーツ環境の啓発活動報告…………… 2 *Photographic report of activities on Sport and Environment*

本文目次

Contents

1. スポーツ環境委員会活動の意義について……………	75
<i>Objective of the JOC Sport and Environment Commission</i>	
2. 第3回 JOCスポーツと環境・地域セミナー開催報告……………	76
<i>Report of the 3rd JOC Regional Seminar on Sport and Environment</i>	
3. 第4回 スポーツと環境担当者会議開催報告……………	82
<i>Report of the 4th National Sports Federations Conference on Sport and Environment</i>	
4. スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について……………	85
<i>Issues regarding awareness and implementation activities</i>	
(1) JOC環境委員会及び各団体の活動状況……………	85
<i>Activities of the commission, JOC affiliated NFs and organizations</i>	
(2) 本会加盟団体スポーツ環境担当一覧……………	114
<i>List of environment commissions in each JOC affiliated NFs and organizations</i>	
(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について……………	116
<i>Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs</i>	
(4) 国際大会での活動……………	119
<i>JOC environmental activities at the International Games</i>	
(5) 環境省との連携について……………	120
<i>Collaboration with the Ministry of Environment</i>	
(6) スポーツと環境についてのレクチャー原稿……………	122
<i>Lecture draft on Sport and Environment</i>	
(7) IOCのNOCに対する環境活動ガイドライン……………	132
<i>IOC environmental guideline</i>	
(8) JOCスポーツ環境アンバサダーについて……………	134
<i>JOC Sports environment ambassadors</i>	
5. IOCスポーツと環境委員会について……………	135
<i>IOC Sport and Environment Commission</i>	
(1) IOCスポーツと環境委員会……………	136
<i>IOC Sport and Environment Commission</i>	
(2) 第7回 IOCスポーツと環境世界会議……………	137
<i>7th IOC World Conference on Sport and Environment</i>	
(3) IOCスポーツと環境・東アジア地域セミナー……………	152
<i>IOC Regional Seminar on Sport and Environment</i>	
(4) IOCスポーツと環境賞……………	164
<i>IOC Award for Sport and Environment</i>	
6. OCAスポーツと環境委員会……………	166
<i>OCA Sport and Environment Committee Meeting</i>	

1 スポーツ環境委員会活動の意義について

Objective of the JOC Sport and Environment Commission

スポーツ界は何ができるのか

京都議定書に継ぐ2013年からの地球温暖化対策の新しい枠組みをめぐって各国の間で駆け引きが行われている。米国や中国など未加入の国に仲間に入ってもらい、温室効果ガスの削減努力を皆で約束しようというのが新しい枠組みのポイントだが、6月の洞爺湖サミットはその出発点になるかもしれない。

昨年の気候温暖化に関する国際パネル（IPCC）では前回会議の結論を一步進めて現状のまま推移すれば今世紀中にさらに大規模な温暖化がもたらされ気候システムに多くの変化が引き起こされること、しかし、まだ手遅れではなく、今後20～30年間に必要な行動が行われればまだ間に合うという結論が発表された。

確かに、様々なデータや具体的な事実、例えば北極海の氷が夏場に溶けて消滅し北極熊の棲息が危機に陥るかもしれないことや、極地や山岳の高地を覆っていた氷河が後退している事実などの情報に触れて温室効果ガスや環境問題への人々の意識は確実に高まっている。しかし、皆がこれを自分の問題として日常生活の中で何かの行動に立ち上がるかという点必ずしもそう言えないところがある。

駅頭や車内のポスターですっかり有名になったが、「氷や雪がなければ出来ないスポーツがある」とか「砂浜がきれいであればビーチスポーツはできない」というキャッチコピーからわかるようにスポーツ界にとって環境問題は深刻である。しかし、多くのスポーツ人が環境問題に立ち上がっているのはそれだけが理由ではない。スポーツ人は環境に対して非常に敏感である。また、スポーツ人としての責任ということもある。スポーツは選手と観客が一体となった時に最高に盛り上がる。スポーツ選手は観客から力もらい、観客は選手とともに感動や興奮や喜びを味わう。それだけに選手は憧れの対象となる。だからその発言や行動は大きな影響力を持つ。スポーツ人が地球環境の危機について関心を持っているという事実はどんなに国民の意識や行動に影響を及ぼすかわからないのである。もし国民の共感を呼び、国民が一緒に環境保全のために立ち上がってくれるならば素晴らしいことである。

スポーツ環境委員会では委員が所属する競技団体での環境活動を発表する慣わしだが、年々、活動内容も豊かになり、啓発のためのポスター、パンフレット、横断幕から具体的なエコ活動として競技会場でのゴミの分別回収はもはや一般的になっている。今後、3Rs（リデュース、リユース、リサイクル）の活動をさらにダイナミックに展開する必要がある。また、電気、水、紙の消費量削減もあるし、最近耳にする機会が多くなっているカーボン・オフセットのための様々な活動もある。

競技団体の努力によって大きな競技大会では環境問題への啓発や様々な取り組みが行われるようになったが、小規模の大会、あるいはローカルな大会ではまだ一つの感があるし、さらに、選手にしても観客にしても競技会場に留まらず競技会場の外でも環境活動に積極的に取り組む機運を醸成することも今後の大きな課題である。

財団法人日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門委員会
委員長 板橋 一太

7. 関連資料	167
References	
(1) JOCスポーツ環境専門委員会名簿	167
Roster of JOC Sport and Environment Commission	
(2) IOC組織・機構図	168
IOC Organization and Structure Chart	
(3) IOCスポーツと環境委員会小史	169
Brief history of the IOC Sport and Environment Commission	
(4) JOCスポーツ環境委員会小史	170
Brief history of the JOC Sport and Environment Commission	
(5) オリンピックムーブメント アジェンダ 21	171
Olympic Movement's Agenda 21	

2 第3回JOCスポーツと環境・地域セミナー 開催報告

Report of the 3rd JOC Regional Seminar on Sport and Environment

- 趣 旨:** 財団法人日本オリンピック委員会 (JOC) では平成13年度 (2001年) からスポーツ環境委員会を設置し、啓発・実践活動を推進してまいりました。この度その活動のひとつとして、地域セミナーを開催しました。このセミナーはスポーツ界における環境保全の啓発・実践活動の必要性を理解してもらうもので、東京2016オリンピック招致も含めスポーツに携わっている皆様及びNPOスポーツ環境関係団体他と共に環境保全活動を考え、ご理解と実践へのご協力をお願いするものです。
- 共 催:** 財団法人日本オリンピック委員会、東京都、特定非営利活動法人東京オリンピック招致委員会
- 後 援:** 文部科学省、環境省、財団法人日本体育協会、財団法人東京都体育協会
- 日 時:** 平成19年9月14日 (金) 13:30 ~ 17:00
- 場 所:** 都民ホール 都議会議事堂 1階南側
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1 電話番号 03-5321-1111
- 出席者:** JOC役員、スポーツ環境専門委員、アスリート専門委員
JOC、日本体育協会加盟団体のスポーツと環境担当者
関東地区の体育協会、教育委員会の環境担当者及びスポーツ指導者
ワールドワイドパートナー、JOCオフィシャルパートナー、JOCパートナー都市の環境担当者、NPOスポーツ環境関係団体、他 約200名
- プログラム:**

13:30	主催者挨拶	財団法人日本オリンピック委員会 副会長 水野 正人 東京オリンピック招致本部長 荒川 満 特定非営利活動法人 東京オリンピック招致委員会 事務次長 武市 敬
13:45	基調講演	環境省地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室 室長 染野 憲治 IOCスポーツと環境委員 水野 正人
15:00	パネルディスカッション	コーディネーター: JOCスポーツ環境専門委員長 板橋 一太 パネリスト: 環境省地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室 室長 染野 憲治 特定非営利活動法人 東京オリンピック招致委員会 事務次長 武市 敬 IOCスポーツと環境委員 / JOC副会長 水野 正人 東京都環境局 環境政策部 副参事 小沼 博靖 JOC理事 / スポーツ環境専門委員 平松 純子
17:00	閉会	

■ パル・シュミット IOCスポーツと環境委員長からのメッセージ

Dear President Takeda,

On behalf of the International Olympic Committee's Sport and Environment Commission, I am pleased to convey my congratulations and greetings to sports friends in Japan on the occasion of the regional seminar on sport and the environment, hosted by the Japanese Olympic Committee in Tokyo.

This is my twelfth year as the Chairman of the IOC Sport and Environment Commission which was founded in 1995. Our Commission has recognized that many of the world's environmental problems are worsening year by year. Especially global warming which is causing weather extremes such as extensive flooding, powerful hurricanes, excessive rain, droughts and tornados that affect the lives of people all round the world. Today, we say "Global Warming" is "Global Warning".

Tokyo, the capital of Japan and seat of JOC, like all the great metropolitan areas of the world has a responsibility to be an environmental role model. I have learnt with pleasure of the leadership Tokyo is showing for the protection of the environment with cutting edge technology for recycling.

I hope your seminar will raise the awareness of environmental issues in sport and provide concrete measures for all sportspersons to take and help mega events to showcase conservation measures.

Yours sincerely,



Pál Schmitt
Chairman
IOC Sport and
Environment Commission

IOCスポーツと環境委員会を代表し東京で開催される第3回JOCスポーツと環境地域セミナーの開催に喜んでお祝いの挨拶を申し上げます。

IOCのスポーツと環境委員会が1995年に創設されて以来、委員長を務めております。委員会として近年、時を経る毎に世界の環境が悪化していることを認識しています。特に、地球温暖化が引き起こす大きな洪水や脅威的な台風、また大雨、干ばつや竜巻が地球のいたる所で人間の生活に影響を与えています。今や、「地球温暖化は地球への警告」です。(Global Warming is Global Warning)

JOCパートナー都市の東京は日本の首都であり、世界有数の都市として環境面で世界の模範である責任があります。東京がリサイクルの最先端技術で環境保全のリーダーシップを取られることを嬉しく思います。

このセミナーがスポーツに関する皆さんに大きなスポーツ大会の環境保全対策の模範となり、環境保全の啓発を高揚し具体的な対策を示すものであることを期待しています。

IOC スポーツと環境委員会
委員長 パル・シュミット

第3回JOCスポーツと環境・地域セミナー出席者

所属先	氏名
日本オリンピック委員会	水野正人
	市原則之
	板橋一太
	青木剛
	笠谷幸生
	竹内浩
	平松純子
	佐野和夫
	伊藤晃
	鎌賀秀夫
日本陸上競技連盟	有澤政雄
	瀬戸邦宏
	斎藤文子
日本水泳連盟	齋藤由紀
	長谷川雪恵
日本サッカー協会	志水かず美
全日本スキー連盟	早坂毅代司
	瀬尾洋
	加増恵子
日本テニス協会	飯田藍
	宗中正
	鈴木敦子
	関口久美
日本ボート協会	竹内浩
日本アマチュアボクシング連盟	吉森照夫
日本体操協会	立川武雄
	千葉末次
日本バスケットボール協会	池谷幸雄
	田所学而
日本アイスホッケー連盟	松岡憲四郎
	清野勝
日本セーリング連盟	君塚晋
日本ウエイトリフティング協会	岡田達雄
日本ハンドボール協会	岡本実
	稲垣英二
日本ソフトテニス連盟	川上憲太
日本卓球協会	兼子真
日本相撲連盟	瀬戸幹男
日本馬術連盟	竹内敏子
全日本柔道連盟	嶋勝秀
	矢作直也
	坂本健司
日本ソフトボール協会	前田梨依
	金野洋祐
全日本剣道連盟	横田博之
日本近代五種・バイアスロン連合	長尾英宏
日本ラグビーフットボール協会	坂野勝
	高野敬一郎

所属先	氏名
日本ラグビーフットボール協会	岩上教行
日本山岳協会	若月東兒
	寺内丈行
日本カヌー連盟	本田彰
全日本アーチェリー連盟	島田晴男
	穂苅美奈子
日本クレイ射撃協会	大江直之
全日本なぎなた連盟	関祐介
日本武術太極拳連盟	渡辺敏雄
日本トライアスロン連合	松生治子
	森重寛
	鈴木信之
日本ゴルフ協会	波井結子
日本ダンススポーツ連盟	伊藤定
日本セパタクロー協会	加瀬建造
	本多洋実
日本体育協会	濱崎正彰
	田村玲子
	森田健一
日本野球連盟	後勝
日本綱引連盟	須藤誠
日本パワーリフティング協会	東郷達夫
日本ローラースポーツ連盟	清宮邦雄
日本スポーツバトン協会	小林和代
茨城県体育協会	宮部正
栃木県体育協会	田村吉宏
群馬県体育協会	小林茂
東京都体育協会	山川信一郎
神奈川県体育協会	細川繁吉
千葉県議会	遠藤ひでき
東京都陸上競技協会	大野弘
東京都水泳協会	佐藤貴玖子
東京都サッカー協会	濱出雄三
	安田一男
東京都スキー連盟	植田昌利
東京都テニス協会	八橋
東京都ボート協会	森本健一
	東晃
東京都体操協会	藤野洋
東京都バスケットボール協会	藤田忠義
東京都ウエイトリフティング協会	福田誠
東京都ハンドボール協会	竹田哲
東京都ソフトテニス連盟	稲垣英二
	大塚文雄
東京都卓球連盟	池田光雄
	渡邊順子
	桑原繁夫
	佐藤勲

所属先	氏名
東京都馬術連盟	宮木康光
東京都フェンシング協会	川名宏美
	井原健三
東京都柔道連盟	福田二郎
東京都ソフトボール協会	渡辺軍三
	岡本浜夫
東京都バドミントン協会	松村由紀子
東京都弓道連盟	根岸知子
	田中喜代
東京都剣道連盟	高山昭人
	伊藤豊
東京都山岳連盟	蓮見智代
	本木總子
東京都アーチェリー協会	徳永邦光
東京都空手道連盟	小野寺長久
東京都アイスホッケー連盟	山崎昌太郎
東京都クレイ射撃	石川伸吉
	高橋育夫
東京都なぎなた連盟	菊本哲也
	梶山武子
東京都ローラースポーツ連盟	吉井美恵子
東京都ダンス連盟	荒関知子
	北原利晃
埼玉県テニス協会	内山雅允
神奈川県テニス協会	浜口昭男
栃木県テニス協会	上羅廣
群馬県テニス協会	田中章一
目黒区体育協会	井村孝一
渋谷区体育協会	須田一
北区体育協会	寺脇登
練馬区体育協会	矢部一
	門田繁
足立区体育協会	石川正子
八王子市体育協会	志村雅
三鷹市体育協会	望月国芳
青梅市体育協会	吉田和夫
府中市体育協会	本橋弘
町田市体育協会	山口善弘
日野市体育協会	大関友司
	田村信一
国立市体育協会	渡辺俊雄
	吉川保
東久留米市体育協会	吉成順次
	三沢佳紀
武蔵村山市体育協会	佐藤進
瑞穂町体育協会	小島泰義
	峰岸秀征
	梶山喬
	片岡洽
	宮下清住
	原田永司

所属先	氏名
新島村体育協会	前田寿夫
	前田芳徳
東京都小学校体育連盟	服部鋭司
	津吹猛司
東京都体育指導委員協議会	深瀬茂夫
東京マラソン2008事務局	石上敬久
世界自然保護基金ジャパン(WWF-ジャパン)	小柳和夫
環境エネルギー政策研究所(ISEP)	山下紀明
気候ネットワーク	功力聡恵
2016年東京オリンピックを望む学生の会	豊田直紀
	山田章仁
	市来孝人
	井上貴洋
	柴田裕香
	込山努
環境省	岡本淳平
東京オリンピック招致本部	清武正孝
	高橋繁敏
ミズノ株式会社	佐々木美土里
	小林あかね
佐川急便株式会社	小塚晃弘
	川合雅晴
ゼネラルエレクトリック・ジャパン株式会社	南和明
株式会社日本航空	中川理子
ロッテ・アド	吉田修
電通ヤング・アンド・ルビカム株式会社	堀本祐司
	山口伸介
株式会社アサツーディ・ケイ	吉本修治
株式会社博報堂	松本芳幸
株式会社博報堂DYメディアパートナーズ	酒井達郎
	川廷昌弘
	古里秀美
毎日新聞社	明石康宏
	稲村彰映
JOCHP・機関誌オリンピック編集チーム	石井朗生
	夫彰子
アフロスポーツ	大崎暁美
フォート・キシモト	鈴木歩美
JOC事務局	青木こずえ
	中西祐介
東京都環境局	小糸恵介
	日比野哲郎
	山本佳代子
	秋葉将秀
	松岡公介
	依田京子
	本多尚美
	稲津友紀子
	加藤祐子
	下山恭典
	川島淳成

第3回JOCスポーツと環境・地域セミナー

JOCパートナー都市の東京で開催

去る9月14日、第3回JOCスポーツと環境・地域セミナーが都庁・都民ホールで行われ、約250名が参加した。JOC・水野正人副会長、東京オリンピック招致本部・荒川満本部長、東京オリンピック招致委員会・武市敬事務次長など、主催者の挨拶を皮切りに、基調講演とパネルディスカッションが行われた。

写真提供：アフロスポーツ



第1部 染野室長と水野副会長による基調講演

最初に、環境省地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室・染野憲治室長が、基調講演で近年の異常気象を取り上げ、台風の大規模化、グリーンランドの氷やチェルバ氷河の融解、世界でいちばん最初に沈むといわれている国・ツバルなど、地球温暖化の現状を紹介した。

染野室長は「21世紀末には平均気温が6.4℃上昇するといわれている。人体や農作物などの生態系に与える影響は、1～2℃でも大変なものである」と述べ、「雪がなければスキーができない、水がなければ泳ぐができないというように、温暖化によって影響を受けるスポーツもある。その選手たちとのコラボレーションによって、国民に“気づき”を促す運動を推進し、環境問題は他人事ではなく私事だという危機意識を持つことで、スポーツとの連携を図りながら広めたい」と訴えた。

環境省では「チーム・マイナス6%」というキャッチコピーを掲げて企業などと協力し、1人、1日、1kg、CO₂削減を目

指している。

続いて、IOCスポーツと環境委員会の委員を務めるJOC・水野正人副会長から、IOCが進めている環境保全についての報告が行われた。水野副会長は、「蛙は自分が浸かっている水の温度が徐々に上がっても適応して生きられる。しかしずっと浸かっていると高温になっていることに気付かないうちに茹だって死んでしまう。人間も同じことが言えるのではないか。だからきちんと環境を保全していかなければならない」と語った。さらに、「1970年の札幌オリンピックで恵庭の滑降コースを造るときに環境保全団体が、コースを造るのはよいが、オリンピックが終わったら木をきちんと植えてほしいという要望をIOCへ提出。今、恵庭のコースは、コースの面影がないほどに木が生長している」というエピソードを披露。これが、IOCが初めて行った環境保全であると語った。また1994年、IOC創立100周年の年にファン・アントニオ・サマランチ前会長が、これまでオリンピック運動はスポーツと文化という2本の柱であったが、環境を加えて3本柱にしようと提唱したことで、オリンピック憲章に初めて「環境」という項目が加えられた、と紹介。「混ぜればごみ、分ければ資源」。



会場の笑いを誘いながら、ユーモアたっぷりの講演を行った水野副会長。



染野室長は、非常に興味深い、北京の環境状況についても発表した。

今まで排出していたものを資源として利用し、廃棄物ゼロの“ゼロ・エミッション”を目指す循環型社会を形成する。環境を守りながら経済も発展する“持続可能な開発を行う”ことが大切である」と継続の大切さを強調した。

その後、水野副会長は、JOCの各加盟団体がやっている横断幕の掲揚やポスターの掲示、パンフレットの配布などの啓発活動や、ごみの分別、マイカップの使用などの実践活動について紹介した。

第2部 5名のパネリストを迎えたパネルディスカッション

JOCスポーツ環境専門委員会・板橋一太委員長がコーディネーターを務め、先に登場した染野室長と水野副会長に加えて、東京オリンピック招致委員会・武市敬事務次長、東京都環境局環境政策部・小沼博靖副参事、JOC理事/スポーツ環境専門委員会・平松純子委員がパネリストとして登壇し、パネルディスカッションが行われた。

まずは武市事務次長が、2016年の東京オリンピック誘致のためにIOCへ提出するファイルのなかで、環境が大きなテーマとなっていることを紹介した。2016年の第31回オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会には、東京を含め、バクー(アゼルバイジャン)、シカゴ(アメリカ)、ドーハ(カタール)、マドリード(スペイン)、プラハ(チェコ)、リオデジャネ



基調講演やパネルディスカッションに、熱心に耳を傾ける聴講者。

イロ(ブラジル)の7都市が立候補している。今後は、2008年6月のIOC理事会において絞り込まれた5都市程度が、2009年2月に300ページにも及ぶ立候補ファイルを提出し、10月のIOC総会で開催都市が決定するが、武市事務次長は、東京オリンピック招致委員会では各方面と協力しながら、計画を立て準備を進めていくと語った。

東京都庁の環境保全や計画・調整を担当している小沼副参事は、東京都が行っている最新の環境保全対策を発表。東京オリンピック開催概要計画書に示されている大会コンセプトで、“世界一コンパクト”“先端技術を駆使”に並んであげられているのが、“環境優先”であると語り、それに伴って東京都では、カーボンマイナス、環境負荷を抑制した移動、水と森の復活、廃棄物ゼロ、の4テーマを柱とし環境ガイドラインを作成したと述べ、「東京を、環境と大都市が調和した新しい都市モデルとして、東京オリンピックでアピールしたい」との考えを示した。また、2016年の東京オリンピックを視野に入れて環境都市づくりの方向性を示した都市戦略として東京都が作成した「10年後の東京～東京が変わる～」を紹介した(この冊子は都庁HPからダウンロード可能)。

フィギュアスケートの審判競技役員として活躍してきたオリンピックの平松委員からは、フィギュアスケートを通じての環境問題について「1980年ごろまで、スケートリンクに氷を張るためには、アンモニアやフロンが主流だったが、現在は代替フロンが一般的。もっと地球に優しい方法をと、開発研究が進んでいる」と語られた。また、「冷凍機の運転に際して問題になっている消費電力も、建物の断熱や容積を意識した建設を心がけるなど、リンクそのものの建設に工夫がされている。氷面のメンテナンスに使う車も、ガソリン車から電気車に移行し、空気汚染を防ぐようにしている」とスケート界での取り組みが紹介された。さらに平松委員は、2006年に行われた神戸市国体開催によって新たに造られた施設は、プールだけであること、またそのプールは、冬はスケートリンクとして使用できるものであることも紹介。最後に、「私はオリンピックとして、スポーツと環境について積極的に取り組んでいかなければならないし、そのPRをするのは、私たちの大きな役目である。スポーツ界が率先して環境問題に取り組むため、皆さんの理解と協力を得たい」と述べた。

3 第4回スポーツと環境担当者会議 開催報告

Report of the 4th National Sports Federations Conference on Sport and Environment

- 趣 旨: 日本オリンピック委員会(JOC)は平成13年度からスポーツと環境に関する啓発・実践活動を推進してきた。JOC加盟団体の環境担当者及び携わっている方々に活動を理解いただき、環境保全について相互の連携を図るために標記会議を開催した。
- 主 催: 財団法人日本オリンピック委員会
- 後 援: 文部科学省、環境省、財団法人日本体育協会
- 日 時: 平成19年11月30日(金)13:30 ~ 17:30
- 場 所: 国立スポーツ科学センター 2階 研修室
〒115-0056 北区西が丘3-15-1 TEL:03-5963-0200
- 出席者: ①本会役員、スポーツ環境専門委員、アスリート専門委員、スポーツ環境アンバサダー
②本会加盟団体環境担当
③JOCオフィシャルパートナー / ワールドワイドパートナー 約100名
- プログラム: テーマ「計画から実践へ」

13:30	開会 司会 スポーツ環境アンバサダー 主催者挨拶 JOC副会長	八木沼 純子 水野 正人
13:50	JOCのスポーツと環境保全・啓発活動について JOCスポーツ環境専門委員会委員長	板橋 一太
14:20	「チームマイナス6%」について 環境省地球環境局 地球温暖化対策課国民生活対策室主査	清武 正孝
14:40	環境保全・啓発活動への取り組み事例紹介について JOCスポーツ環境専門委員会副委員長	田嶋 幸三
15:00	情報交換(ディスカッション)	
15:30	第7回IOCスポーツと環境世界会議開催報告について IOCスポーツと環境委員会委員 JOCスポーツ環境専門委員会副委員長 環境保全・啓発活動への取り組み事例紹介について (財)日本陸上競技連盟総務委員会総務部幹事	水野 正人 佐野 和夫 瀬戸 邦宏
16:40	2016年東京オリンピックの招致活動と環境に対する 配慮について (NPO法人)東京オリンピック招致委員会事務次長	武市 敬
17:00	質疑応答	
17:30	閉会 JOCスポーツ環境専門委員会委員長	板橋 一太

■第4回スポーツと環境担当者会議出席者

所 属 先	氏 名	所 属 先	氏 名
財団法人 日本オリンピック委員会	水野 正人	財団法人 全日本弓道連盟	戸部 孝仁
	板橋 一太	社団法人 日本ライフル射撃協会	松丸 喜一郎
	田中英壽	財団法人 全日本剣道連盟	長尾 英宏
	田嶋 幸三	社団法人 日本近代五種・バイアスロン連合	荒木 大三
	早田 卓次	財団法人 日本ラグビーフットボール協会	高野 敬一郎
	相澤 隆也		岩上 教行
JOCスポーツ環境専門委員会	佐野 和夫	社団法人 日本山岳協会	若月 東兒
	朝倉 正昭		徳永 邦光
	伊藤 晃	社団法人 日本カヌー連盟	八 鍬 美由紀
	鎌賀 秀夫	社団法人 全日本アーチェリー連盟	大田 浩子
	土田 忠	社団法人 日本クレイ射撃協会	石川 美奈子
	橋爪 功	財団法人 全日本ボウリング協会	樋口 幹夫
	山口 香	全日本アマチュア野球連盟	藤本 溪
	JOCアスリート専門委員会	荒木田 裕子	社団法人 日本トライアスロン連合
JOCスポーツ環境アンバサダー	八木沼 純子	松生 治子	
	小林 孝至	鈴木 信之	
財団法人 日本陸上競技連盟	有澤 政雄	社団法人 日本ビリヤード協会	東仙 明彦
	瀬戸 邦宏	社団法人 日本ボディビル連盟	小西 康道
財団法人 日本水泳連盟	高村 佐太郎	社団法人 日本ダンススポーツ連盟	伊藤 定
財団法人 日本サッカー協会	斎藤 由紀	東京都	依田 京子
	湯川 和之		堀 雅美
財団法人 全日本スキー連盟	田中 育郎	東京都/東京オリンピック招致本部	高橋 繁敏
	池上 三紀		佐々木 美土里
財団法人 日本テニス協会	村里 敏彰	広島市	井上 仁
	宗中 正	財団法人 日本体育協会	藤井 秋実
吉田 友佳	酒井 元照		
社団法人 日本ホッケー協会	森本 健一	ミズノ株式会社	宮本 春樹
社団法人 日本アマチュアボクシング連盟	西中 武士	佐川急便株式会社	河合 雅晴
	吉森 照夫		西林 由香利
財団法人 日本レスリング協会	荒木 健	株式会社日本航空	村田 耕
	外川 三郎	日本ゼネラル・エレクトリック株式会社	中川 理子
財団法人 日本セーリング連盟	武田 明子	電通ヤング・アンド・ルビカム株式会社	西村 太郎
社団法人 日本ウエイトリフティング協会	豊崎 謙		吉本 修治
	岡本 実		三上 信太郎
財団法人 日本ハンドボール協会	松尾 謙資	株式会社博報堂 DYメディアパートナーズ	川廷 昌弘
財団法人 日本自転車競技連盟	兼子 真		古里 秀美
財団法人 日本卓球協会	志摩 謙治	株式会社アサツーディ・ケイ	明石 康宏
	原田 宜亮		渡部 壮介
財団法人 日本相撲連盟	竹内 敏子	MC-ABSOLUTE	吉澤 昌
	嶋勝 秀	アフロスポーツ	大炭 一雄
社団法人 日本馬術連盟	土橋 武雄	フォートキシモト	三船 貴光
	矢作 直也	JOCHP・機関誌オリンピアン編集 チーム	山崎 和歌子
社団法人 日本フェンシング協会	藤原 義和		金丸 敦子
財団法人 日本ソフトボール協会	上山 政樹	財団法人 日本オリンピック委員会	日比野 哲郎
財団法人 日本バドミントン協会	今井 茂満		山本 佳代子
	本多 修治		秋葉 将秀
財団法人 全日本弓道連盟	浅見 卓		山崎 貴子
	清水 政範		

スポーツと環境について学ぶ 第4回スポーツと環境担当者会議

JOC主催による「第4回スポーツと環境担当者会議」が2007年11月30日、東京都北区の国立スポーツ科学センターで開催され、JOCのスポーツ環境専門委員、スポーツ環境アンバサダー、アスリート専門委員、JOC加盟競技団体の環境担当者など約100名が出席した。

写真提供：フォート・キンモト

地球温暖化が深刻さを増すなかさらなる啓発活動が求められる

4回目となる今回のテーマは「計画から実践へ」。地球温暖化の深刻な状況をデータを示しながら解説するとともに、活動の参考となる各競技団体による環境保全・啓発活動の取り組み事例が紹介された。

開会に当たり、まずはIOCスポーツと環境委員の水野正人JOC副会長が「運転免許証を持っていてスピード違反をしたら『知りませんでした』では通りません。しかし、環境問題は『知らないから』で通ってしまうところがあります。だからこそ、各競技団体の皆さんに啓発活動と実践活動をこれまで以上に積極的に行っていただきたい」と挨拶。

続いて板橋一太JOCスポーツ環境専門委員長がこの1年間の競技団体の活動を報告。「温暖化対策の取り組みで、日本のスポーツ界は世界の先頭を走っており、各競技団体の取り組みが非常に注目されています。ただ、多くの団体が精力的に環境保全に取り組んでいるものの、活動内容としてはまだまだやるべき状況」と総括。「今、行動に移せばまだ間に合います」と述べて、温暖化対策、環境問題への積極的な取り組みを呼びかけた。

次に、環境省地球環境局地球温暖化対

策課国民生活対策室の清武正孝主査より、2007年に出された気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の第四次評価報告が紹介され、地球温暖化対策として何ができるかが説明された。

昨今は「環境問題のウソ」という本もベストセラーになっているし、一部で温暖化が起きていないとする報道もある。しかし、世界130カ国の政府を代表する2,500人の科学者が5年間かけて結論づけたのがIPCC第四次評価報告書だ。そこではどんなに頑張っても温暖化が進むという厳しい報告がなされており、温暖化のスピード鈍化のための努力が急務である。

現在政府はCO₂排出量を削減するため「チームマイナス6%」を進めている。また、JOCと連携し、主要大会等で横断幕を掲げるなどの取り組みを開始しているほか、各競技団体の選手らをモデルにしたポスターを制作し、それぞれの表現で温暖化防止を呼びかけている。

清武主査は、役人のどんな説明よりも、アスリートの言葉の方が一般の人の耳に届きやすいとして、「温暖化の説明を聞いて、感じたことをそれぞれのファンに呼びかけていただきたい」と要望した。

前半最後は、日本サッカー協会 (JFA) 専務理事の立場から田嶋幸三JOCスポーツ環



司会を務めたのはJOCスポーツ環境アンバサダーの八木沼純子さん。

境専門副委員長が取り組みを紹介した。まずは足元から見直しをと、JFAハウス (協会のビル) に中央監視盤を導入。数千万円の費用を要したものの、電気代が年間700万円減となった。「CO₂何パーセントではわかりにくくても、金額にしたことで環境活動へ動きやすくなった」と環境啓発のヒントを示唆。その他、Jリーグで行われているプログラムや北海道サッカー協会の環境未来カップについても説明した。

予算の多少に関わらずできることから始めるのが大事

後半は10月に北京で行われた「第7回IOCスポーツと環境世界会議」の報告から始まった。IOCではNOCに対して環境活動ガイドラインを作成している。これはJOCの各加盟競技団体が環境問題に取り組む際にも参考にできるもの。世界会議ではガイドラインに沿ってJOCの活動報告がなされたが、この日も水野副会長がどのように活動を進めるか、目標達成の障壁は何かなど、一つずつ項目を紹介。これに対して同会議に出席した佐野和夫JOCスポーツ環境専門委員会副委員長が答える形がとられた。

続いて日本陸上競技連盟 (JAAF) の取り組み状況が同連盟の瀬戸邦弘総務部幹事から紹介された。JAAFでは、2003年、JOCの横断幕を借用して東京女子マラソン等で啓発活動を開始。2007年度は独自のポスター制作が進められている。また、チーム・マイナス6%への団体登録を機に、いくつかの競技会で個人登録の募集を行っているほか、2007年大阪世界陸上での取り組みについても報告された。

会議は最後に東京オリンピック招致委員会の武市敬事務次長が、環境問題を中心にオリンピック招致に向けた計画の概要を説明した。



会議では地球温暖化のしくみや競技団体の取り組みが紹介された。

4 スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について

Issues regarding awareness and implementation activities

(1) JOCスポーツ環境委員会及び各団体の活動状況

Activities of the commission, JOC affiliated NFs and organizations

スポーツと環境保全に関する啓発・実践活動報告

JOCスポーツ環境専門副委員長
(財)日本サッカー協会 専務理事／環境プロジェクト・リーダー
田嶋 幸三

日本サッカー協会では、2007年4月に「環境プロジェクト」を発足、「チーム・マイナス6%」「クリーンサポーター活動」の活動継続とともに、環境に対して取り組む姿勢 (ビジョン・方向性)、そして、サッカー界がどのような環境負荷を与えているのか、その影響を軽減できるのかといった点でより一層議論を深めてきた。以下にJFAの活動、Jクラブの活動を報告する。

◇ Jリーグ

Jリーグ、各クラブが一体となり、「Jリーグ百年構想」に向けて活動している中で、ゴミ分別回収やホームタウン清掃など環境面の取り組みも実施してきた。

〈活動実績集計 (一部抜粋、数字は実施クラブ数)〉

マイカップ	12	エコバッグ	5	ゴミ分別回収	12	ホームタウン清掃	8
リユースカップ	4	スタジアム清掃	5	紙コップ分別回収 (リサイクル)	4	エコドライブ	3

〈一部クラブ・トピックス紹介〉

清水エスパルス	カーボンオフセットクラブ化計画 (排出権購入、他)
横浜 FC	ISO14001 認証の取得、エコパートナー企業との活動

◇ JFA

① JFAグリーンプロジェクト

全国に芝生の校庭やグラウンドが広がる活動を応援

② 「チーム・マイナス6%」

内部活動	空調、換気、機器の運転管理にて、約13.8%の省エネルギーを実現 その他、蛍光灯交換・空調機器入替など順次検討・実施中
外部活動	スタジアム告知や外部メディアへの協力による啓発促進活動

③ クリーンサポーター活動 (一部抜粋)

〈平成19年度実績〉 開催回数 (18試合) - 参加人数 (1,850名)

2007年6月1日	キリンカップサッカー2007	エコスタジアム	157名
2007年6月6日	アジア男子サッカー2008 2次予選	国立競技場	138名
2007年10月17日	AFCアジア／アフリカチャレンジカップ2007	長居スタジアム	161名
2008年1月26日	キリンチャレンジカップ2008	国立競技場	174名

※ AFCアジア／アフリカチャレンジカップにおいては、来場者向けに46,000個のエコバッグを用意

〈通算活動実績〉 開催回数 (76試合) - 参加人数 (10,276名)

※ AFCアジア／アフリカチャレンジカップにおいては、来場者向けに46,000個のエコバッグを用意

また、今年度以降は、スタジアムにおける環境負荷測定 (事実認識) や主催試合でのサポーターの移動負荷軽減 (シャトルバス運行) など具体的な取り組みを検討している。

(財)日本水泳連盟スポーツ環境委員会 活動報告および平成20年度「スポーツと環境」 水泳からのアクションプラン

JOCスポーツ環境専門副委員長
(財)日本水泳連盟 副会長兼専務理事／スポーツ環境委員長
佐野 和夫

日本水泳連盟スポーツ環境委員会は4年目を迎え、連盟全体の関係各所が一体となってより活発な活動が展開されるようになった。水泳連盟内の全競技5種目(競泳・飛込・水球・シンクロ・オープンウォーター)の各主催大会にて更に活動が確実に実践され、また同時に、各会場ではより円滑な今後の活動展開を前進させるために、アイデアを模索、実践しながら新たな展開を繰り広げる1年であった。

1. 2007年(平成19年度)活動報告

①本連盟主催事業での啓発活動の徹底と充実を更に推進

※各大会での主な活動内容

- ・競技会開会式の挨拶にて、言葉での啓発運動他
- ・横断幕(連盟オリジナル)2枚
- ・国際大会(世界競泳2007・ジャパンオープン)における英文メッセージ横断幕の掲出
- ・場内ポスター 掲示
- ・競技会場におけるごみの分別収集
- ・公式プログラムに環境ページ掲載、チラシ配布
- ・各競技会でのごみの持ち帰りの奨励

②2007年度(平成19年度)からの新たな取り組み

- 1)各競技会最終日終了後、成績優秀選手あるいは大会役員競技役員集合によるメッセージ横断幕記念撮影による啓発活動
- 2)チームマイナス6%とのコラボレーション活動(会場における環境メンバー登録の推進)
- 3)連盟月刊誌に環境関連ページ作成・掲載
- 4)加盟団体への活動協力拡大を要請(例:神奈川県水泳連盟 県ジュニア新年記録会プログラム)
- 5)大会時・昼食用My箸の配布、資源(割り箸・弁当箱)の節約

2. 2008年度(平成20年度)水泳からのアクションプラン予定

①(財)日本水泳連盟主催 エココンテストの開催

今後、「スポーツを通じての環境対策」のより一層効果的な普及を図るため、本連盟と加盟団体が協力して「エココンテスト」を開催する。

このコンテストでは、「水泳を通じての環境対策」活動を積極的に実践している、または、実践しようとしている本連盟登録団体(クラブ・学校水泳部)を対象とする。

1)コンテストの趣旨

世界的に地球温暖化が叫ばれる中「環境対策」活動が全国に普及することを目的とし、日

本水泳連盟が率先して水泳にかかわる全ての人々によって地球温暖化の防止運動を継続的に推進することを目指す。

2)コンテストの内容

「水泳を通じての環境対策」活動に意欲的に取り組んでいる団体を募集。

参加団体は、専用の申請用紙に日頃の活動や取組みを写真やスライドなどを使用して報告する。

* お互いの学びの場・情報交換の場となるような活動展開を実践する活動とその成果を、報告・評価・表彰する。

3)コンテストの募集対象

全国47都道府県水泳連盟・スイミングクラブ協会・マスターズ協会を通じ募集。本連盟登録団体(マスターズ協会団体含む)を対象とする。

4)各賞の決定

年間の各報告に対し、連盟より賞状を配布、更に特に優れたものに、下記年間表彰を行う(予定)

- グランプリ(会長賞)
- 準グランプリ
- 特別賞(スイミングクラブ協会賞・マスターズ協会賞……)
- 都道府県別優秀賞(47都道府県会長賞) 等

②そのほかの啓発活動(継続)

1)日本水泳連盟マスコット「ばちやぼ」環境グッズの作成

ばちやぼ環境グッズを作成、水泳界の環境活動への取り組みに活用

i ゴミ分別場所のわかりやすく親しみやすい表示グッズの作成



ii ばちやぼMy箸 (大会時の弁当用割り箸の使用削減)

2)環境・社会活動への水泳界としてのメッセージ作成(継続)

作成メッセージ入りポスターや垂れ幕をつくり、それらを使用したトップ選手による写真撮影等により、積極的にアピールする。国際大会では、英語版を使用する。

3)『チームマイナス6%』ブースを大会会場に設置、チーム員を募集し、同時に啓発を推進する。

同時に環境啓発ピンバッジ第3号の製作・配布

4)関連団体(日本スイミングクラブ協会・日本マスターズ協会)との、啓発活動の情報共有

③環境アンバサダー(継続)

1)アンバサダーは選手団や連盟の活動を、マスメディアを通じて紹介(継続)

活動内容及び選手たちからの呼びかけを、マスメディアを通して紹介していくことによって、代表選手に憧れる水泳に励む子供達および一般の人たちへ非常に良い効果が実績を上げているため、今後も引き続き、JOC環境アンバサダー水泳代表岩崎恭子氏に、各メディア(関連雑誌等)の紙面上での活動を実践する。

(担当委員/有久 暢、齋藤 由紀)

(財)日本体操協会 環境委員会 活動報告

JOCスポーツ環境専門委員
 (財)日本体操協会 理事/環境委員長
 朝倉 正昭

◎はじめに

1990年代に入り、スポーツにおける環境保護と向上のための啓発と実践活動が、IOCのイニシアチブのもとで進められてきた。1992年バルセロナオリンピック大会において、地球を保護することを公約する「地球への誓い」に署名、1994年第12回オリンピックコンGRESSにおいて、「環境」を「スポーツ」「文化」に続くオリンピズムの「第3の柱」とすることが提案された。以後2001年、第4回IOCスポーツと環境世界会議で「長野宣言」が採択され、2003年JOCが「JOC環境方針」を公表、「省資源・資源のリサイクル」「グリーン購入の優先」「環境に関する法的要求事項の遵守」「環境の教育啓発活動の推進」の4つの行動指針を掲げている。

この中、日本体操協会でも2003年より環境委員会を設置、地球温暖化防止対策活動として、各競技大会や催事などで温暖化防止キャンペーンの横断幕を会場に掲示したり、アナウンスによる啓発活動、並びに独自の实践活动に取り組んでおります。

◎活動報告

1. 加盟団体に対する環境啓発横断幕設置の協力依頼

各種大会やイベントにおいて、それぞれの加盟団体や主管団体が横断幕(3種類)やポスターを掲げ、環境への取り組みをアピールした。

月 日	種別	主な大会名	会 場	活動母体
4/28・29	体	第40回世界体操競技第二次選考会	千葉ポートアリーナ	環境委員会
5/5・6	新	第28回世界新体操日本代表決定競技会	代々木第2体育館	環境委員会
5/18～20	新	第5回全日本新体操ユースチャンピオンシップ	千葉ポートアリーナ	新体委員会
6/9・10	体	第46回NHK杯	千葉ポートアリーナ	環境委員会
8/12～14	新	第16回全日本新体操クラブ選手権大会	千葉ポートアリーナ	新体操連盟
8/13～18	体	2007全日本ジュニア体操競技選手権大会	横浜文化体育館	ジュニア連盟
9/9	新	第7回全日本新体操クラブ団体選手権	千葉ポートアリーナ	新体操連盟
9/10～17	体新	全日本学生体操競技・新体操選手権大会	北九州総合体育館	学生体連盟
9/22～24	体新	全日本社会人体操競技新体操選手権	笠松運動公園体育館	社会人連盟
9/22～24	—	2007日本体操祭	代々木第二体育館	一般体委員会
9/30～10/5	体	第62回国民体育大会	秋田市立体育館	環境委員会
10/5～7	新	イオンカップ世界新体操クラブ選手権大会	東京体育館	新体操連盟
10/20～21	新	第25回全日本ジュニア新体操選手権大会	代々木第一体育館	新体委員会
10/26～28	体	第61回全日本体操競技選手権大会	代々木第一体育館	環境委員会
11/23～25	新	第60回全日本新体操選手権大会	東京体育館	環境委員会
2/22～24	新	全日本新体操チャイルド選手権大会	東京体育館	新体操連盟
3/26～28	体新	第8回全国体操奨学生大会	茨城・大洗町	環境委員会
3/27～30	体新	全国高校選抜大会(体操競技・新体操)	弘前市・山形市	高体連盟

体：体操競技 新：新体操 —：一般体操

2. 各大会において、「地球温暖化防止」の啓発についてのアナウンス実施

『日本体操協会は、地球温暖化防止活動「CO2削減・チームマイナス6%」に参加しています。地球温暖化が、このまま続けば、やがてスポーツ活動どころではなくなる次代が訪れることを真剣に心配しているからです。私達の魅力ある体操競技・新体操を、これからも継続し、後世に楽しんでもらうため、私達は普段の日常生活の中でも環境問題を認識し、今後も更に、地球温暖化防止啓発活動に取り組んでまいります。皆様も、是非、ご協力ください!!』(原稿)

3. 「チームマイナス6%」への登録者増への取り組み

日本体操協会は、平成18年9月「チームマイナス6%」に登録し、以後各種大会で、ブースを設置して大会役員、選手並びに観客の方々に「チームマイナス6%」におけるCO2削減のための「6つの具体的なアクション」の啓発活動への取り組みと登録加入を推進している。

4. 炭酸マグネシウム対策

- ①炭酸マグネシウム容器を地球型に改良(セノー株式会社様のご協力による)し、粉が外部に粉塵化することを最小限に抑えることに成功した。
- ②炭酸マグネシウムの固形化を進めるため、外国の品を収集し、業者と選手の意見を元に固形化開発研究に取り組んでいる。

5. 各競技会での速報用紙等の「紙2割削減」への協力依頼

大会速報のモバイルサイト掲載を実施、その他用紙削減の工夫を求め、各大会毎で用紙削減を実現した。また事務局内でもFAX送信を電子メール送信に変更し、紙の節約に組み始めた。

6. 各競技会場でのゴミ分別収集への協力依頼

体操競技・新体操の競技会場で「ゴミ分別への協力」をアナウンスしているが、飲食物持込禁止の為か、ゴミの量はわずかではあるが、積極的にゴミ分別に協力して頂いている。

7. 各加盟団体並びに各都道府県組織における「環境委員会」設置の推進

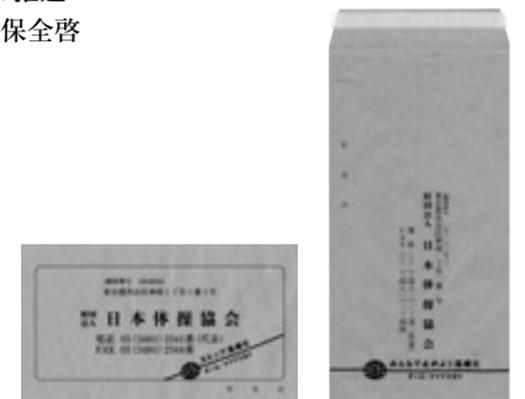
JOCスポーツ環境委員会の指針のもと、地球温暖化防止活動を更に推進するためには、それぞれの組織に「環境委員会」の設置をお願いし、それぞれが主体的に温暖化防止活動に取り組むことが求められる。設置方の推進を更に力を入れたい。

8. 環境アンバサダー(塚原光男副会長)の環境保全活動の推進

JOCスポーツ環境委員会やJOC行事等において、環境保全啓発活動にご協力いただいている。

◎今後の課題と目標

1. 炭酸マグネシウムの早期固形化の実現を目指したい。
2. 各加盟団体並びに各都道府県組織における「環境委員会設置」と温暖化防止対策への主体的取り組み活動の推進をはかる。
3. 各大会参加選手の温暖化防止活動への啓発とキャンペーンへの協力を更にお願する。



(財)日本バレーボール協会 環境委員会 活動報告

JOCスポーツ環境専門委員
 (財)日本バレーボール協会 執行役員/環境委員長
 伊藤 晃

今年度より新しく(財)日本バレーボール協会環境委員会委員長に指名され、JOCスポーツ環境専門委員に就任し、今年度は、環境省との連携によりチームマイナス6%推進事業を、インドアでは「CO2削減にみんなが手を挙げれば温暖化はブロックできる」ビーチには「海面上昇で砂浜が消える温暖化は私たちのコートを守る」のメッセージバナー、プログラム広告を作成、温暖化ストップの掛け声を挙げ、選手、役員、観客の協力のもと、啓発活動を進めて参りました。

【活動報告】

1) JVA主催大会における、メッセージバナーによる加盟団体、全国各地への啓発活動

以下それぞれの大会での、メッセージバナーの展示による、加盟団体、全国各地の観客への、啓発、アピールを行いました。

特に天皇杯皇后杯ではコートサイドに4枚の温暖化ブロック看板を挙げアピール、プログラムにも温暖化防止の広告を掲載、全日本小学生大会では、全96チームの監督が集まる監督会議で、初めの挨拶に温暖化防止に関するバレー協会の取り組みをお話しました。また全国都道府県対抗中学大会では、開会式の挨拶に温暖化防止の内容を入れお話をしてもらいました。

	競技会名	開催期間	都道府県	開催地
【9人制】				
1	第6回全国社会人男女優勝大会	10/4(木)~10/7(日)	北海道	札幌市
2	第77回全日本総合男子選手権大会	11/1(木)~11/4(日)	富山	富山市
3	第76回全日本総合女子選手権大会	11/22(木)~11/25(日)	徳島	徳島市・北島町
4	第6回スーパー9・オールスターズ・フェスティバル(女子)	12/13(木)~12/16(日)	青森	青森市
5	第6回スーパー9・オールスターズ・フェスティバル(男子)	12/13(木)~12/16(日)	福島	福島市
6	第3回 LAWSON CUP	3/20(木)~3/23(日)	静岡	浜松市
【6人制】				
1	第27回全日本クラブカップ男子選手権大会	8/9(木)~8/12(日)	大阪	大阪市
2	サントリーカップ 第27回全日本小学生大会	8/14(火)~8/17(金)	東京	東京
3	2007東西インカレ男子王座決定戦	8/23(土)~8/24(日)	福岡	京都府
4	第42回 全国高等専門学校体育大会	8/17(金)~8/19(日)	高知	南国市
5	第37回全日本中学校選手権大会	8/20(月)~8/23(木)	岩手	北上市・奥羽市
6	第10回全国ヤングクラブ交流大会	9/15(土)~9/16(日)	大阪	大阪市・門真市
7	第60回スーパーカレッジ 男子大学選手権大会 第54回スーパーカレッジ 女子大学選手権大会	12/10(月)~12/16(日)	東京他	東京・他
8	第10回全日本男女学生選抜・東西対抗戦	12/23(日)~12/24(月)	東京	渋谷区
9	第21回全国都道府県対抗中学大会	12/24(月)~12/27(木)	大阪	大阪市・貝塚市
10	第28回 地域選抜リーグ	1/12(土)~3/2(日)		全国各地
	プレ・オフ	3/15(土)~3/16(日)	大阪	門真市
11	第39回 全国高等学校選抜優勝大会	3/20(木)~3/26(木)	東京	東京
12	天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会 ブロックラウンド セミファイナルラウンド セミファイナルラウンド2回戦・ファイナルラウンド	8月~10月 12月~1月 1/5(土)~1/6(日)		全国9ブロック 全国13各地 川崎市

2) ビーチバレージャパン・マーメイド

カップでの、ビーチでの啓発活動

ビーチバレー川合俊一会長が、以

前より温暖化防止に、非常に熱心に取り組んでおり、日本一のビーチバレー大会で、前夜祭会場、大会会場観客席に、温暖化は私たちのコートを守るのメッセージバナー、コートサイドに「ストップ温暖化」の看板を設置、大々的に温暖化防止をアピール、川合会長の挨拶にも環境問題を取りあげており、ビーチ協会は、常に大会で、ゴミの分別、海岸のゴミ拾いを行っています。

3) 国際大会「FIVBバレーボールワールドカップ2007」での啓発活動

ワールドカップ東京大会、男・女大会にてメッセージバナー、ポスターの展示、大会プログラムに温暖化防止の広告掲載、多くの観客をはじめ、選手、役員に啓発活動をアピール

来年度も今年度同様、日本バレーボール協会主催大会でのメッセージバナーの展示、プログラムでの掲載を必須に、ビーチ、国際大会を含め啓発活動を行いたいと思います。また各全国連盟、各都道府県にも環境委員を全国の評議委員クラスに行ってもらい、全国組織にしたいと思っています。

(財)日本レスリング協会「スポーツと環境保全・啓発活動」について

JOCスポーツ環境専門委員
 (財)日本レスリング協会 スポーツ環境委員長
 鎌賀 秀夫

1. 会場における環境保全・啓発活動

	競技会名/開催地	開催日	参加数	備考
1	JOCジュニアオリンピックカップ 2007年度全日本ジュニアレスリング選手権大会 神奈川県横浜市・文化体育館	19年4月22日~23日	1,134名	横断幕
2	平成19年度全日本選抜レスリング選手権大会 東京都渋谷区・国立代々木競技場第2体育館	19年6月9日~9日	196名	横断幕、プログラム掲載、ポスター掲示
3	平成19年度親子レスリング教室 山口県柳井市・柳井市体育館第2競技場	19年6月16日	94名	横断幕、パンフレット配布
4	第55回全日本社会人選手権大会 千葉県佐倉市・佐倉市民体育館	19年7月7日~8日	209名	横断幕
5	ドン・キホーテ杯 第3回ビーチレスリング選手権大会 東京都港区・台場海浜公園	19年7月29日	239名	ポスター掲示
6	第54回全国高等学校レスリング選手権大会 佐賀県佐賀市・佐賀市立諸富文化体育館	19年8月2日~5日		横断幕、ポスター掲示
7	第24回全国少年少女レスリング選手権大会 東京都世田谷区・駒沢体育館	19年8月10日~12日	172クラブ 1,447名	横断幕、プログラム掲載、ポスター掲示 ※環境省とのジョイント
8	国際レスリング連盟女子レスリングコーチクリニック 東京都北区・国立スポーツ科学センター	19年11月15日~18日		ポスター掲示
9	天皇杯・平成19年度全日本レスリング選手権大会 東京都渋谷区・国立代々木競技場第2体育館	19年12月21日~23日	305名	横断幕、プログラム掲載、ポスター掲示
10	第17回少年少女レスリング東京選手権大会 第6回全日本マスターズレスリング選手権大会 東京都渋谷区・国立オリンピック記念青少年総合センター	20年1月18日~19日	少年少女/418名 マスターズ/100名	横断幕、プログラム掲載、ポスター掲示 ※環境省とのジョイント
11	第21回少年少女レスリング東京選手権大会 東京新宿ライオンズクラブ旗争奪戦 東京都新宿区・スポーツ会館	20年2月11日	247名	横断幕、プログラム掲載、ポスター掲示
12	JOCジュニアオリンピックカップ 第12回全国少年少女選抜レスリング東京大会 東京都渋谷区・国立オリンピック記念青少年総合センター	20年3月8日~9日	334名	横断幕、プログラム掲載、ポスター掲示 ※環境省とのジョイント

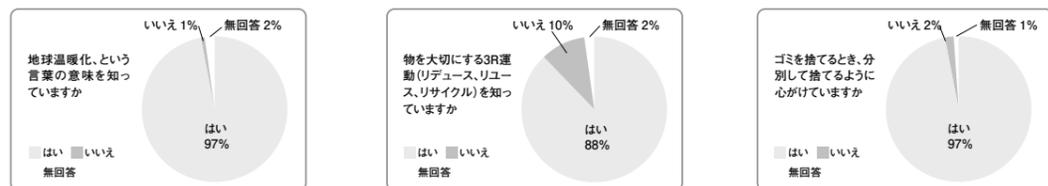
2. 機関誌・大会プログラムでの啓発活動/JOCポスター、環境省ポスター

	プログラムに掲載した競技会
1	平成19年度全日本選抜レスリング選手権大会
2	第24回全国少年少女レスリング選手権大会
3	天皇杯・平成19年度全日本レスリング選手権大会
4	第17回少年少女レスリング東京選手権大会
5	第21回少年少女レスリング東京選手権大会
6	JOCジュニアオリンピックカップ 兼 第12回全国少年少女選抜レスリング東京大会

※協会機関誌、春、夏、秋、冬号へ掲載

3. 大会での啓発活動

1) アンケート調査／ JOCジュニアオリンピックカップ出場者、小学4年～6年生334名を対象に行った。



2) IDカードを利用した啓発活動

JOCジュニアオリンピックカップに参加した選手、監督、コーチ、競技役員に配布したIDカードを利用して啓発活動を行った。

3) エコバッグの作成と配布

全国大会少年少女レスリング選手権大会に参加した選手、競技役員に配布した。

4) イラストを募集

ローカル大会ではあるが、環境に関するイラストを募集する。優秀作品は大会プログラムの表紙に掲載すると共に、応募作品全てをプログラムに掲載した。また、大会の際に来場者が応募作品を見ることができるよう会場内に掲示した。

4. 課題とこれからの活動

1) アンケート調査の実施

大会を通じて環境保全の啓発活動を続けてきたが、その活動がどの程度浸透しているかを把握する上で、都道府県協会や傘下団体の皆さんを対象に環境活動の実戦経験や意識についてのアンケート調査を行い、それらを基にこれからの活動のアプローチ方法を検討し、実践していきたい。

2) 横断幕の作成

これまでJOCから借用した横断幕でアピールしてきたが、本年度は協会のロゴマークを入れた横断幕(協会呼称:グリーンバナー)を作成する。より多くの大会でアピールしてもらうために、グリーンバナーの貸し出しシステムを確立し、活動の幅を広げていきたい。勿論、JOCの環境啓発活動のポスター(協会呼称:グリーンポスター)もセットにして会場でアピールしていく。

3) マイボトル(水筒)キャンペーン

無駄なゴミを出さないために、ペットボトルに変えてマイボトルキャンペーンを実施する。大会会場のゴミ箱が目につくのがペットボトルである。これらの資源が再利用されれば「良し」とするが、ペットボトルが変わって水筒を利用すれば無駄なゴミはなくなる。「大会には母の愛情とお茶を入れたマイボトルを携帯しよう」

4) 世界選手権大会での啓発活動

平成20年10月に開催される、シニア女子世界選手権大会でも啓発活動を行うが、参加国の選手、役員の方々に当協会の環境保全活動内容を説明し、ひいてはIF内にスポーツ環境委員会設立のための一助としたい。

5) 活動報告書を参考に活動する

各競技団体の事例が記載されている「スポーツ環境委員会報告書」は、活動のためのバイブルといえる。団体毎の違いはあるが、この報告書を参考に活動内容を模倣し活動する。

メダルを追い求めることは素晴らしいことだ。大きな目標を掲げ、血の滲む努力を重ねなければ結果は出てこない。我々も10～20年後の地球の姿を思い浮かべ、環境保全活動を実践してゆこうと思う。

(財)日本アイスホッケー連盟 スポーツ環境活動報告

JOCスポーツ環境専門委員

(財)日本アイスホッケー連盟 常務理事/環境委員長

土田 忠

今期、本連盟は理事会評議員会に於いて、JOCスポーツ環境委員会への参加と、全国都道府県連盟並びに関係団体への地球環境の保全とその啓発運動の理解と実行についての運動をスタートしました。

- ① 理事会・評議員会での環境活動方針の発表
- ② 国民体育大会での全国代表者会議における、参加チームへの啓発活動の協力
- ③ 各大会でのポスター・横断幕などの掲出、パンフレットの配布
- ④ 事務局内で徹底したゴミの軽量化、分別、リサイクル(3R運動)を推進

今年度の主たる国内・国際大会での環境啓発活動

日時	大会名	場所	
2007年9月29日	理事会・評議員委員会	国立オリンピック記念センター	横断幕、ポスター、パンフレット
2007年9月22日～2008年3月23日	アジアリーグ	東伏見アイスアリーナ	横断幕、ポスター、パンフレット
2007年11月17日	第62回 国体表彰式	東京都大会議場	横断幕、ポスター、パンフレット
2007年9月23日～12月2日	関東大学リーグ	東伏見アイスアリーナ	横断幕、ポスター、パンフレット
2008年1月26日～2月10日	第63回 国体	軽井沢風越スケートセンター	横断幕、ポスター、パンフレット、ゴミ箱
2008年1月26日～2月10日	第63回 国体開会式	長野県民文化会館	横断幕、ポスター
2008年2月5日～10日	第75回 全日本選手権	釧路アイスアリーナ	横断幕、ポスター
2008年2月15日～17日	第2回 女子高校大会	日光霧降アイスアリーナ	ポスター
2008年2月8日～10日	長野オリンピックメモリアルカップ	長野ビッグハット	横断幕、ポスター、ゴミ箱
2008年3月13日～16日	全日本女子選手権	札幌月寒体育館	横断幕、ポスター、パンフレット、ゴミ箱
2008年4月13日～19日	2008男子世界選手権D1B	札幌月寒体育館	横断幕、ポスター、パンフレット、ゴミ箱

今後、環境保全と啓発活動の全国展開を積極的に推進します。

(財)日本テニス協会環境委員会の活動

JOCスポーツ環境専門委員
 (財)日本テニス協会 環境委員長
 橋爪 功

テニス協会の中に、環境委員会が設立されて3年目の年は、環境保全への啓発活動に加え具体的な実践活動を重視して取り組んだ。

1. テニス界における環境保全の調査と啓発、実践活動

(1) 日本テニス協会主催の14大会、関東・関西などの地域ジュニア大会、修造チャレンジ等のジュニア合宿、コーチーズカンファレンスで、横断幕やポスターの掲出を実施した。

(2) 「チームマイナス6%」国民運動の取り組み

環境省の呼びかけに応え、JOCや他の競技団体とともに、「チームマイナス6%」を推進した。杉山愛選手の協力を得て、「温暖化が進む。敵は前だけではなく、空にもいる。」のロゴのもと、横断幕5枚、ポスター 500枚を製作し活用した。

- ・全日本ジュニア選手権(8月大阪)、AIGオープン(10月東京)全日本選手権(11月東京)の3大会では、横断幕、ポスター、プログラム広告を活用した。
- ・またテニスの日のイベント(9月東京)、スーパージュニア(10月東京)、全国レディース(11月東京)、イザワクリスマスオープン(12月東京)でも関係団体の協力により、上記に準じる活動が進められた。
- ・これらの大会を通じて、1,500名を超える人々がチーム員としての登録に参加した。

(3) コーチーズカンファレンスでの啓発活動

- ・期 日: 2008年3月3日
- ・会 場: スポーツ科学センターおよびナショナルテニスセンター
- ・参加者: テニス指導者380名
- ・内 容: NPOグローバルスポーツアライアンスの岡田達雄常任理事による環境問題の講演とパネルディスカッション

(4) 「環境レポート2008」を1,000部製作し、47都道府県協会、関係団体、カンファレンス参加者に配付した。

2. 47都道府県テニス協会の全てに「環境担当者」が決まり情報の交流が進んだ。

3. 環境問題をテーマにした映画「KIZUKI」の後援が決まり、コーチーズカンファレンスの席上、ディレクターによる映画の紹介が行われた。(7月の洞爺湖サミットで上映予定・9月から全国で自主上映開始)

4. NPOグローバルスポーツアライアンスが進めるテニスボールやラケットのリユース活動への協力を進めた。

(財)日本スケート連盟 環境保全・啓発・実践活動

JOCスポーツ環境専門委員
 (財)日本スケート連盟 理事/スポーツ環境委員長
 平松 純子

日本スケート連盟はスポーツ環境委員会の組織が立ち上がってから4シーズンが経過しました。昨シーズンは、主要国内大会や、日本国内で行われた国際競技大会にスポーツ環境担当委員を設けきめ細かい啓発、実践活動に努めました。

主要国内大会では

2007年10月26日～28日	第14回全日本スピード距離別選手権大会
2007年11月24日～25日	第76回全日本フィギュアジュニア選手権大会
2007年11月23日～25日	第13回JOCジュニアオリンピックカップショート選手権大会 *
2007年12月16日～18日	第76回全日本スピード選手権大会
2007年12月22日～23日	第18回全日本ショート距離別選手権大会
2007年12月21日～23日	第34回全日本スプリント選手権大会
2007年12月26日～28日	第76回全日本フィギュアスケート選手権大会 *
2008年1月10日～13日	第31回全日本ジュニアスピード選手権大会
2008年2月23日～24日	第31回全日本ショートトラック選手権大会

日本開催国際大会

2007年11月29日～12月2日	2007NHK杯国際フィギュアスケート競技大会
2008年3月6日～9日	世界距離別スピードスケート選手権大会 *

の各会場、第63回国民体育大会冬季大会スケート競技にてスポーツ環境ポスターの掲示、および環境省との連携においてはチームマイナス6%の活動を*印の大会で行いました。

また、3Rの推進では、

- リデュース エネルギーや資源を大切にするため、大会でも電力消費量、印刷物の削減、プロトコールなどのDVD化などを実施して紙の使用量を減らす事につとめました。
- リユース 紙の再利用、競技役員が大会中使用する紙コップなどは名前を書いて再使用することなどを促しました。
- リサイクル ごみの分別の徹底により新しい資源を生み出す事への手助けの推進をおこないました。

今後の課題、目標としてはスピード、フィギュア両委員会でスポーツ環境委員の新組織を作ったことを機にスケート連盟全体としてスポーツと環境問題、保全に対してより積極的に取り組んでいきたいと思っています。

JOCスポーツ環境専門委員・アンバサダーとしての実践活動

JOCスポーツ環境専門委員／環境アンバサダー
 (財)日本テニス協会 理事待遇／環境委員
 松岡 修造

年間を通し、〈修造チャレンジトップジュニアキャンプ〉開催時に、会場内におけるポスター掲出やゴミの分別など啓発活動を積極的に行いました。



■修造チャレンジ開催概要

開催日程	対象	会場
2007年5月8日(火)～11日(金)	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された男子ジュニア9名	エストレーホテル&テニスクラブ
2007年9月18日(火)～21日(金)	13歳以下の男子ジュニア19名	シーサイドテニスガーデン舞洲
2007年11月3日(火)～15日(木)	13歳以下14名	荏原湘南スポーツセンター
2007年11月16日(金)～18日(日)	17歳以下9名	
2008年3月11日(火)～14日(金)	14歳以下の男子ジュニア9名	ナショナルトレーニングセンター
2008年3月31日(月)～4月2日(水)	14歳以下の男子ジュニア17名	東山公園テニスセンター ※男子ジャパンオープンジュニア開催会場にて実施

★テレビ番組の出演を通じた啓発活動

2008年5月5日(祝・月)10:30～11:25、テレビ朝日系列で、〈修造学園V 環境問題篇～自然を守れ! だらしない子供達大変身!〉を放送。環境問題改善への第一歩は、身近なことからコツコツと努力することではないかと考え、環境問題に関心の無い子供たちと2泊3日の山寺合宿を行い、そのなかでの子供たちの変化を番組で紹介。自然環境の大切さや、今私たちに出来ることは何なのかを訴えました。



「ゴミ処理場を見学」



「人が出した大量のゴミは、人の手によって処理されています」



「最終日の課題は裏高尾のゴミ拾い。カゴを背負って出発」



「拾ったゴミを分別し、協力し合いながら山頂の薬王院まで25キロの山道を歩きました」



「勇気を持ってやる事が出来てよかったです」



「面倒くさがらずに最後まで頑張ったから、さながら出来た感じがします」

「1人1人が変われば自然は守られていくのです。環境と自分自身と向かいあった3日間で、君たちは、環境に対しても自分の心に対しても変わることが出来ました。何が正しいのかを考えて、正しいことは勇気を持って行動して行こう!未来は君たちにかかっているのだから…。」 (番組でのメッセージから)

(財)全日本柔道連盟の環境への取り組み

JOCスポーツ環境専門委員
 (財)全日本柔道連盟 国際副委員長／ルネッサンス／女子強化委員
 山口 香

1.主要な大会での環境啓発活動

全日本柔道連盟では、ルネッサンス委員会が中心となり、環境保全に関する啓発、実践活動を行っている。全国規模のシニア、ジュニア大会に加え、今年度は都道府県レベルの大会においても会場でのポスターの貼付、呼びかけなどの啓発活動を行った。柔道はルネッサンス活動の標語「きた時よりも美しく」を合い言葉に使用後の会場内の清掃やゴミの持ち帰り運動にも力を入れている。しかしながら、大きな大会の後のゴミの量は凄まじく、今後はゴミを出さない食べ物、飲み物の工夫も考えるように呼びかけることも大事だと感じている。柔道界は、嘉納治五郎師範の遺訓である「精力善用」「自他共栄」の精神という柔道の根本原理を「人と自然の共存」というテーマにおいても応用、実践しているよう心がけている。

2.リサイクル柔道着

使用済みの柔道着で使用する予定のないものを回収し、柔道着の入手が困難な発展途上の国に送るというリサイクル柔道着活動を行っている。

平成19年度は、エルサルバドル、ラオス、インド、インドネシア、サモア、ニジェールなど14カ国に1,000着、リサイクル柔道着を発送した。以下、各国より届いたお礼状を紹介する。

〈ラオス共和国より〉

ラオススポーツ委員会から全日本柔道連盟へ、ここに心からのご挨拶をさせていただきます。全日本柔道連盟から寄付していただいたリサイクル柔道着に関してすでに2007年9月13日に寄贈式を行わせていただきました。その式典でJICAのシニアボランティアである菊池正敏先生が全日本柔道連盟の代表として、ラオススポーツ委員会へその寄贈品を手渡してくださいました。

この機会に、我々は貴柔道連盟に対する感謝の意を表明したいと思います。いただいた柔道着は主にラオス共和国における柔道の発展に活用し、2007年タイのバンコクで開催されるシーゲームの練習のために我々の選手が誇りを持って着用するでしょう。

貴連盟のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

今後も継続してご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

Samphou PHONGSA
 ラオススポーツ委員会 副会長

〈ザンジバルより〉

ザンジバルの情報・文化・スポーツ省とザンジバル柔道協会を代表して、全日本柔道連盟からザンジバル柔道協会への100着の柔道着の寄付に対し、ここに心からのお礼を申し上げたいと思います。

貴連盟の貢献は、我々がこの島において武道の中心を他にも作ろうとしている矢先の絶好のタイミングでした。我々の担当者は、若者を魅了してきたスポーツをさらに広めるために協会が必要なサポートの一端を担うとの見解を示しました。

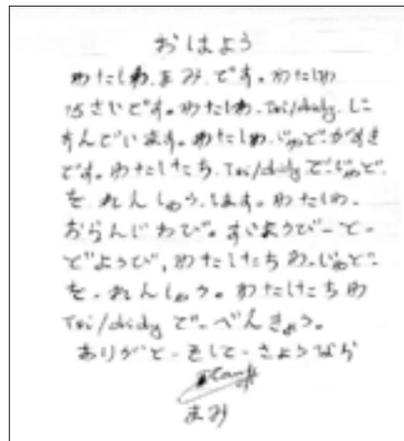
貴連盟の貢献は、ここ最近、国内外の大会において好成績を取め、数々のトロフィーを獲得した我々の選手達の熱意を確実に高めるものとなるでしょう。

ザンジバル革命政府
情報・文化・スポーツ省



3. 今後の課題と取り組み

平成19年度は全国大会を中心とした活動を都道府県レベルの大会にまで広げて活動をする事ができた。しかしながら、活動は会場での啓発、実践活動に留まっている。今後は、教育活動、啓発活動の幅をさらに広げていきたい。そのためには、他の競技団体において実践している活動も参考にしながら、柔道界ではどんな環境保全活動ができるのかを考え、できることから実践していきたい。



マダカスカルからのお礼状

(財)日本陸上競技連盟 環境活動報告

JOCスポーツ環境専門委員
(財)日本陸上競技連盟 事務局長
山本 征悦

2007世界陸上大阪大会の開催に際し、これを契機にIAAFグリーンプロジェクトが展開され、地球環境にやさしい世界陸上大会が今後も継続開催されることになった。

本連盟も地球環境問題に積極的に取り組む大会開催を目指すことを、平成19年度第1回理事会、定時評議員会(6月)に報告し承認され、「チーム・マイナス6%」団体登録を行った。主要競技会でのチーム・マイナス6%会員募集と陸連独自の環境ポスターを作成し、地球環境問題の啓発活動を実施することになり活動した。

平成20年3月第4回理事会、定時評議員会でJAAFグリーンプロジェクトについて活動の主旨と平成19年度活動実績を報告し、平成20年度の活動計画を提案し承認された。総務委員会が中心となり今後も継続し、陸連の特色ある活動を推進、展開する事になった。

JAAFグリーンプロジェクトチームが設置され、河野洋平会長の指示により環境対策に寄与できる事業を検討することになる。

総務委員会は、この間にオフィシャルマガジン《陸上競技マガジン2007年12月号》陸連時報に「陸上競技と環境」を掲載し、JAAFグリーンプロジェクトは「守ろう地球環境、アスリートに夢と希望を」と陸上競技マスコット「アスリー」を配したポスターを作製、都道府県地域陸上競技協会にポスターを配布し、主要大会で地球環境問題の啓発活動に活用を要望した。

JAAF(日本陸連)は主催大会で横断幕の掲出、植樹の実施と、陸連は業者が配布しているマラソン、駅伝での小旗の自粛を提案し、JAAFグリーンプロジェクトは1本の植樹が林になり森になるように活動しながら、3R(Reduce, Reuse, Recycle)を実施するよう啓発活動を推進していく。

◎平成19年度環境プロジェクト活動競技大会

日本陸連環境ブースの設置、プログラム環境広告掲載、横断幕掲出、環境ポスター、など

大会名	開催日	開催場所	6%会員数
サロマ湖ウルトラマラソン	6月24日	北海道サロマ湖	115名
日本陸上競技選手権大会	6月29日～7月1日	大阪市長居	436名
日本ジュニア・ユース 陸上競技選手権大会	10月19日～21日	大分県総合	229名
ジュニアオリンピック	10月26日～28日	神奈川県横浜	216名
東京国際女子マラソン大会	11月18日	東京国立	200名
東京マラソン大会	2008年2月17日	東京ビックサイト	6,404名
びわ湖毎日マラソン大会	3月2日	滋賀県皇子山	211名
名古屋国際女子マラソン大会	3月9日	名古屋瑞穂	140名
東京荒川市民マラソン大会	3月16日	東京板橋区	横断幕掲出

※びわ湖毎日マラソンでJAAFグリーンプロジェクトとして記念植樹を実施した。

スポーツと環境保全に関する啓発・実践活動報告

JOCスポーツ環境専門委員
佐川急便株式会社 CSR環境担当理事
別所 恭一

■「スポーツ発電リレー」

オリンピックデーランにおいて、「スポーツ発電リレー」を開催。普段何気なく使っている電気を自分で発電するためにはどれだけの労力が必要かを伝え、環境配慮の重要性を伝えるために来場者に自転車発電を体感いただいた。

■オリンピックフェスティバル

オリンピックフェスティバルでは、従来のオリンピックデーランで実施している「スポーツ発電リレー」のほかに、環境をテーマにしたビンゴゲームを実施し、来場者に環境啓発活動を行った。

■SGホールディングスグループスポーツフェスティバル

毎年5月のゴールデンウィークに開催される社内イベント「SGホールディングスグループスポーツフェスティバル」において環境コーナーを設置。環境クイズや廃材を活用したミサンガづくりなど、家族で楽しみながら取り組める環境イベントを実施した。また、初の試みとしてJOCブースを設置。北京オリンピック日本代表選手団応援メッセージへの寄せ書きやオフィシャルグッズの販売などを行った。



■社外環境イベント

広く一般に環境保全活動を推進していくために、地方自治体や省庁・団体が主催する環境イベントにも積極的に参加。JOCのポスターを掲示するとともに、佐川急便の環境活動を紹介するプレゼンテーションや展示パネルにおいて、JOCの環境オフィシャルパートナーとしての取り組みなどを紹介した。

イベント名	開催日	開催場所	主催
エコライフフェア2007	6月2日～3日	東京都立代々木公園	環境省 他
京都環境フェスティバル2007	12月8日～9日	京都府総合見本市会館	京都府 他
エコプロダクツ2007	12月13日～15日	東京都ビッグサイト	日本経済新聞社 他
ENE2008	2008年1月30日～2月1日	東京都ビッグサイト	(財)省エネルギーセンター



◆(財)日本テニス協会 環境委員会

1.「チームマイナス6%」の活動

(1) テニスの日における活動(9/23)有明テニスの森

- 横断幕 2枚活用
- チーム員登録：高校生、指導員らのボランティアの協力により、テントブースで120人が登録。

(2) AIG Japan オープンでの活動(10/1-7)有明テニスの森

- 観客 61,239人
- 横断幕 3枚活用
- プログラム広告：A4カラー 1ページで「チームマイナス6%」をPR
- チーム員の登録：合計764人、博報堂スタッフだけでなく、女子連大学生、高校生のボランティアが参加。
- 写真撮影：日本を代表する杉山愛選手と大会スタッフで実施。後日この写真と杉山選手の環境に関するコメントが環境省のHPで紹介された。
- その他：鈴木貴男選手をはじめ日本男女トップ選手が「チームマイナス6%」の寄せ書きと登録に参加した。

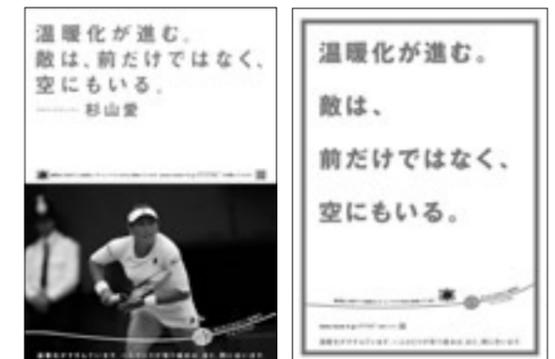
(3) 全日本選手権大会での活動(11/11-18)有明テニスの森

- 観客 31,349人
- 横断幕 3枚活用
- プログラム広告：A4カラー 1ページで掲載
- チーム員の登録：17日と18日の2日間で合計300人。
- 写真撮影：17日の女子シングルスと18日の男子シングルの表彰式後中村選手(女子優勝)、波形選手(女子準優勝)鈴木選手(男子優勝)権選手(男子準優勝)を中心に大会スタッフとともにセンターコートで実施。この際場内アナウンスで、テニス協会の「チームマイナス6%」の取り組みが紹介された。

2. 上級教師養成講習会での啓発活動

10月17日昭和の森で行われた講習会において、「スポーツと環境問題」をテーマに講義を行い、課題に沿ったレポートの提出により採点することとした。

●プログラム広告



◆(社)日本ボート協会

日本ボート協会では2007年度に新設した「安全・環境委員会」においてスポーツと環境に関する問題を担当している。

07年度の主な活動は以下のとおりである。

(1) 当協会主催の各大会における啓発活動として「環境横断幕の掲示」「ゴミの分別回収」「場内放送

による取組みの働きかけ」を行った。
 (2)加盟各団体による以下のような自主的活動が行われた。

■高体連ボート専門部と沖縄県ボート協会主催で実施した強化合宿において、練習場付近一帯のゴミ回収とマングローブの植樹を行った。

■戸田、荒川水域で練習を行っている社会人、学生などの有志が戸田橋上流の荒川岸と水辺の危険物や投棄された大型ゴミの回収を行った。

なお、2008年度の活動として以下のとおり計画している。

- (1)日本ボート協会として「環境方針」を策定・公表する。
- (2)具体的な活動としては、上記07年度活動の継続と、各都道府県ボート協会への働きかけを通じて、全国に環境活動の輪を広げてゆく。

安全・環境委員長 竹内 浩

◆(社)日本ホッケー協会

当協会は担当を総務委員会として、主管連盟・団体に依頼し、各地で啓発・実践活動を行った。活動の一環として、主要全国大会会場にスポーツと環境の横断幕の掲揚、ポスターの掲示を行った。

特に、この活動を全国に広めていくために、高円宮杯2007男子・女子日本リーグにおいて、全国各地で実践した。

また全国から集まる研修会において、横断幕を掲揚・ポスターを掲示し、啓発活動(ゴミの分別収集)に努めた。

今後も全国の方々に広めていけるように、より多くの啓発・実践活動を考えている。

◆(財)日本セーリング連盟

(財)日本セーリング連盟(JSAF)では、「未来の世代にきれいな海を残す」ことを目的に、環境委員会を設置して環境キャンペーンを行っています。

セーラーなら誰でも、海はきれいな方がよいと思います。そして海をきれいに保つためには、森林など陸地の自然を豊かにすることや、川や海に流れ込む廃棄物をなくすることが大切なことは誰でも知っています。ところが、この当たり前のことが出来ていないのが現代社会です。そこで、JSAF環境委員会では環境キャンペーンを通じて一人でも多くのセーラーの意識を高め、環境に配慮した行動を促すために、大会運営における省エネ・省資源化を進め、選手には「JSAFエコバッグ」の携行を奨励しています。このエコバッグは、レース後に海上の浮遊ゴミを回収する時に便利なだけでなく、スーパーやコンビニのレジ袋の代わりとして何度でも洗って使えるので、「海ゴミ」の多くを占めるプラスチックゴミの削減にも役立ちます。なお、このエコバッグは、JSAF環境キャンペーンの趣旨にご賛同いただいたスポンサー企業のおかげで、選手たちに無料で配布され、好評をいただいています。

平成19年度は25種目の大会でJSAF環境キャンペーンの旗と横断幕を掲げ、帆走指示書に「海にゴミを捨てない」ことを明記して、セーラーの環境意識を高めました。

また、3月8日に横浜で開催された国際ボートショーにおいて、全国で漂着ゴミの回収・調査活動をコーディネートしている「JEAN」の大倉様をお招きして、その実態について講演をいただきました。

平成20年度は、昨年度同様に大会を通じてJOC / JSAF環境バナーの掲揚などを通じてJSAF環境キャンペーンを実施することに加え、「海の日」を「海ゴミを考える日」と位置づけて環境浄化意識の啓発を行います。そのために「残したいのはきれいな海」をキャッチフレーズとしたポスターを作成し

て全国のJSAF加盟団体で活用していただきます。更に「海の日」に実施される各地のイベント参加者に「JSAFエコバッグ」を配布して「海ゴミ」の削減を訴えて参りますので、ご指導のほど宜しく願い申し上げます。

環境委員長 岡田達雄

◆(社)日本ウエイトリフティング協会

全日本学生連盟では、競技大会の監督・審判会議において、必ずゴミの分別・減量化・持ち帰りの呼びかけを行うとともに、清掃班を編制して3～4時間毎に競技会場トイレの清掃を行った。

東日本学生連盟では、所属各大学の代表者が体育の日に横浜市磯子スポーツセンター周辺の清掃活動を行った。学生連盟主催の大会では、半古紙の裏面活用を行い、また競技役員には飲料用プラスチックカップの底面にコップ使用者の名前を記入して大会期間中同じコップを使用するようお願いしている。

社会人選手権大会では、開催地自治体のゴミ分別方法をゴミ箱配置場所に掲示し、観客にも環境保全の啓発を行った。

常務理事 環境委員会委員長
岡本 実

横断幕掲揚場所
下記大会、競技会場内に掲揚した。

	競技会名／開催地	開催日	参加数	ポスター	
				掲示場所	枚数
1	第5回全日本学生選抜大会 横浜市磯子スポーツセンター	4月5日	選手 87名	競技会場内	3枚
2	第53回全日本学生個人選手権大会 羽曳野市立総合スポーツセンター	5月11日～13日	選手 102名	競技会場内	3枚
3	第21回男子・ 第6回女子全国中学生選手権大会 羽曳野市立総合スポーツセンター	8月25日	選手 34名	競技会場内	3枚
4	第62回国民体育大会 八郎潟町立八郎潟中学校体育館 八郎潟町民体育館	9月30日～10月3日	選手 323名	競技会場内・ 選手控室	4枚・6枚
5	第44回全日本社会人選手権大会 大分国体記念杯女子競技大会 国東市 アストくにさき	11月16日～18日	選手 205名	競技会場内・ 選手控室	4枚・6枚
6	第53回全日本大学対抗選手権大会 第8回全日本大学対抗女子選手権大会 横浜市磯子スポーツセンター	12月23・24日	選手 111名	競技会場内	3枚
7	第23回全国高校選抜大会 金沢市総合体育館	3月28日～30日	選手 168名	競技会場内・ 選手控室	2枚・3枚



「2007年全日本個人選手権啓発情報」



「2007年全日本個人選手権」

◆(財)日本ハンドボール協会

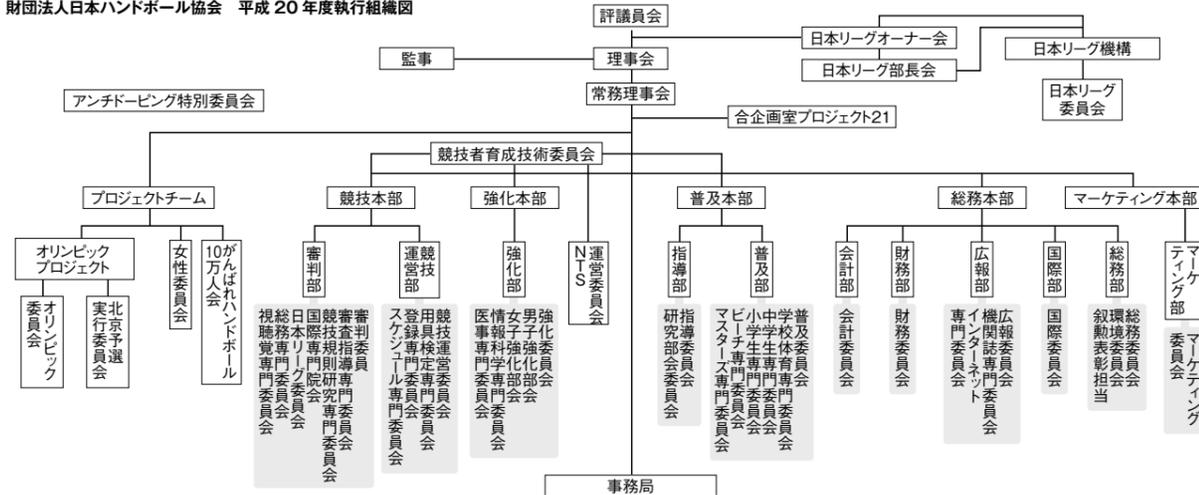
2007年10月までは、総務委員会に「スポーツと環境担当」を設け活動を行ってきたが、全世界的に環境問題は深刻さを増している。この環境問題を改善してゆくためには、我々一人一人の自覚が不可欠である。そこで、日本協会、各都道府県協会、各連盟に「環境(専門)委員会」を設置し、啓発活動を展開してゆくこととする。

1. 総務部の中に「環境委員会」を設置する(11/1より、組織図参照)。
2. JOCにならい日本ハンドボール協会の環境方針を決定する(まずは、5Rを推進*)。
3. 環境省が主導するプロジェクト「チームマイナス6% **」に参加し、協力・連携する。
4. 各都道府県協会、各連盟にまずは「担当」の設置を促し、専門委員会設置の準備をして貰う。
5. 環境保全の啓発活動を4の担当(又は委員会)と連携し、大会等で全国展開する。

- *5Rの推進 リフューズ(Refuse: 環境負担となるものを購入しない) **「チームマイナス6%」のCO2削減のための6つのアクション
- リデュース(Reduce: 排出量を抑制) ACT1 温度調節で減らそう(冷房は28℃、暖房時の室温は20℃にしよう)
 - リユース(Reuse: 排出物をそのまま利用) ACT2 水道の使い方減らそう(蛇口はこまめにしめよう)
 - リフォーム(Reform: 形を変えて再利用) ACT3 自動車の使い方減らそう(エコドライブをしよう)
 - リサイクル(Recycle: 資源として再利用) ACT4 商品の選び方で減らそう(エコ商品を選んで買おう)
 - ACT5 買い物とごみで減らそう(過剰包装を断ろう)
 - ACT6 電気の使い方減らそう(コンセントからこまめに抜こう)

環境委員会委員長 兼子 真

財団法人日本ハンドボール協会 平成20年度執行組織図



◆(財)日本自転車競技連盟

本連盟においては、大会等の開催時にバナー、ポスターの掲示、パンフレット配布による啓発と、ゴミの持ち帰り・分別の実践を行い、環境保全に対する意識の向上を推進した。

三重県四日市市では、大会に合わせ毎年(財)イオン環境財団とともにコース沿いに植樹を行い環境保全に努めている。

また、わが国の自転車業界においても、世界的な環境問題に対する関心の高まりを背景に、環境負荷物質使用削減に対応すべく、本年度から全ての自転車構成部品に環境負荷の高い水銀、鉛、

カドミウム、六価クロム、ポリ臭化ビフェニル、ポリ臭化ジフェニルエーテルの6物質の使用削減への取り組みが実施される。

機材面での、環境保全への動きは歓迎すべき傾向である。

自然環境の中で実施する競技として、今後は、小さなことでも、出来ることからの精神を啓発し、環境保全を推進したいと考えている。

事務局長 久保田 茂

◆(財)日本ソフトテニス連盟

地球環境の保全は、人類の生存に直接に関わる緊急課題として環境汚染防止の具体策が求められている。

ソフトテニスを初めスポーツを愛する私たちは、「宇宙船地球号の乗組員」として、活動により生まれるゴミも分別すれば資源としてリサイクルされることと自然環境保全を一人一人が一つずついつでもどこでも合言葉に意識した啓発と実践を行った。

ソフトテニス連盟が作成した横断幕を秋田国体、浜松の全日本選手権大会、宮崎のジュニアジャパンカップ等の会場に掲げ啓発と実践活動を行った。

洞爺湖サミットの2008年には、当連盟傘下の50支部(47都道府県、全日本学連、全国高体連、日本中体連)に各2枚を作成配布した横断幕を掲げ、更なる啓発と地道な活動を目指すこととした。

◆(財)日本卓球協会

日本卓球協会が、環境委員会を設置したのは、平成17年度である。

3年目になる平成19年度も、初年度からの活動を継承して行われた。環境ポスター、標語の掲示と分別ゴミ箱を全国大会会場に設置する等、大会開催地の主管団体そして会場関係者にご協力をお願いし、啓発活動を実施してきた。

特に、平成20年1月に開催した全日本卓球選手権大会では、会場の東京体育館の大型映像装置を利用しての環境ポスター等の掲示を行い、大会参加の選手はもとより大勢の観客と関係者に環境問題に対して強い関心を持ってもらう機会となった。

ご協力をいただいた大会会場と主管団体(平成19年度)

競技会名	開催日	開催地	主管団体
全日本クラブ選手権大会	7/13-16	桃太郎アリーナ	岡山県卓球協会
全国レディース大会	7/27-29	岐阜メモリアルセンター	岐阜県卓球協会
全日本(ホープス・カップ・バンビ)	7/27-29	グリーンアリーナ神戸	兵庫県卓球協会
全日本実業団選手権大会	8/2-5	ぐんまアリーナ	群馬県卓球協会
全国ホープス大会	8/8-10	東京体育館	東京都卓球連盟
国民体育大会 鹿角市記念スポーツセンター・鹿角トレーニングセンター	9/30-10/3		秋田県卓球協会
全日本(団体の部)	10/12-14	杵築市文化体育館	大分県卓球連盟
全日本社会人選手権大会	11/2-4	周南市総合スポーツセンター	山口県卓球協会
全日本(マスターズの部)	11/9-11	越谷市立総合体育館	埼玉県卓球協会
全日本(カデットの部)	11/9-10	滋賀県立体育館	滋賀県卓球協会
全国ラージボール大会	12/6-9	那覇市民体育館	沖縄県卓球協会
天皇杯・皇后杯 全日本(一般・ジュニアの部)	1/15-20	東京体育館	東京都卓球協会
全国ホープス選抜大会	3/28-30	仙台市宮城野体育館	宮城県卓球協会

◆(財)全日本軟式野球連盟

財団法人全日本軟式野球連盟では、平成19年度の全国大会会場においてバナー、ポスターの掲出、パンフレットの配布を行った。

平成17年より連盟としての環境保全啓発のポスター、チラシを作成し、競技会場で掲出、配布している。

今後は軟式野球の国際普及の意味もあり、使用可能の状態では不要となった用具等を必要な国へ寄贈する事を積極的に行いたい、受け取る側の意識にばらつきがあると考えられる事、指導者の有無も重要なポイントとなるので、国事情について調査している。

環境担当委員会

◆(社)日本フェンシング協会

当協会では、環境委員会を設置し活動している。

主な活動内容は、環境保全の啓発活動として、協会主催大会会場にバナー(横断幕)・スポーツと環境ポスターの掲示を行っている。

特に、トップレベル選手を対象とした「高円宮杯フェンシングワールドカップ」、ジュニア選手を対象とした「JOCジュニアオリンピックカップフェンシング選手権大会」では、バナー(横断幕)・スポーツと環境ポスターの掲示、パンフレットの配布、分別収集用のゴミ箱設置による資源回収を実践している。

また、フェンシング競技で使用される装備類(マスク・剣)の破損品回収を一元化することにより、一般ゴミとの分別を図り、再利用可能な資源として活用できるよう取り組んでいる。

今後は都道府県レベルの大会についても環境保全の啓発に努めていきたい。

フェンシングの装備品については安全面の問題から再利用が難しく、より一層の回収一元化を推進することにより、資源化を図っていきたい。

事務局ではペーパーの再利用、ペーパーレス化を図ることで環境保全に努めていく。

◆(財)全日本柔道連盟

財団法人全日本柔道連盟では、現在、環境委員会を設置していないが、柔道ルネッサンス委員会と事務局が中心となって環境への取り組みを実施している。平成19年度は、単に全国レベルの大会だけでなく、都道府県柔道連盟・協会における柔道ルネッサンス委員会が主導し、多くの都道府県レベルの大会等において、観客に対するゴミ持ち帰りの呼び掛け、ゴミ分別の徹底、参加者全員による大会終了後の会場内清掃等、会場美化運動が実施されるようになった。

また、環境省との連携による「チーム・マイナス6%」キャンペーンを次の3大会で実施し、特に少年に対して「地球温暖化防止活動」の重要性を訴えた。

1. 平成19年度全日本選抜少年柔道大会(平成19年9月23日、東京武道館)
2. 平成19年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会(平成19年11月17~18日、千葉ポートアリーナ)
3. 第21回近代柔道杯全国中学生柔道大会(東京武道館)

柔道界としては、嘉納治五郎師範の遺訓である「精力善用」「自他共栄」という柔道の根本原理を、「人と自然との共存」というテーマにおいて応用実践することで、今後も環境保全に努めていきたいと考えている。

事務局長 津沢 寿志

◆(財)日本バドミントン協会

本会では平成18年4月1日より、初めて環境委員会を正式に立ち上げました。今年が二年目となり、環境委員会としては会員の環境保全の意識を高めることを重点的におこなうこととしました。

評議員会、理事会にてより多くの会員に案内していただくためにポスター、パンフレットを配布し環境保全の意識を高めることを徹底いたしました。

また、本会の主催する大会にポスターを配布し、開催会場での掲示を依頼しました。

特に観客の多い日本リーグを中心に全国に配布いたしました。

その他、国内事業部と連携をとり、昨年と同様ですが大会参加者、主催大会すべての開催県・主管団体に対して以下三つのお願いをいたしました。

特に今年度は大会要項に必ず記載することといたしました。

- (1) ゴミの分別収集に協力してください。
- (2) 部屋から出るときにはエアコン、テレビ、ライトのスイッチを消してください。
- (3) マイ菌ブラシを持参して大会に参加して下さい。

また、大会主催者側として、バドミントンは風の影響があると競技に支障をきたします。体育館内は閉切りにして、空調を使用する機会が多くなりますが暖房は極力使用しないこととし、冷房についても喚起を行うことにより、少しでもエネルギー浪費の削減に努めています。

◆(社)日本ライフル射撃協会

日本ライフル射撃協会では、昨年度より総務委員会に「環境部会」を設置した。環境保全への取り組みと、会員の環境意識向上を図る施策の立案と実行を担当する。

昨年に引き続き使用銃弾(鉛弾)の回収と処理作業に注力した。そのほか、環境ポスターやパンフレットの会員への配布による啓発活動やゴミの分別回収も実施した。

今後も環境保全とライフルスポーツの振興に努める。

総務委員会 環境部会長 松丸喜一郎

◆(社)日本近代五種・バイアスロン連合

昨年9月に開催した、第2回JOCジュニアオリンピックカップ兼第4回チャレンジ近代五種国際大会in千葉は、韓国・台湾・オーストラリアそして日本による4カ国対抗のジュニア大会である。

近代五種の各種目のうちの「走る、泳ぐ、撃つ」のみを実施して将来の選手発掘と育成を目標とした各国の意向を本連合がまとめて、国際大会に発展したものである。本連合の荻原副会長は毎回参加しており、行く行くは団体種目にも参加するという。

また、スポーツの環境保全を国際的なレベルで啓発し実施していることで、各国からも高く評価されている。

大会参加者は、全員で食事の後始末等々を、それぞれが各自で仕分けして環境の保全に協力している。外国選手も本連合役員の指示に従い、快く協力する。

2008年からは、アジア近代五種バイアスロン連合の主催となる予定のこの大会は、国際的にも環境保全に大きな役割があるようである。

古代オリンピックから2716年の歴史を持つ近代五種は、環境保全にも率先して活動し、古くても新しい行動を行っている。

◆(財)日本ラグビーフットボール協会

日本ラグビーフットボール協会は、平成19年4月1日より管理委員会に環境部門を設置した。環境部門委員によりJOC、各スポーツ団体等が既に行っている環境活動への取り組みの研究及び検討を行い、ラグビーが貢献できる環境保全に関する啓発・実践活動の推進に向けた事業計画の策定と組織内の協力体制構築に着手した。

主な活動は次のとおり

1. JOC主催の「スポーツと環境セミナー」(9月)「スポーツと環境担当者会議」(11月)出席
2. 理事会に対してラグビーを通じた環境保全の啓発・実践活動推進を提言、環境活動の宣言及び事業活動を推進していくことが正式に採決された。
3. 秩父宮ラグビー場・事務局にてJOC環境ポスターの掲出中。
4. 3月8日、秩父宮ラグビー場にて開催の日本選手権を皮切りにゴミ分別協力の場内アナウンスを開始した。
5. 3月31日、(財)日本ラグビーフットボール協会は環境保全に向けた国民的プロジェクトである『チーム・マイナス6%』法人・団体チーム員として正式参加登録を行った。
6. 平成20年度環境推進活動に向けた実施計画の策定を行った。
7. 4月13日日本協会ホームページにて『環境保全活動』推進宣言を配信(チーム・マイナス6%HPとのリンク)、機関誌「RUGBY FOOTBALL」07年度第5号にて『環境保全活動』推進宣言を掲載した。

平成20年度は、日本ラグビーフットボール協会としての環境保全のための実践活動スタートの年と捉え、チーム一丸となって環境活動の推進を進めていく。

環境部門 高野敬一郎、児玉隆一郎、岩上教行

◆(社)日本山岳協会

当協会における環境保全に関する活動は、登山者がフィールドとしている山岳地域の自然環境保護と環境保全を中心に活動している。具体的には

- ① 独自制度である「自然保護指導員制度」の普及推進
- ② 自然保護委員総会(各都道府県に1名配置)の開催
- ③ 環境省等関係する団体と連携した自然環境保護活動
- ④ 山岳地域におけるゴミ捨て防止、トイレマナーの向上等の推進
- ⑤ 各地域における清掃登山等の実践

等年間を通して活動している。

また、昨年は、山岳自然保護活動を実践している団体(日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟、日本山岳会、日本ヒマラヤ協会、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト、東京都山岳連盟、日本トイレ協会)と共同して、松本国際山岳自然環境会議を開催した。この会議では、アジア各地からの代表者から自国での自然保護活動の状況等報告をして、情報交換をした。特に注目されたのは、ネパールから地球の温暖化に伴う氷河の融解による天然の湖が3000個もでき、今その決壊の脅威にさらされている実態が報告されたことだ。

また、温暖化の影響と思われる現象は日本でも多く出てきている。その一つにライチョウの生息す

る高山帯の環境の変化がある。人間が現在の生活を維持すれば、温暖化は止まらないであろう。山岳地域の生ゴミ、し尿問題等々登山者として何ができるかを考え、行動していくこととしている。

◆登山者のマナー

- 1 自然を傷めないようにする
植物の採取、湿地帯等への踏み込み等をしない。
- 2 水場を汚さない
残飯等は持ち帰る。洗剤は使用しない。水場の上流には立ち入らない等。
- 3 山に持ち込んだものは必ず持ち帰る。
山では焼却しない。ゴミを埋めない。携帯用灰皿の持参。
- 4 ゴミを持ち込まない工夫
飲料水は水筒、テルモスを利用。食材は多く持ち込まない。食べられる量だけ調理する。
- 5 トイレマナーを守る
登山口で済ませ、また、携帯トイレの使用を習慣付ける。
- 6 その他
野生動物への配慮(ペットの持ち込み等)、移入植物の侵入への配慮。

◆(社)日本カヌー連盟

本連盟では、「環境対策委員会」において従来行なってきた「クリーンリバー・クリーンウォーター活動」の推進とJOCスポーツ環境委員会提供ポスター及び横断幕を国内主要競技大会において掲示し、大会期間中の環境保全に対する啓発活動を行ってきた。

「クリーンリバー・クリーンウォーター活動」は1981年より各種大会において利用する河川、湖等において競技会開催期間中の水上及び周辺施設内の清掃を行なうことを主にして継続的に活動している。平成19年日本カヌースラローム選手権大会においては国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所の呼びかけで、愛知県下一斉に「川と海のクリーン大作戦」が実施され、会場準備にあわせて、大会スタッフと県内・県外から会場準備に訪れた選手たちが活動に参加し、矢作川カヌー場周辺の清掃活動を行った。

元々自然環境下で行なうスポーツであることから、環境保全に関しては選手・役員共に関心は高いが、観客を含め、更に環境に対する意識を高めるべく活動を行っていく。

環境対策委員長 八鍬美由紀

◆(財)全日本ボウリング協会

当協会におけるスポーツと環境保全についての取り組みは、前年度に引き続き常設委員会である「普及開発委員会」が担当となっている。

当協会が主催する全国大会における活動がその中心で、「監督会議」や「選手ミーティング」で環境保護とマナー遵守について注意喚起を行い、期間中は場内アナウンスやポスター掲示、パンフレットの配布等により、選手や役員はもちろん、応援や観戦に来場した方々に対してもマナーの向上を促している。

ボウリング競技では競技エリアの床面に水分やホコリ、汚れ等が残るとプレーに悪影響を及ぼすため、ドリンク類や滑り止めパウダー等の使用は競技エリアの外で、とルールに定めている。上級者になるほど敏感になるこのことについて、ジュニアをはじめ試合慣れしていない競技者に対しては、暗黙の了解で済ませぬようはっきりした注意喚起が必要であり、活躍の舞台が最高のコンディションであ

るために、競技者自ら努力することが必要である、ということ、ジュニアの集まる大会では特に力を入れてPRを行っている。

またここ数年、ジュニアの大会を地方行政との連携により開催し、食事や宿泊まで主催者側で準備をする大会や行事が増えており、競技場（民間施設）近隣の公共施設に休憩所を設けるなどの手配ができるようになった。飲食のスペースを別にすることで、競技エリアの環境保護にも効果があり、競技の合間の昼食（お弁当）を分別して片付けさせるなど、競技の枠を超えてマナーを覚えてもらう良い機会と考えている。

ボウリング競技の競技場はほとんどが民間施設であり、企業側としても場内整備には努力されているが、一般営業中に練習する際などは「禁煙・喫煙」の面がなかなかクリアできない課題となっていた。（ルールでは競技中の競技者は禁煙、大会中は場内禁煙）近年の法整備により場内禁煙化、分煙化も進み、今後はより良い環境でプレーができるようになると思われる。当協会としては今後も「施設を大事にすることが、自分の最高のプレーを引き出す」ことを強くアピールし、競技者同士で意識が向上していくよう促してゆきたい。

◆日本ボブスレー・リュージュ連盟

日常の環境保全に関する取り組みとしては、ワールドカップを初め全日本選手権大会等各種大会、競技会運営では、分別袋等を用意しごみの分別、持ち帰りに努めている。また、事務局ではエネルギー節減の他コピー機変更に伴いPCから直接faxやプリンターとして使用したり、会議資料のコンパクト化、ペーパーレス化とコスト節減に心がけ、ものを大切にす3R（Reduce, Reuse, Recycle）実行に日々努めている。

しかしながら、人工トラックの場合その競技施設自体が、自然の山を切り開き、莫大な費用をかけて建設した上に、冷却施設や電気代等、毎年のランニングコストも大きい。それに反して、競技人口が少なく、競技施設の他の利用価値がないということ、それだけで環境に配慮したスポーツとは胸を張って言えないのが現状である。

そこで、スポーツと環境保全に関する啓発・実践活動として実践していることに、競技施設長野市ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）の夏場の環境整備作業がある。例年、地元長野県連盟は8月の最初の日曜日と決め、7年前から「夏フェスタ・イン・スパイラル」という名称で、この事業を行っている。最初は、普及・強化事業の一環として、夏場にも広くそり競技の普及をはかろうという目的で始めた。

この日は、連盟の選手・役員だけでなく、地元の長野市浅川地区の住民を中心に構成された「浅川スパイラル友の会」・選手の関係者で構成された「リュージュ振興会」・地元の浅川小学校という団体が集まり、広大な敷地内の草刈りやゴミ拾いを行う。今回は参加者が100名を越えた。選手も一緒に参加し、地域住民や子ども達と汗を流しながら、この活動を行っている。子ども達にとって選手たちが、自分のお世話になっている競技施設の草刈りをしている姿を見るということは、大変なインパクトがあるし、自分もあんなスポーツ選手になりたいという気持ちを持つてのではないかと期待している。汗を流して自分の競技する場所をきれいにしている選手の姿を目の当たりにすることは、未来ある子ども達に、そのような意識を育てる活動こそ、大きな意味でスポーツを通じた環境保全の啓発活動になると考えた。

さらに、そりスポーツと環境という面で考えていきたいことがある。雪国で自然と生まれた子ども達のそり遊びがある。現在、競技施設が長野市ボブスレー・リュージュパークのみという状況の中では、選手は増やしたい、しかし増やせば、十分な練習量が期待できないと言ったジレンマがある。もう一

度、私たちは、その原点に戻り、ふんだんにある雪を使った普及活動ができないか考えている。もともと、そり遊びが持っている楽しさに目をつけて、普及活動ができないかということである。そこにはアイデアや工夫、また情報提供のあり方など、子ども達に興味を起こさせるための壁はあると思うが、それこそ環境を生かしたスポーツ活動となるはずである。スポーツにとって恵まれた環境とは何だろうと考えると私たちは、まず与えられた自然環境を活用すること、それが環境保全への意識を育てる一つと考え、今後もそり競技発展のため、努力していこうと思う。

事務局長 池田芳正

◆全日本アマチュア野球連盟

●日本野球界としての取り組み

北海道にあるアオダモの木は、バット材として世界一と言われている。ただし、バット材として適するまでには70年以上もかかるため、将来的な木製バットの安定供給について危惧されていた。

しかしながら、近年、北海道大学大学院農学研究課や北海道森林管理局の調査、研究により植林技術が確立され、平成14年には「NPO法人アオダモ育成の会」を設立することができた。

これにより、植林技術者と各種野球団体の代表者が中心となって、毎年計画的に苗木を植林して将来の野球バット用材の確保を図るとともに、植林や草刈りなどをおして植栽環境保全にも貢献できるようになった。

野球界としては、野球を愛する人々の熱意で北海道の大自然の環境保全に貢献しながら、世紀を越えて“バットの森”を育てていきたいと願っている。

全日本アマチュア野球連盟事務局次長・スポーツ環境委員会委員長／
NPO法人アオダモ育成の会事務局長 内藤雅之

●平成19年度植樹報告

日時	場所	参加者	植樹本数
6月16日	新冠国有林2164林班ろ小班	約180名	1000本
7月21日	苫小牧国有林1357林班い2小班	約130名	200本
9月22日	由仁町道有林119林	約200名	500本
10月20日	苫小牧東部地域つたもり山林内	約50名	100本

●平成19年度植林実施球場

日時	場所
7月19日	坊っちゃんスタジアム
7月20日	東京ドーム
10月26日	札幌ドーム
10月29日	ナゴヤドーム
11月21日	宮城球場

◆(社)日本トリアスロン連合

JTU環境委員会は2002年に発足以来、現在まで精力的な活動を続けてきた。

2008年は世界的規模で取り沙汰されている「地球環境問題」を大きなテーマとし、JTUでも日本のスポーツ界に率先して活動していく予定だ。

具体的には国内でのITU・JTU主催、または公認の大会において大会組織から事前に「環境対策計画書」の提出を出してもらうことや、「エンバイアロメンタルディレクター（環境ディレクター）」の設置など。そのためにも、JTU競技・運営規則に「競技環境基準」を設けることを考えている。

JTUの環境スローガン

全国の加盟団体を通じて公募した環境スローガン、「水、風、大地との共生・・・トリアスロン」をご存じだろうか。全国の大会でもポスター、プログラムや大会会場での掲出など環境スローガンの活用を推進し、このスローガンを通して一人でも多くのトリアスリートが環境を意識することを目指し

ている。

「3R」。まず、身近にアスリートや大会主催者ができること

身近にできる基本的なことは資源、エネルギーの節減。そのためには大会やトレーニング中の三つのR(アール)、REDUCE(削減)・REUSE(再利用)・RECYCLE(再使用)の実行が不可欠だ。すべてのトライアスリートや大会主催者が自ら3R活動を実践することができたら、究極の目標である「大会開催でのゼロエミッション(排出物原則ゼロ)」が実現できるかもしれない。

◆日本セパタクロー協会

日本セパタクロー協会では、前年度に引き続きスポーツと環境保全に関わる啓発・実践活動を推進した。以下はその報告である。

当協会が主催した国内大会(全日本選手権、全日本オープン、JOCジュニアカップ)において、JOCスポーツ環境専門委員会から提供されたポスター及びパンフレットを、大会会場内で貼付・配布し、スポーツと環境保全活動の啓発を行うとともに、開会式や試合途中のアナウンスなどにより、ゴミの分別または持ち帰りを呼びかけた。また、排出ガス削減のため、役員及び参加者に公共交通機関の利用を徹底した。さらに、学生連盟主催の大会(学生選手権、学生オープン)においても、環境ポスターの貼付を行い、ゴミの分別収集を実施し、環境保全に対する意識向上に努めた。

事務局では、温室効果ガス削減対策として、事務室内の温度調節を夏は28度、冬は20度に設定するよう心がけ、資源節約のためコピー用紙を両面使用したり、ゴミの分別を徹底。電気やエアコンをこまめに消すようにし、ペーパーレス化のためファックスでの文書送受信を極力控え、Eメールを利用した文書データのやりとりに努めた。

当協会は、引き続きNPO法人グローバル・スポーツ・アライアンス(GSA)が推進しているエコフラッグムーブメントに賛同し、GSAナビゲーターである寺本進選手が中心となり、各種大会会場やイベント会場などでエコフラッグを掲示して、地球環境保全の重要性を呼びかけた。

地球環境問題がますます深刻化している現在、スポーツと環境保全に関わる啓発・実践活動の役割がさらに重要性を増すと考えており、当協会においては、今後都道府県協会にもその重要性を呼びかけ、活動の輪を全国に広げていくとともに、国際交流委員会と協力し、国際協会及び各国協会への働きかけを行い、スポーツと環境保全活動の国際レベルでの展開も推進していきたいと考えている。

環境委員会委員長 三澤 勝

◆(特非)東京オリンピック招致委員会

東京オリンピック招致委員会は、2016年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を目指して、東京都とともに、環境を最優先としたオリンピック・パラリンピック競技大会を実現するために、様々な環境施策を計画しています。

(競技施設の特徴)

2016年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の競技会場の特徴として、コンパクトな会場配置や既存施設の活用が挙げられます。都心の半径8km圏内に、射撃とサッカーを除く全ての競技会場を配置することにより、大会関係者などの輸送にかかる環境負荷を低減することができます。また、予定している31競技会場のうち、21会場で既存施設を活用します。既存施設のうち、東京体育館、国立霞ヶ丘競技場、国立代々木競技場、日本武道館は、1964年東京オリンピック競技大会のレガシーです。

(環境施策)

2016年オリンピック・パラリンピック競技大会の環境施策として、下記の事項を東京都とともに、積極的に取り組んでいきます。

①カーボンマイナス・オリンピック

地球温暖化をもたらすCO2排出量を2020年までに2000年比で25%削減させることを目的とした東京都の施策である「カーボンマイナス東京10年プロジェクト」と密接に連携して、オリンピック・パラリンピック競技大会においても、先進的な省エネ技術の活用や太陽光発電など再生可能エネルギーの積極的導入、低公害車の活用などにより、カーボンマイナス・オリンピックを実現します。

②水と緑の回廊で包まれた、美しいまち東京の復活

臨海部に馬術競技などの会場となる「海の森」(写真1)をつくるとともに、電柱の地中化による街路樹の植樹、公立小中学校・都立学校などの校庭の芝生化(写真2)、都市公園の整備などにより、新たに1,000haの緑地を創出し、都心の大規模緑地までを緑のネットワークで結びます。また、人々が集い、にぎわいあふれる水辺空間を創造します。

③環境教育プログラムの実施

NGO等と広く連携して、世界の子供達を対象とした持続可能な発展に関する環境教育プログラムを実施します。

2016年東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、都市と環境との調和を目指し、東京全体が水と緑の回廊で包まれたアーバン・オリンピックとなります。また、オリンピック・パラリンピック競技大会で実施する様々な環境施策を、世界中の国々に情報発信していきます。



(写真1)



(写真2)

(2) 本会加盟団体スポーツ環境担当一覧

List of environment commissions in each JOC affiliated NFs and organizations

平成20年6月16日現在

団体名／設置年月	委員会名／役職／氏名	副委員長・委員ほか	事務局
日本陸上競技連盟 H.11.4	総務委員会 委員長 鈴木義元	委員：総務委員	
日本水泳連盟 H.17.4	スポーツ環境委員会 委員長 佐野和夫	委員：岩崎恭子、末広昭人、山口善久、齋藤由紀、中村康英、岡田奉代、草分容子、長谷川雪恵、泉 正文、有久 暢、小川知伸	事務局総務次長 小川知伸
日本サッカー協会 H.19.3	環境プロジェクト リーダー 田嶋幸三	サブリーダー：犬飼基昭 メンバー：岡田武史、濱口博行、石 弘之、羽生英之、真田幸明、加賀山 公 幹 事：湯川和之、藤ノ木 恵、玉利聡一、窪田慎二	
全日本スキー連盟 H.10.10	スポーツ環境委員会 委員長 瀬尾 洋	副委員長：村里敏彰 委員：小林俊勝、上野 満、林 辰男、山田 隆、古川年正、五十嶋博文、佐藤 昭	
日本テニス協会 H.17.4	環境委員会 委員長 橋爪 功	副委員長：宗 中正 常任委員：秋山英宏、飯田 剛 委員：松岡修造、武田 整、佐々木信子、中原かおり、吉田友佳、水野加余子、大西哲夫、阿部幸恵、丹羽奈生子、野村 元	
日本バレーボール協会 H.13	スポーツ環境委員会 委員長 伊藤 晃	委員：全国評議員（予定）	
日本体操協会 H.15	環境委員会 委員長 朝倉正昭	副委員長：遠藤幸一 委員：秋田昌彦、渡辺 仁、千葉末次、小竹英雄、三輪康廣、秋間律男、池谷幸雄、森 関光、播田貴浩明、永田敏雄、池田真喜子	
日本スケート連盟 H.16.10	スポーツ環境委員会 委員長 平松純子	副委員長：猪狩信吾、山崎弘雄 委員：加藤真弓、安藤美和子、須藤範久、吉川敏彦、新田俊彦、武田庄司	
日本レスリング協会 H.15	スポーツ環境委員会 委員長 鎌賀秀夫	委員：菅 芳松	
日本セーリング連盟 H.17.4	環境委員会 委員長 岡田達雄	副委員長：荒居達雄 委員：豊崎 謙、菊地 透、長嶋匡之、瀧山朗子	事務局長 武村洋一
日本ウエイトリフティング協会 H.17	スポーツ環境委員会 委員長 岡本 実	副委員長：平良朝治 委員：野呂紀代志、舟喜信生、橋本建郎、後藤節哉、星野忠人	
日本ハンドボール協会 H.18	環境委員会 委員長 兼子 真	委員：伊藤宏幸、家永昌樹	事務局長 羽田裕一
日本自転車競技連盟 H.20.3	総務委員会 委員 久保田茂		事務局長 久保田茂
日本卓球協会 H.17.6	環境委員会 委員長 後藤広子	担当理事：小川敏夫 副委員長：中村喜和 委員：板垣賢一、若尾輝夫、佐藤正喜、折居克春、佐藤 勲	事務局長 白川誠之
全日本軟式野球連盟 H.17.5	環境担当委員会 委員長 野々市孝	委員：大山則夫、吉田麻実	事務局員 吉田麻実

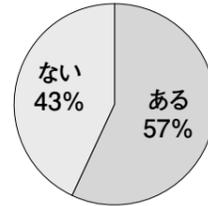
団体名／設置年月	委員会名／役職／氏名	副委員長・委員ほか	事務局
日本馬術連盟 H.17.5	スポーツ環境委員会 委員長 土橋武雄	委員：矢作直也、小山 香	
日本フェンシング協会 H.15	総務委員会 委員長 山崎 豊	副委員長：西山 勝、村田儀昭 委員：釜井昭人、永井 誠、佐藤 衛、中村立雄	事務局長 藤原義和
全日本柔道連盟 H.13.1	柔道ルネッサンス委員会 運営委員長 嘉納行光	運営委員代行：松下三郎 運営副委員長：岩崎安孝、津沢寿志 委員：山下泰裕、細川伸二	
日本ソフトボール協会 H.16.4	スポーツ環境委員会 委員長 鈴木 征	委員：尾崎正則、三宅 豊、奥水健治	事務局長 横田博之
日本バドミントン協会 H.18.4	環境委員会 委員長 今井茂満	副委員長：近岡 昭 委員：池田公子、本多修治	
日本ライフル射撃協会 H.17.11	総務委員会 環境部会 部会長 松丸喜一郎	委員：永谷喜一郎、平井宏治、田村恒彦、深川史麻、黒岩顕彦	
日本近代五種・ バイアスロン連合 H.18.3	環境委員会(近代五種部門) 委員長 荒木大三 環境委員会(バイアスロン部門) 委員長 角館昭二	副委員長：梅原弘史 委員：伊丹、横井、伊東、田中英一、成田寛志	事務局長 菊地孝之
日本ラグビーフットボール協会 H.19.4	管理委員会 環境部門 部門長 高野敬一郎	環境委員：児玉隆一郎、岩上教行	事務局長 岡本武勝
日本山岳協会 S.52	自然保護委員会 委員長 若月東兒	副委員長：浅見 豊 常任委員：青木敏雄、梅山義弘、小高令子、斎藤長作、徳永邦光、廣田 博、小原美子、三ツ木達男、杉本憲昭、松隈 豊、山口泰雄、山口定男	
日本カヌー連盟 H.17.4	環境対策委員会 委員長 八坂美由紀	委員：本田 泉	事務取扱 岩上禎宏
日本アイスホッケー連盟 H.19.4	環境委員会 委員長 土田 忠	副委員長：菱沼征夫 委員：石川伸吉、谷田順一、細谷妙子	
全日本銃剣道連盟 H.16	環境委員会 委員長 兼坂弘道	委員：大塚 享、関 高、村井敏夫、西尾耕一郎、青木正隆、石川貴史、上萬 淳、上村 正、竹原光則	
クレー射撃協会 H.14	鉛問題対策委員会 委員長 高橋義博	委員：人選中	事務局 大江直之
全日本ボウリング協会 H.16	普及開発委員会 委員長 榎本隆明	副委員長：岡本 脩 委員：黒河敏一、金安利和、山下哲郎、荻野和男、山田祥徳	事務局 担当者 宮内久美子
全日本アマチュア野球連盟 H.18.5	スポーツ環境委員会 委員長 内藤雅之	委員：柴田 穰	
日本トライアスロン連合 H.20.4	環境委員会 委員長 國分孝雄	副委員長：松生治子、森重 寛 委員：鈴木信之、小金澤光司、松尾孝之、志村 廣、松本 之、辻谷博之、豊原秀史、深井孝道、清水正博、亀井由美子、三由弘一、野口隆平	事務局長 中山正夫
日本セパタクロー協会 H.17.4	環境委員会 委員長 三澤 勝	副委員長：寺本 進 委員：飯田義隆	事務局長 矢野順也

(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について

Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs

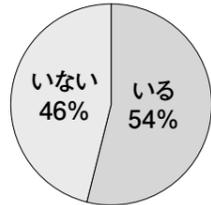
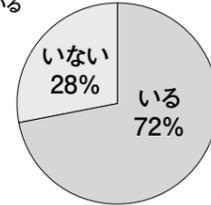
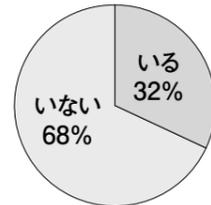
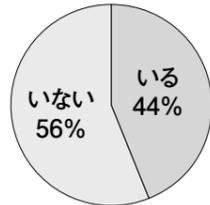
【平成 19 年度】

1 貴団体にスポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクト等がありますか



2 貴団体に環境保全啓発のため実施されている活動について

- ⑦ 団体・組織にかかわる人々にマニュアルなどで啓発している
- ⑧ 選手・コーチにマニュアルなどで啓発している
- ⑨ トップ選手や影響力のある人々に機会があれば環境保全のアピールをするようすすめている
- ⑩ 環境に配慮した用品・用具を使用し、また選手に推奨している

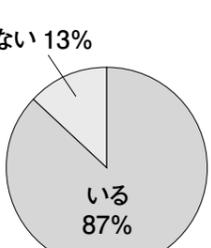
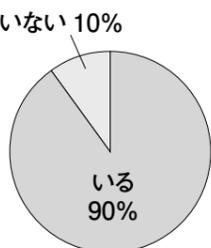
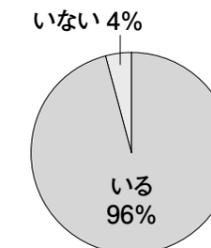
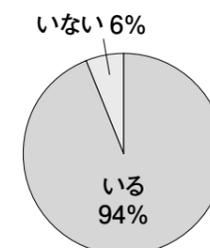


⑪ その他

- チームマイナス 6% の会員募集に積極的に参加
- チームマイナス 6% の活動への積極的な参加
- 会員登録手続の項目にチーム・マイナス 6% チーム員宣言を加えている。会員証 (約 11 万人) にチーム・マイナス 6% ロゴを掲載してアピールしている
- 公認指導者養成講習会での啓蒙、環境レポートの発行
- 炭酸マグネシウムの使用について研究・検討中
- 帆船指示書に「海にゴミを捨てない」ことを明記
- 競技大会審判・監督会議時に口頭で説明・啓発活動を実施
- 独自の啓発チラシ・ポスターを作成
- 理事会にて案内
- 鉛弾頭の回収、CO2 ガスの使用禁止等
- ナショナルチーム合宿等においてポスター貼付や訓話等
- 施設設備、用具の環境保全について検討している
- 木製バット材の植林
- 強化本部との連携による啓発

3 競技会における環境保全のため実施されている活動について

- ⑫ 競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮している
- ⑬ ゴミの分別を実施している
- ⑭ ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している
- ⑮ 今後競技会場建設が計画されるときは環境保全に配慮している

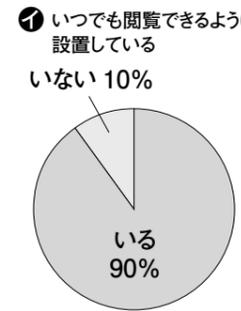
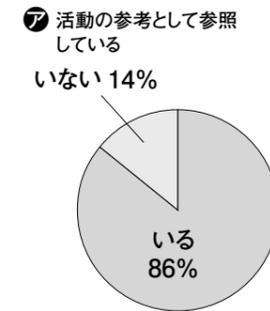
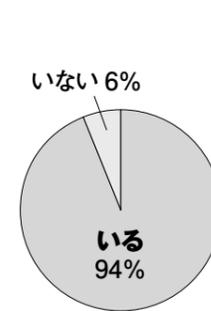


⑯ その他

- 連盟独自の PR ポスターの作成を検討中
- 競技会で保潔・啓発についてアナウンス実施
- エコバッグの配付
- 大会参加時にマイ歯ブラシ持参、電気の節約等を案内
- 水面上のゴミ等をカヌー選手等で清掃活動を行なっている
- 来年度、全空連会館設立にあたり環境保全計画をしている
- 環境保全プロジェクトは組織していないが常に啓発活動に努力中
- 表彰パーティーでのゴミの分別

4 JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか

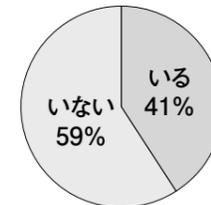
いると答えられた場合：どのように活用していますか



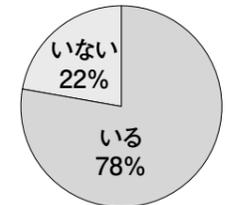
⑳ その他

- 一部をコピーし会議資料として配布
- 総務及び各研究会等で環境改善を PR している
- 施設設備業者に提供している
- 大会会場でのゴミは持ち帰るよう依頼している
- Eメールでの内容回覧

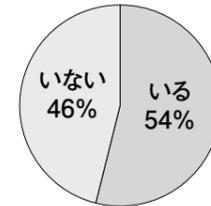
5 機関誌、大会プログラム等に環境保全について掲載していますか



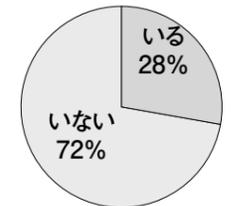
6 事業実施の時に、横断幕、ポスター及びパンフレットを配布していますか



7 会議、大会開催時に環境についてのスピーチを行っていますか



8 貴団体は環境省の「チーム・マイナス6%」のメンバーに登録していますか



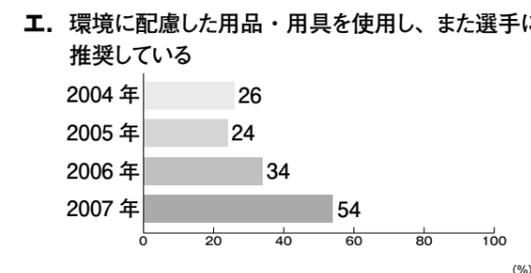
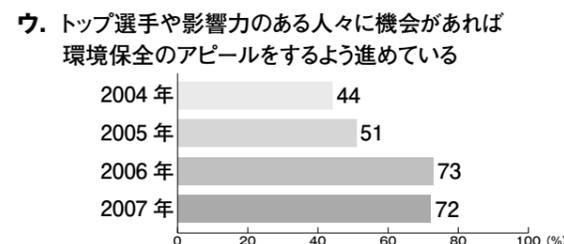
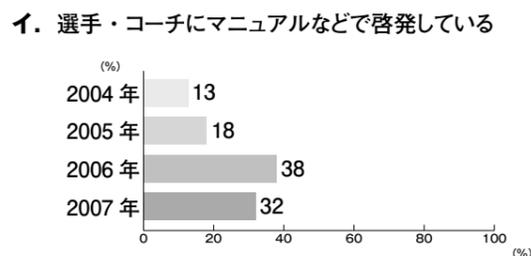
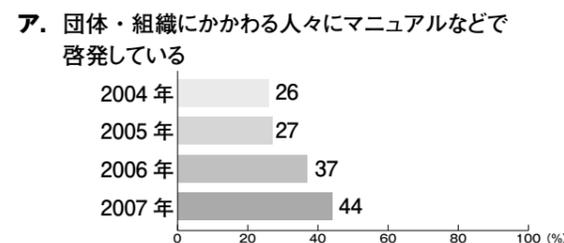
9 最後に、スポーツと環境についてご意見等がございましたらお書きください

- 現在「温暖化がすすむとせっかくに消えるスポーツがある。」をキャッチフレーズに啓発活動を推進しているが深刻な問題として更に推進しつづけたい
- 毎回、会議・フォーラム等に出席し重要性は認識しているが協会ぐるみで、という状況には至っていない。来年度には委員(担当)を決めキャンペーン実施も検討している
- 本年度より環境部門を設置のため他団体の実施事例を学びながら環境保全への推進を進めて行く
- トライアスロンのスイムが海そして湖沼河川を利用しているため環境保全には重大な関心を持っている。そのため環境を良くするためにゴミ拾いから水質改善にいたる各案を試行錯誤しながら進めている。またオリンピック開催立候補都市が「トライアスロンが出来る良好な環境」を強調するケースが多く、東京都心部や国内各地でのトライアスロン開催は世界に誇りうるものである。今後とも JOC の環境テーマに則しながら環境運動を促進してゆく

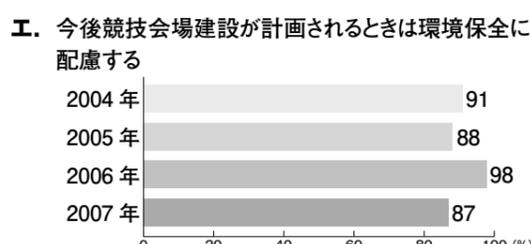
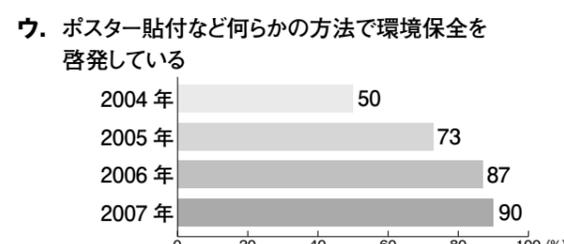
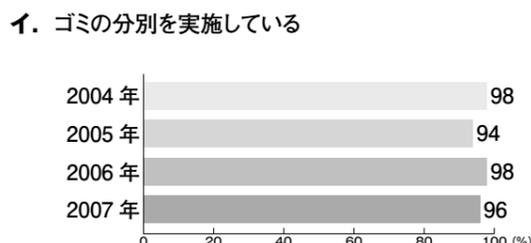
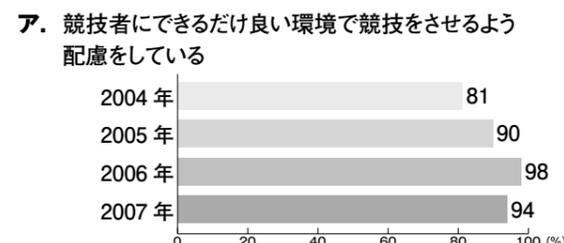
【年次推移】 ※数値はすべて「はい」の割合



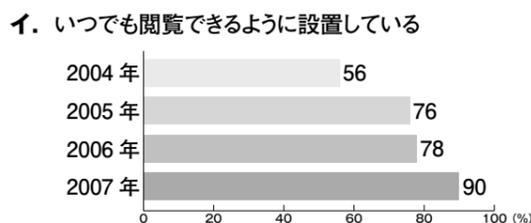
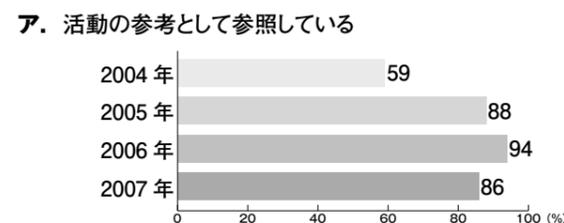
2 貴団体に環境保全啓発のため実施されている活動について



3 競技会における環境保全のため実施されている活動について



4 JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか



(4) 国際大会での活動

JOC environmental activities at the International Games

環境保全について高い意識を持ちましょう

第24回ユニバーシアード競技大会への予選を勝ち抜き、大会に参加される日本代表選手の皆さんには全力を尽くし大きな成果を上げられるよう健闘を期待しています。

さて、20世紀の当初16億人だった地球人口は、21世紀に入った今や、約4倍の65億人に達しています。この100年で人類は文明を科学技術によって飛躍的・加速度的に発展させ、便利な社会を築いてきました。しかし便利になった半面、石油や石炭を利用したエネルギーの総量が爆発的に増え、温室効果ガスである二酸化炭素の排出が地球の平均気温を確実に上昇させてしまいました。

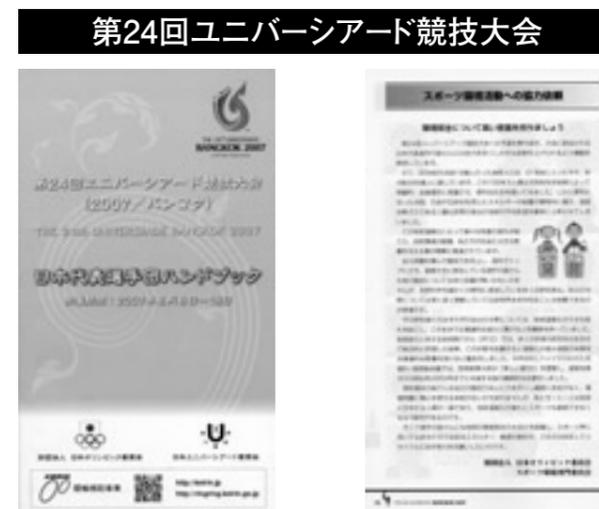
この地球温暖化によって様々な気象の変化が起こり、自然環境の破壊、私たちの社会に大きな影響を与える事が頻繁に報道されています。

自ら研鑽を積んで競技力を向上し、国内でトップに立ち、国際大会に参加している選手の皆さんが他の競技については余り知識が無いように、自然科学を細かく分野別に探求している多くの研究者は、自らの分野については深く良く理解していても他の分野については余り知らないのが実情です。

その研究者たちはそれぞれ自分の分野については、地球温暖化が大きな変化を起こし、このままでは壊滅的な変化に繋がると危機感を持っていました。気候変化に対する政府間パネル(IPCC)では、多くの学者の研究を付かせて総合的に評価した結果、この状態を放置すると温暖化が進み地球の生態系は壊滅的な影響を受けると警告をしました。今年6月にドイツで行われた先進8ヶ国首脳会議でサミット構成国は、安倍総理大臣が「美しい星50」を発表し、温室効果ガスの排出を2050年までに現時点から半減する旨の画期的な合意をしました。

現役選手の皆さんは自己の競技力向上に力を尽くし練習に余念がなく、環境問題には関心が薄いかもしれませんが、私たち一人一人は地球に生存する人類の一員であり、地球温暖化が進むとスポーツも継続できなくなる可能性があるのです。

そこで選手の皆さんにも地球の環境保全の大切さを認識し、スポーツ界に於ても自分たちで出来るエネルギー・資源の節約や、ごみの分別をしてリサイクルに回す努力をお願い致します。



財団法人 日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門委員会

(5) 環境省との連携について

Collaboration with the Ministry of Environment

子供たちのために未来を取り返そう 環境省「チーム・マイナス6%」との連携

——国内スポーツ競技団体から地球温暖化問題の危機意識を啓発

地球温暖化は待ったなし

すでに始まっている地球温暖化。もう待ったなしです。北極圏の氷が溶け、グリーンランドの氷床も融解、台風の凶暴化や干ばつ、海水面の上昇や砂漠化による難民が数億人単位で発生すると言われています。そしてClimate Change (気候変動) からClimate Security (気候安全保障) へ。この地球規模の問題を最小限の被害に留めることができるのは、私たち人間の行動です。

JOCは、京都議定書に基づき温室効果ガスを削減するための大規模国民運動「チーム・マイナス6%」に2005年の発足時から参加し協力、連携を深めてきました。世界各国の大会や合宿などで実感する温暖化の危機。これを肌で感じているスポーツ界が模範となり温暖化防止に役立てるよう、JOCおよびJOCに加盟している国内スポーツ競技団体が率先して行動を起こしています。

チーム・マイナス6%とのコラボレーション

IPCC: Intergovernmental Panel on Climate Change (気候変動に関する政府間パネル) の科学情報を「生活情報」へ翻訳する必要があります。危機意識の醸成のためには、極地や海外の話も直接影響を受け、実感している「人」の生の声で伝え、私たち日本人が興味を持ち、且つ危機感を抱くニュースにする必要があると考えます。そのためにJOCとチーム・マイナス6%は、顔の見える情報発信をしていきたいと考え、アスリートや環境アンバサダーが自ら実感している地球温暖化の事実をメディアやイベントを通じて発信しています。また温暖化に関する世界の報道を分析し、日本人の四季感にあわせた最適なタイミングで、これらの取り組みの発表を行うことが重要だと考え、年間を通じて様々なスポーツ大会やイベントなどから発信しています。

危機意識やアクションの“私ごと化”

具体的なアクションとして選手、大会関係者がそのスポーツからのメッセージが書かれた横断幕を持って記念撮影を行います。このアクションは撮影された写真が様々なメディアに載ることで大きな情報発信ツールとなりますが、何よりも横断幕を持ったアスリートや大会関係者が地球温暖化の危機意識を「私ごと化」する機会でもあります。そして、その大会プログラムには、メッセージと当該競技のトップアスリートの肖像を使用した国内スポーツ各競技団体とチーム・マイナス6%のコラボレーション広告を掲載し、参加選手や観客の方々に向けて発信しています。さらにその大会会場にはチーム・マイナス6%のチーム員登録ブースを設けて、大会に参加する選手や運営スタッフ、そして観客の皆さんに参加を促してきました。2007年度のこの活動で個人チーム員登録は約103,000名、また登録した国内スポーツ競技団体も12団体となり、その成果が顕われています。

「ストップ温暖化!」のメッセージ

国内スポーツ競技団体それぞれのメッセージは、そのスポーツの精神や競技の特性、そして温暖化によって受ける被害などを踏まえて、チーム・マイナス6%事務局と何度も協議して作り上げた大切

な言葉です。このメッセージを今後も横断幕イベントの継続によって発信し続け、一人でも多くのスポーツファンの皆さんの心に届けて、未来の子供たちがいつまでもスポーツを愛せる地球を残していく「ストップ温暖化!」の市民運動の輪を広げていきたいと考えています。

スポーツ界から発信

2007オリンピックフェスティバルの開会のご挨拶で竹田会長から温暖化防止のメッセージを発信し、多くの競技団体のポスターを一同に会したことを契機に、「スポーツと環境」の広告展開を実施、主に12月発売のスポーツ専門誌にプログラム広告で使用した原稿を掲載、さらに3月21日の読売新聞を始めスポーツ新聞での掲載、Number創刊700号記念号では綴じ込みで「温暖化と戦うスポーツの歴史」特集を組み、別刷り冊子にしたものを競技会場で配布するツールとして活用しています。



Number700号記念号 3月20日売



読売新聞 3月21日全国朝刊

竹田会長が鴨下環境大臣を表敬訪問

2007年11月28日、JOCのスポーツ界における環境保全活動について報告を行うため、竹田恆和会長、環境アンバサダーの松岡修造氏、水野正人副会長、板橋一太スポーツ環境委員会委員長が、鴨下一郎環境大臣を表敬訪問しました。竹田会長は、これまでの環境保全活動についての報告を行うとともに、今後も環境保全を理解してもらおう活動をスポーツ大会やさまざまな活動を通じて加盟競技団体とともに推進していくこと、2016年のオリンピック招致活動では、いかに環境にやさしいオリンピックを開催するかが重要になるため、環境省とさらなる連携は不可欠とお話させていただき、それに対して鴨下大臣も万全な協力体制を組むことを約束されました。

文責：博報堂DYメディアパートナーズ

(6) スポーツと環境についてのレクチャー原稿

Lecture draft on Sport and Environment

短い一言のご挨拶の機会がある時は次の一言をお願いします。

「私達スポーツを愛するものは環境保全の大切さを理解し温暖化防止などにエネルギー・資源の節減やゴミの分別など出来る事から実行しましょう」

● スポーツと環境について5分レクチャー原稿

5分のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. スポーツと環境についての理解

(1) スポーツを愛する私たちも皆、地球人です

- ①スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかも知れませんがそれは幻想です。
- ②人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。

(2) 私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります

- ①地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行く事は不可能なのです。
- ②ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。
- ③よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行する必要があります。

(3) think globally, act locally (地球規模で考え、身の回りの出来る事を実行する)

- ①環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
- ②そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てば出来る簡単な事です。

2. 協力依頼

(1) まず、環境でどのような問題があるかを理解しましょう

- ①地球規模で温暖化が進み、それが原因で気候が大きく変動し、私たちの環境が破壊されています。
- ②農業、漁業、多くの産業が気候変動によって大きな打撃を受けています。
- ③生態系の根本である食物連鎖が途切れて絶滅種が多くなりつつあります。

(2) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

- ①エネルギー資源を節減する為に3R (Reduce, Reuse, Recycle) の実行
 - a. 削減 (Reduce)。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例：電気や紙の削減)
 - b. 再使用 (Reuse)。同じモノを出来るだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事が出来なくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。
 - c. リサイクル (Recycle)。使えなくなった物を上手く分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。(例：ペットボトル→繊維)
- ②夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減

- a. 冬には暖かい下着を着用し、或いはもう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることが出来ます。(ウォーム・ビズ)
 - b. 夏は出来るだけ涼しい服装や、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。(クール・ビズ)
- ③ゴミは分別してリサイクルをしやすいように工夫する。
 - a. 『混ぜればゴミ、分ければ資源』の言葉通り、廃棄物を分別する事で資源として再利用やリサイクルが可能になります。
 - b. 日常生活やスポーツ活動の中でも分別を心がけましょう。
 - ④温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用(二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用)をする樹木を増やす手伝いをしましょう。

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行しましょう。

スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進し社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

● スポーツと環境について15分レクチャー原稿

15分間のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. 私達は全員地球人です(宇宙船地球号の乗組員)

- ①146億年前に地球は形成されました。
- ②300万年前に人類が地上に出現しました。
- ③1万年前に大家族制による農業革命が occurred。
- ④20世紀は人類の転換期(文明の急速発達)でした。
- ⑤便利な社会になった反面、大量の化石燃料を消費する事によって温暖化が進み、気候が大きく変動し自然の破壊、環境の汚染が進んでいます。
- ⑥環境問題を列記してみましょう。
 - a. 地球温暖化
 - b. オゾン層破壊
 - c. 酸性雨
 - d. 野生生物種の減少
 - e. 森林の減少
 - f. 地球規模の砂漠化
 - g. 海洋汚染
 - h. 有害廃棄物の越境移動
 - i. 大気汚染

2. スポーツと環境についての理解

- ①スポーツを愛する私たちも皆、地球人
 - a. スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかも知れない

がそれは幻想です。

b. 人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。

②私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にすることを義務があります。

a. 地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行く事は不可能なのです。

b. ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。

c. よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行する必要があります。

③think globally, act locally (地球規模で考え、身の回りの出来る事を実行する。)

a. 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。

b. そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てば出来る簡単な事です。

3.スポーツと環境活動の経緯を見てみましょう

①1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林

②1976年デンバーオリンピック大会開催返上(経済・環境問題)

③1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた。

④1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた。(スポーツ・文化・環境)

⑤1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名

⑥1994年IOC 100周年パリ・コンGRESでスポーツと環境分科会開催

⑦1995年IOCにスポーツと環境委員会設置

⑧1995年第1回IOCスポーツと環境世界会議をスイス・ローザンヌで開催

⑨1997年第2回IOCスポーツと環境世界会議をクウェート・クウェート市で開催

⑩1999年第3回IOCスポーツと環境世界会議(ブラジル・リオデジャネイロ)でOlympic Movement's Agenda 21 (オリンピック運動の環境保全規約書)を採択、IOCで承認された。

⑪2001年4月JOCにスポーツ環境委員会設置、活動を開始

⑫2001年11月第4回IOCスポーツと環境世界会議を長野で開催

“Give The Planet A Sporting Chance” Olympic Movement's Agenda 21の実践

⑬2003年第5回IOCスポーツと環境世界会議をイタリア・トリノで開催

スポーツ関係者(選手、役員、IOC, IF, NOC, NF, OCOG, 地方政府、観客、放送、スポンサー、サプライヤー、建設業者など)が有機的に連携を取り合い、環境に対してパートナーシップを組むことが決議された。

⑭2005年第6回IOCスポーツと環境世界会議をケニア・ナイロビで開催

⑮2007年第7回IOCスポーツと環境世界会議を中国・北京で開催

⑯IOCジャック・ロゲ会長がIOCのスポーツ界における環境保全活動を認められ国連環境計画から「地球のチャンピオン」として表彰を受けた。

⑰IPCC(気候変動に関する国際パネル)の第4次報告と映画「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞

⑱IOCはUNEPが進める「10億本の植樹キャンペーン」の支持を表明

4.協力依頼

(1)まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べてみましょう

(2)「持続可能な開発」と「持続可能性」

①『「持続可能な開発」は92年リオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会シ

ステムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスを丁度いい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な社会の開発をしようというものです。

②『「持続可能性」は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ社会のどのような要素にもどこかで折り合いをつける必要があるのです。

(3)循環型社会の形成

①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。

②例えば、食品の生ゴミをある一定期間(約25日)酵素処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環している事になります。

③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。

④これを繰り返す事により新しい資源の節減が図られるのです。

(4)ゼロ・エミッション

①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。

②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物を分別回収すれば、それらはまた資源となるのです。

③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。

④ゼロ・エミッションのキーワードは「混ぜればゴミ・分ければ資源」です。

(5)高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

①エネルギー資源を節減する為に3R(Reduce, Reuse, Recycle)の実行。

a. 削減(Reduce)。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例:電気や紙の削減)

b. 再使用(Reuse)。同じモノを出来るだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事が出来なくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。

c. リサイクル(Recycle)。使えなくなった物を上手く分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。(例:ペットボトル→繊維)

(6)夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減

a. 冬には暖かい下着を着用し、或いはもう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることが出来ます。(ウォーム・ビズ)

b. 夏は出来るだけ涼しい服装や、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事が出来ます。(クール・ビズ)

(7)温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用(二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用)をする樹木を増やす手伝いをしましょう

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください。

スポーツをする人たち、見る人たちも平等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進し社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

● スポーツと環境について30分レクチャー原稿

30分間のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. 私達は全員地球人(宇宙船地球号の乗組員)

- (1) 46億年前に地球は形成されました
- (2) 300万年前に人類が地上に出現しました
- (3) 1万年前に大家族制による農業革命がおこりました
- (4) 20世紀は人類の転換期(文明の急速発達)でした
- (5) 便利な社会になった反面、大量の化石燃料を消費する事によって温暖化が進み、気候が大きく変動し自然の破壊、環境の汚染が進んでいます

2. 環境問題を列記し問題とその影響を見てみましょう

I. 地球温暖化

二酸化炭素などの「温暖化ガス」が増加する事によって地球の平均気温が上昇

- (1) 海面水位上昇による土地の喪失
- (2) 豪雨や干ばつなどの異常気象の増加
- (3) 生態系への影響や砂漠化の振興
- (4) 農業生産や水資源への影響
- (5) マラリアなど熱帯性の感染症発生数の増加

II. 大気汚染と酸性雨

化石燃料の燃焼などにより生じる硫黄酸化物や窒素酸化物などが大気中で酸性の化合物となり、雨などに取り込まれ地上に降る現象

- (1) 森林の衰退
- (2) 湖沼や河川などの酸性化とそれによる生態系への影響
- (3) 歴史的な遺跡や建造物などへの影響

III. オゾン層の破壊

「CFC」などの人工化学物質が地球を取り巻く「成層圏」に存在しているオゾン層を破壊する事

- (1) 皮膚がんや白内障の増加
- (2) 免疫抑制などによる人の健康への影響
- (3) 動植物の生育阻害など生態系への影響
- (4) 大気汚染などの影響

IV. 野生生物の減少

森林(熱帯林)の破壊、海洋汚染、砂漠化、地球温暖化、酸性雨によって野生の動植物が減少し種の絶滅問題

- (1) 遺伝子資源の減少
- (2) 観光・レクリエーション資源の減少
- (3) 生態系の破壊
- (4) 食物連鎖の破壊

V. 森林の減少

焼畑耕作や放牧地・農地への転換、過度の薪炭材採取、不適切な商業伐採などによる熱帯雨林、ロシア、カナダの北方針葉樹林の減少問題

- (1) そこに生息する野生生物種の減少
- (2) 土壌(表土)の流失
- (3) 森林に蓄積された炭素がCO₂となって放出される事による温暖化の進行
- (4) 水源の涵養機能や熱循環、海と陸との相互作用機能の低下

VI. 地球規模の砂漠化

干ばつなどの気候的要因のほかに、放牧地の再生能力を超えた家畜の放牧や薪炭材の過剰採取などによる砂漠化

- (1) 食糧生産基盤の悪化
- (2) 生物多様性の喪失
- (3) 貧困の加速
- (4) 気候変動への影響
- (5) 都市への人口の集中
- (6) 難民の増加

VII. 海洋汚染

タンカー事故や海洋への汚染物質の投棄、河川などを通じた陸起源の汚染物質の流入、沿岸の開発など様々な人為的要因により進行

- (1) 生態系の破壊
- (2) 漁業資源や観光資源の喪失
- (3) 有害物質汚染による海洋生物への影響と海洋生物経由の人体への影響

VIII. 有害廃棄物の越境移動

海洋に投棄されたり、沿岸から流出する汚染物質や工業廃棄ガスなどが海や大気の流れにより世界中に広がる問題

3. スポーツと環境についての理解

(1) スポーツを愛する私達も皆、地球人

- a. スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかも知れないがそれは幻想です。
- b. 人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。

(2) 私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります

- a. 地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行く事は不可能です。
- b. よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行する必要があります。
- c. ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生きていても地球からのバックアップ無しには生き続けられないのです。

(3) think globally, act locally (地球規模で考え、身の回りの出来る事を実行する)

- a. 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。

b. そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てば出来る簡単な事です。

4. スポーツと環境活動の簡単な経緯を見て見ましょう

- ①1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
- ②1976年デンバーオリンピック大会開催返上(経済・環境問題)
- ③1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた
- ④1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた(スポーツ・文化・環境)
- ⑤1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名
- ⑥1994年IOC 100周年パリ・コンGRESでスポーツと環境分科会開催
- ⑦1995年IOCにスポーツと環境委員会設置
- ⑧1995年第1回IOCスポーツと環境世界会議をスイス・ローザンヌで開催
- ⑨1997年第2回IOCスポーツと環境世界会議をクウェート・クウェート市で開催
- ⑩1999年第3回IOCスポーツと環境世界会議(ブラジル・リオデジャネイロ)でOlympic Movement's Agenda 21(オリンピック運動の環境保全規約書)を採択、IOCで承認された
- ⑪2001年4月JOCにスポーツ環境委員会設置、活動を開始
- ⑫2001年11月第4回IOCスポーツと環境世界会議を長野で開催
“Give The Planet A Sporting Chance” Olympic Movement's Agenda 21の実践
- ⑬2003年第5回IOCスポーツと環境世界会議をイタリア・トリノで開催
スポーツ関係者(選手、役員、IOC, IF, NOC, NF, OCOG, 地方政府、観客、放送、スポンサー、サプライヤー、建設業者など)が有機的に連携を取り合い、環境に対してパートナーシップを組むことが決議された
- ⑭2005年第6回IOCスポーツと環境世界会議をケニア・ナイロビで開催
- ⑮2007年第7回IOCスポーツと環境世界会議を中国・北京で開催
- ⑯IOCジャック・ロゲ会長がIOCのスポーツ界における環境保全活動を認められ国連環境計画から「地球のチャンピオン」として表彰を受けた
- ⑰IPCC(気候変動に関する国際パネル)の第4次報告と映画「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞
- ⑱IOCはUNEPが進める「10億本の植樹キャンペーン」の支持を表明

5. 協力依頼

(1)まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べて見ましょう

(2)「持続可能な開発」と「持続可能性」

- ①『持続可能な開発』は92年リオ・サミットの頃のキーワードでした。経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進み、片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスがちょうどいい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な開発をしようというものです。
- ②『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ後のような要素もどこかで折り合いをつける必要があるのです。

(3)循環型社会の形成

- ①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。
- ②例えば、食品の生ゴミを酵素である一定期間(約25日)処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環している事になります。

③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。

④これを繰り返す事により新しい資源の節減が図られるのです。

(4)ゼロ・エミッション

- ①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。
- ②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物の分別回収をすれば、それらはまた資源となるのです。
- ③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。
- ④ゼロ・エミッションのキーワードは「混ぜればゴミ・分ければ資源」です。

(5)高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

- ①エネルギー資源を節減する為に3R(Reduce, Reuse, Recycle)の実行。
 - a. 削減(Reduce)。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例:電気や紙の削減)
 - b. 再使用(Reuse)。同じモノを出来るだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事が出来なくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。
 - c. リサイクル(Recycle)使えなくなったものを上手く分解して素材ごとにリサイクルし他の物資にして使用することです。(例:ペットボトル→繊維)

(6)エネルギーを節減する工夫、夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫をして冷暖房の負荷を下げる

- ①冬には暖かい下着を着用し、またもう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることが出来ます。(ウォームビズ)
- ②夏は出来るだけ涼しい服装をし、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事が出来ます。(クールビズ)

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください。

6. スポーツと環境に関与する要素には次のようなものがあります

(1)会場立地

- ①スポーツ施設の立地について、まわりの空気や水が基準以上でなければ選手・コーチの健康を損なう可能性がある。
- ②施設建設が自然を大きく破壊する事がないように配慮する。
- ③特に冬のスポーツ施設の立地が天然記念物の生息地に掛からないように配慮する。

(2)施設

- ①設建設に当たっては自然との調和を図るよう最善を尽くす事
- ②空調のエネルギー節減のため天窓を上手く配置し、冬は温室効果で暖かく、夏は窓を開放する事で暑い空気を天窓から出す事で涼しさを保つ工夫をする。
- ③アイスアリーナなどはアンモニアの直接製氷法から間接にし、アンモニアの漏れでの環境破壊や選手の競技環境を損なわないように努める。

(3)運営

- ①スポーツ大会、競技会、スポーツ教室などの運営に当たっては、資源・エネルギーの節減に努める。特にコピーは両面を使い、できればパソコンなどのディスプレイ画面で仕事の処

理ができるように努める。

- ②運営全体での資源・エネルギーの消費量を数値化し計測し、削減に努めるとともに次回にはより削減できるよう工夫をする。

(4) 役員

- ①競技・運営役員はスポーツ環境保全の重要性を認識し、スポーツ界全体の環境保全が実践されるよう啓発活動を行なう。
- ②役員は身の周りのできる環境保全活動を率先垂範で実践する。

(5) 選手・コーチ

- ①選手・コーチは清潔でクリーンな競技環境で競技や訓練が実施できるよう最善を尽くす。
- ②選手(特にトップ選手)は衆目を集めるので、環境保全に対しての理解を深め啓発活動の一環としてチャンスがあるごとに環境保全の大切さをアピールする。

(6) オフィスワーク

- ①スポーツに拘るオフィスはスポーツ環境の概念を良く理解してオフィスワークに活用する。
- ②資源・エネルギーの削減、またグリーン購入法に基づいて物品購入を行う。

(7) 観客

- ①スポーツ競技会の観客にはポスターやパンフレットでスポーツ環境の意義の理解を深める啓発活動を行なう。
- ②ゴミの持ち帰り運動を推進し、会場清掃量を削減する。又各々の観客が持ち帰ったゴミは分別してリサイクルに回されるのが望ましい。

(8) 用具

- ①スポーツ品メーカーは環境に配慮した製品を企画製造する。
- ②完全リサイクルができる「ナイロン6」素材のもの
- ③準完全リサイクルは元の原材料には戻らないが形を変えて製品化できるもの
- ④リサイクル素材の活用。回収ペットボトルから作られた繊維を利用した製品(混紡をするゆえ品質機能には全く問題はない)
- ⑤製造技術を改善し省資源・省エネでスポーツ品を製造する。
- ⑥有害物質は全く使わない(塩化ビニール・フロンなど)

(9) メディア

- ①スポーツを報道するメディアにもスポーツ環境の大切さに対する理解を促進し協力を依頼する。
- ②メディア活動においても省資源・省エネを促進する。

7. 低炭素社会(ローカーボン・ソサエティー)の構築

地球温暖化が気候変動を顕在化させる中、2007年にIPCC(気候変動に関する国際パネル)と温暖化を明快に解説し警鐘を鳴らす映画「不都合な真実」を制作したアル・ゴア米前副大統領にノーベル平和賞が授与された。

高度文明で排出される二酸化炭素ガスやCO₂の23倍の温室効果があるメタンガスなどが温室効果ガスとして温暖化を引き起こしている。

二酸化炭素ガスを吸収し酸素を放出する炭酸同化作用(光合成)を用いて炭酸ガスを減少させ酸素を多くするため植樹を促進しつつある。

各種活動で排出される温暖化ガスを植樹する事で相殺することをカーボンオフセットと言い、その植樹の費用を対価として支払う事も可能とされる。

エネルギーと資源の削減などと植樹で大気中の温暖化ガスを減少させることで低炭素社会の構築を目指す事が求められている。その結果として地球温暖化の進行を遅くし、地球の持続可能性を向上できると考えられている。

8. スポーツ環境の活動に必要な要素を列記しました。この活動にゴールはありません。啓発や実践を地道に継続的に進める忍耐力が必要です

- ①気の長さ
- ②忍耐力
- ③継続力
- ④適正なペース
- ⑤実効性
- ⑥リーダーシップ

9. スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが社会の中で模範的環境保全のリーダーとなるように願っています。

(7)IOCのNOCに対する環境活動ガイドライン

IOC environmental guidelines

スポーツと環境保全活動の実践項目の識別と実践計画 (IOC GUIDELINE)

1. 実践すべき項目の優先順位を定めよう。
2. 順位の付いた項目ごとに次の要素を当てはめてみましょう。

●STRATEGY (戦略) 《IOC GUIDELINE》

1. 各自の責任範囲で誰に影響を与えるべきでしょう。
2. 实际的で明確に達成可能な目標を設定して、何を改善したいのか明らかにしましょう。
3. 何故、この活動は役に立ち必要性があるのでしょうか。
4. 何がこの目標を達成する事を阻害する障壁になるでしょう。
5. 貴方の組織の内外で誰がお手伝いしてくれるのでしょうか。
6. この目標達成には誰を感化し誰に根回しをすべきでしょう
7. どのようなツールを使って感化すべきでしょう。

《IOC Guidelineに基づくJOCの活動》

1. 委員会として誰に影響を与えるべきか

- (1) 国内スポーツ競技団体 (NF)
 - A. NF・県体協事務局長会議
 - B. NF環境担当者会議
- (2) スポーツ関係者
 - A. 地域セミナー、報告書
- (3) 一般からトップにいたる選手・コーチ
 - A. 競技会現場、アンバサダー
- (4) メディア
 - A. 報道関係者への理解要請
- (5) 一般社会
 - A. 競技大会、スポーツ報道

2. どのように活動を進めるか

メガイベント、国内選手権競技、地域選手権競技、グラス・ルートイベントにおいて

- (1) まず環境の現状とスポーツ界の対策の啓発
 - (1) 各種セミナー、会議
 - (2) ポスター、横断幕、パンフレット、活動報告書
 - (3) 講演活動

(2) 実践活動

- (1) エネルギーの節減 (余計な照明・冷暖房調整)
- (2) 資源の節約 (特に紙資源の削減)
- (3) 再資源化のための分別回収

3. 何故、この活動は役に立ち、必要があるのか

利点や議論すべき項目を明確にすること
社会に於けるスポーツの重要性

- (1) TV・ラジオのスポーツ放送 (筋書きの無いドラマ)
- (2) スポーツ新聞
スポーツ選手・役員
 - (1) スポーツに携わる人は等しく地球人の自覚
 - (2) トップ選手は社会の模範 (選手からのメッセージ)
 - (3) スポーツだけに偏らないスポーツマン作り

4. 何がこの目標を達成する事を阻害する障壁か

- (1) 環境汚染・問題の現状をよく知らない
 - (1) 啓発活動
- (2) 自分一人ぐらいは……
何もしなくても影響無い
何をしても役に立たない 無関心
自分の生きている間には問題がない
- (3) 仕組み不足
- (4) 各種団体の主導権争い

5. 誰がお手伝いしてくれるか

6. 誰を感化、根回しをするか (影響力のある人)

- (1) 委員会
- (2) アンバサダー ★
- (3) 国内競技団体会長と役員
- (4) 国内競技団体会長スポーツ環境担当者
- (5) スポーツ関係者
- (6) 競技会組織委員会
- (7) 選手・コーチ
- (8) ボランティア
- (9) メディア
- (10) 環境省・東京都環境局 ★

7. 実践ツール

- (1) セミナー、会議、競技会
オリンピック・コンサート ★

オリンピック・フェスティバル
オリンピック・デー・ラン等に於いて ★
ポスター、横断幕、パンフレット、分別ゴミ箱

(2) 植林・植樹 ★

- (3) ISO14001認証登録 ★
環境管理システムの構築

●ACTION PLAN (実践計画) 《IOC GUIDELINE》

1. 目標達成のため具体的な実践活動は何でしょう? 選択と集中が大切です。
2. どのように活動を進めていきますか?
3. 目標達成への責任者は誰ですか? またそれぞれの役割を明確にしましょう。
4. どのような人材とどのような資金が必要ですか?
5. いつまでに目標を達成しますか? 予定表を作ってみましょう。
6. 目標を達成するについて、どのように進捗を測りますか?

《IOC Guidelineに基づくJOCの活動》

1. 目的達成の為に具体的な手段

(1) 啓発活動

- (A) ポスター貼付
- (B) 横断幕掲出
- (C) パンフレット配布
- (D) セミナー、会議、講演会

(2) 実践活動 (ローカーボン化)

- (A) エネルギーの節減
- (B) 資源の節減
- (C) ごみの分別回収
- (D) 植樹活動 (カーボン・オフセット)
- (E) グリーン購入

2. どのように活動を進めるか

- (1) 継続的
- (2) 効果的
- (3) より広い協力を得る努力
- (4) 実践的
- (5) 新しい工夫を加える
- (6) 頻繁なコミュニケーション
- (7) 年間スケジュールの確立

3. 目的達成に向けて責任体制

- (1) JOC会長
- (2) スポーツ環境専門委員長
- (3) 副委員長・委員

- (4) JOCスポーツ環境アンバサダー
- (5) 国内競技団体会長・環境担当者
- (6) スポーツ関係者
- (7) イベント組織委員会

4. どのような人材、どのような人材、どれ位の経費が必要か

(1) 人材

- (A) 強い信念・使命感
- (B) 粘り強い
- (C) 行動力
- (D) 説得力
- (E) 強いリーダーシップ

(2) 経費 約600万円/年

- (A) 印刷費 (ポスター、報告書など)
- (B) 制作費
- (C) セミナー、担当者会議開催費

5. タイムテーブル

委員会	NFS	イベント
5月	↑	4月 NF・県体協事務局長会議
7月		6月 オリンピックコンサート・ファミリーゴルフ
		8月 北京オリンピック大会結団式
9月	国内競技会・イベント	9月 地域セミナー (広島)
		10月 オリンピックフェスティバル
11月	↓	11月 競技団体環境担当者会議
2月		

6. 進捗チェック

- (1) 委員会で全ての項目について討議
- (2) 競技団体へ写真報告の要請
- (3) 競技団体などへのアンケート調査
- (4) アンケート調査分析
- (5) ISO14001認証登録・サーベイランス
- (6) 理事会などに報告
- (7) 評議員会で報告書を配布

5 IOCスポーツと環境委員会について

IOC Sport and Environment Commission

「カーボンオフセット」

昨年、気候変動に関する国際パネルと前米国副大統領アル・ゴア氏が制作した「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞しました。文明が発展し我々の生活はとても快適になった反面、石油や石炭などの化石燃料をエネルギー源として燃焼させることから発生する二酸化炭素が、主な温室効果ガスとして地球を覆い地球温暖化が進行しています。この温暖化は顕著な気候変動として我々の生活に確実に大きな影響を及ぼしています。

IOCは1995年からスポーツと環境委員会を設置しスポーツ界における環境保全活動に取り組んできました。環境保全や地球温暖化防止の大切さをスポーツ関係者のみならず、より多くの人々に認知してもらい、協力をお願いする啓発活動を行っています。一方、環境に則した施設計画によるオリンピック大会開催をはじめ、メガ大会から草の根に至るスポーツの現場でのエネルギーや資源の削減や再利用の促進、リサイクルのためのゴミの分別など、実践活動を進めています。

多くのスポーツ関係者の尽力でスポーツ界の環境保全活動は地道ながら着実に進められていますが、ここに来て地球温暖化が思いのほか速く進行していることに危機感を持ち、カーボンオフセットという対策が提案されています。

誰もが何かの活動をすればエネルギーの使用があり、二酸化炭素が排出されます。これをカーボン・フットプリントと呼びます。ちょうど歩いた後に足跡が残る、活動をしたら足跡のように二酸化炭素の排出があると言う意味です。これは社会の中で活動を停滞させる意図ではなく、活動をする事でどの程度の排出があるかを認識する事にあります。

活動によって排出した二酸化炭素を何かの形で相殺する事をカーボンオフセットと言い、最も身近な方法は「植林」です。植物は光合成で二酸化炭素を吸収して酸素を出します。(植物も夜には炭素酸素を吸って二酸化炭素を排出する呼吸もしていますが、相対的には酸素排出量の方が多い。)植林には環境面で二酸化炭素の吸収、砂漠化の防止、生物多様性を保持する利点があり、又土砂災害防止や地域の人々の生活に潤いをもたらすなどの効果も期待出来ます。

IOCロゲ会長はUNEP(国連環境計画)の「10億本植樹」キャンペーンに呼応して、全NOCに各国で可能な植林を実行するよう要請されました。私たちスポーツに関する者はスポーツをより盛んにするために全力を尽くしていますが同時に、排出される二酸化炭素についても適正な知識を持ち、植林の重要性を併せて考え、出来れば機会を作って植林にも協力をお願い致します。

(8) JOCスポーツ環境アンバサダー

JOC Sports environment ambassadors

団体名	推薦者名	団体役職	出場大会
(財)日本陸上競技連盟	瀬古 利彦	理事	1984 ロサンゼルス 1988 ソウル
(財)日本水泳連盟	岩崎 恭子	スポーツ環境委員 競泳委員	1992 バルセロナ 1996 アトランタ
(財)日本サッカー協会	岡田 武史	日本代表監督 環境プロジェクトメンバー	1984 ロサンゼルス予選
(財)全日本スキー連盟	荻原 健司	理事(職務休止中)	1992 アルベールビル 1994 リレハンメル 1998 長野 2002 ソルトレーク
(財)日本テニス協会	松岡 修造	理事待遇	1988 ソウル 1992 バルセロナ 1996 アトランタ
(財)日本バレーボール協会	大林 素子	女子強化委員	1988 ソウル 1992 バルセロナ 1996 アトランタ
(財)日本体操協会	塚原 光男	副会長	1968 メキシコ 1972 ミュンヘン 1976 モントリオール
(財)日本スケート連盟	黒岩 敏幸		1992 アルベールビル 1994 リレハンメル 1998 長野
	八木沼 純子		1988 カルガリー
(財)日本レスリング協会	小林 孝至	広報委員会副委員長	1988 ソウル
(財)全日本柔道連盟	阿武 教子	強化委員会 女子強化部 Jrコーチ	1996 アトランタ 2000 シドニー 2004 アテネ

IOCスポーツと環境委員会
委員 水野正人

(1) IOCスポーツと環境委員会

IOC Sport and Environment Commission



INTERNATIONAL
OLYMPIC
COMMITTEE

Sport and Environment Commission

Date:	Sunday 28 October 2007
Time:	9.00 am - 12.30 pm & 2.00pm to 4.00pm
Place:	Beijing International Conference Centre
Organiser:	International Cooperation and Development Dept
Participants:	Members of the Commission, Mr T.A. Ganda Sithole, Mr Edward Kensington
Objective:	Annual Meeting

Meeting agenda

Subject

1	Welcome by the Chairman
2	Message from the IOC President
3	Presentation of the new Members
4	Approval of the Minutes of 7 July 2006
5	Overview report by the Commission Chairman
6	Report by the Director of the Department of International Cooperation & Development
7	Analysis of the 7 th World Conference on Sport and the Environment
8	IOC Environment Award
9	Regional seminars
10	Report of the Olympic Solidarity
11	Report of the BOCOG representative
12	Report of the VANOC representative
13	Report of the LOCOG representative
14	Miscellaneous
15	Next Commission meeting and World Conference

(2) 第7回IOCスポーツと環境世界会議

7th IOC World Conference on Sport and Environment

第7回IOC スポーツと環境世界会議報告

開催日: 2007年10月25日(木)～ 27日(土)

開催地: 中華人民共和国・北京市 国際会議場

出席者: IOC、UNEP(国連環境計画)、IOC委員会、NOCs (80)、IFs (20)、OCOG (5)、研究機関、NGOs、申請都市、その他関連団体

テーマ: Plan to Action 「計画から実行へ」

天候: 航空機の運行に影響を及ぼすほどの濃厚なスモッグ

プレゼンテーション: 水野IOCスポーツ環境委員、佐野JOCスポーツ環境専門副委員長 他45名

地球温暖化から気象変化が顕在化する今日、IOCが中心になりスポーツ界で環境保全活動を開始して12年になり、いくつかのステップを踏んで計画を立案してきた今、スポーツ界での環境保全活動を具体的に実行する時期になり関係者から実行するに有益な討議が行われた。

コミュニケ:

第7回IOCスポーツと環境世界会議・北京・公式声明

〈計画から実践へ〉

(概要)

第7回IOCスポーツと環境世界会議の参加者、80 NOCs、20 IFs、国連環境計画と関連機関、NGOs、研究機関、OCOGs、申請都市、オリンピック、IOC、IPC、パートナー、オリンピック運動推進団体、スポーツ・レクリエーション大会関係者そして世界スポーツ用品工業連盟は:

- ◎環境とスポーツ活動は相互依存している故、スポーツ界は適正な環境保全を実践することを認識する
- ◎BOCOG作成の環境保護の継続活動報告書「Beijing 2008・革新と向上」を承認する
- ◎国連環境計画作成の大会開催が都市の環境改善の触媒になるとする環境査定「Beijing 2008・環境講評」についても承認する
- ◎IOCの支援によりNOCやIFに環境保全を奨励する地域セミナーがスポーツ大会の環境保全に役立つ実例を認識する
- ◎トリノ大会の環境保全活動が新しい環境基準を創ったことを賞賛する
- ◎全ての分野で卓越した活動に対して隔年でIOCのスポーツと環境賞が制定されることを歓迎する
- ◎高い効果が永続的に持続する解り易く少ない経費で使いやすい施策が必要であることを記録する
- ◎大会の環境保全の効果を上げるためにオリンピック運動の関係者によってパートナーシップを編成することを支持する
- ◎政府、地域社会、市民が地球温暖化に迅速な対策が求められていることを理解する
- ◎招致・開催都市が温室効果ガスの削減や相殺活動を取り入れる傾向にあることを承知する
- ◎北京大会が排出削減、エネルギー使用への施策、通勤の合理化や都市の植林緑化で環境に配慮していることに感謝を持って記録する
- ◎BOCOGの世界会議への多大な貢献に感謝する
- ◎招致申請・立候補都市が炭酸ガス相殺(offset)の実践政策を実行することを激励する
- ◎競技連盟が求められている環境に配慮することを規約に盛り込むことを奨励する
- ◎スポーツ団体は環境保全の事例研究、IOCガイドやマニュアル、専門知識によって対策を講ずることを要請する
- ◎スポーツ界が社会で持続可能性の継続的效果を上げるための触媒を提供することを要請する
- ◎スポーツ関係者にスポーツ活動の中で正しい概念を持ち環境保全を確実に実行する事を再度要請する

**7th WORLD CONFERENCE ON SPORT
AND THE ENVIRONMENT**
"From Plan to Action"
Beijing, China - 25 to 27 October 2007
(Organised by the IOC and BOCOG in partnership with UNEP)

Programme

Thursday 25 October 2007

17:45 – 19:30

OPENING CEREMONY

Convention Hall 1 - 2nd Floor

Master of Ceremony: Mr Wang Wei, Executive Vice President & Secretary General of BOCOG

Mr Wang Qishan, Mayor of Beijing

Mr Pál Schmitt, Chairman of the IOC Sport and Environment Commission

Mr Zhou Shengxian, Minister of China State Environment Protection Administration

Mr Shafqat Kakakhel, UN Assistant Secretary General / UNEP Deputy Executive Director

- Presentation of the Montreal Protocol Public Awareness Award

Mr Adolf Ogi, Special Adviser to UN Secretary General on Sport for Development & Peace

Mr Liu Qi, BOCOG President

Dr Jacques Rogge, IOC President

19:30 Official Dinner

Friday 26 October 2007

08:30 – 10:30

PLENARY(1)

Conference Centre - Convention Hall 1 - 2nd Floor

Environmental Sustainability in the Olympic Games: From Concept to Practice

Chairman: Pál Schmitt

Opening presentation

Hein Verbruggen, Chairman of the Coordination Commission for the Games of the XXIX Olympiad

Olympic Games: environment, legacy and sustainable development

Gilbert Felli, IOC Olympic Games Executive Director

The final TOROC Sustainability report

Valentino Castellani, TOROC President

BOCOG: Fulfilling bid commitments

Zhao Fengtong, Vice Major of Beijing

VANOC Sustainability Management and Reporting System (SMRS)

Ann Duffy, Corporate Sustainability Officer

LOCOG: Implementing sustainability

David Stubbs, LOCOG Head of Environment and Sustainable Development

10:30 – 10:45 Coffee Break

10:45 – 12:15

PARALLEL A

Conference Centre - Convention Hall 1 - 2nd Floor

Expertise & best practice from International Federations

Moderator: Sunil Sabharwal, Member of the IOC

Commission for Sport and Environment

Complementing IOC-UNEP activities by MOUs with

IFs and other organisations

Eric Falt, Director of the UNEP Division of

Communication and Public information

Case Study: International Association of Athletics

Federations (IAAF) Green Project

Fekrou Kidane, IAAF consultant

Case Study: International Ski Federation (FIS)

PARALLEL B

Conference Centre - Convention Hall 17, 2nd Floor

Sport and sustainable development: contradictions or complementarities?

Moderator: Zoumaro Gnoufame, Member of the IOC

Commission for Sport and Environment

Sport at the service of youth and sustainable

development in

South America

Carlos Nuzman, President, Organizacion Deportiva

Sudamericana

Community sports and the environment in

developing countries

Moss Mashishi, President of the South African Sports

Erwin Lauterwasser, FIS Environment consultant
FIFA Green Goal Successes
Christian Hochfeld, Deputy Director, Oeko Institute

Confederation and Olympic Committee
Sport and tourism: synergies for sustainable
development Young-Shim Dho, Special Advisor on
Tourism and Sports to the UNWTO Secretary-
General
Sport, environment and development in Oceania
Robin Mitchell, Secretary General, Oceania National
Olympic Committees (ONOC)

12:15 – 14:00 Lunch

14:00 – 15:30

PARALLEL C

Conference Centre - Convention Hall 1 - 2nd Floor

Joining forces for a common objective

Moderator: Robin Mitchell, IOC Member

One planet Olympics: from principles to practise

Dermot O' Gorman, Director WWF-China

Programme Office

Greenpeace' s experience in working with sports
event organisers

Lo Sze Ping, Campaign & Communications Director,

Greenpeace China

Global Village of Beijing, China (GVB)

Liao Xiaoyi, Board Chairman and President of Global

Village of Beijing

Dissemination of the Green Olympic Concept,

mobilizing the public to participate in Green action

Zhao Yixin, Chairman of Beijing Environmental

Protection Foundation

PARALLEL D

Conference Centre - Convention Hall 17, 2nd Floor

Expertise and best practice from National Olympic Committees

Moderator: Tu Mingde, Assistant to the President of BOCOG

Olympic Solidarity sport and environment

programme and results

Nicole Girard-Savoy, Programme Manager, Olympic

Solidarity

Value of regional IOC sport and environment

seminars for National Olympic Committees

Tore Brevik, Member of the IOC Commission for

Sport and Environment

Case study: National Olympic Committee of Japan

Kazuo Sano, Vice-Chairman of the Japanese Olympic

Committee Sport and Environment Commission

Case study: National Olympic Committee of Spain

Miranda Kiuri, Member of the Spanish Olympic

Committee Sport and Environment Committee

15:30 – 15:45 Coffee Break

15:45 – 17:45

PLENARY(2)

Conference Centre - Convention Hall 1 - 2nd Floor

The Olympics and corporate environmental responsibility

Chairman: Pál Schmitt

Building a greener Games: infrastructure needs in sport

Steve Bertamini, GE Chairman and CEO for Northeast Asia and China

Green Olympics in China

David G. Brooks, Vice President and General Manager, Beijing 2008 Coca-Cola (China) Beverages

Moving towards a harmonious world with the delivery of clean energy

Cao Zhi' an, Executive Vice President of State Grid Corporation of China

Supply chain management: social & environmental trends

William Anderson, Vice President and Head of Social & Environmental Affairs, Asia Pacific, Adidas group

Business and the Green Games: harmonious partnership

Wang Hongmei, General Manager, Department of Development Strategy, China Mobile Communications Corporation

17:45 End of Day 1

Saturday 27 October 2007

09:00 – 10:30

PARALLEL E

Conference Centre - Convention Hall 1 - 2nd Floor

Bidding "Green"

Moderator: Liao Sautung, BOCOG Environmental
Advisor

Environmental considerations in the 2014 Incheon

Asian Games

Hyun Jung Lee, Main Presenter for the 2014 Incheon

Asian Games

PARALLEL F

Conference Centre - Convention Hall 17, 2nd Floor

A positive legacy for Beijing' s local community

Moderator: Simon Balderstone, IOC Environmental
Advisor

"Green Olympics" promoting Beijing' s

sustainability Chen Tian, Chief Engineer of the

Beijing Municipal Environmental Bureau

Guaranteeing the safety of water for Green Olympics

Greening Commonwealth Games
 Michael S. Fennell, President, Commonwealth Games Federation
 Environmental factors in the FIFA World Cup 2010
 Danny Jordaan, President, 2010 FIFA World Cup Organising Committee South Africa
 Implementing the Sochi 2014 “green” bid promises
 Dmitry Mosin, Strategic Director Sochi 2014

Cheng Jing, Vice Director of Beijing Water Authority
 Environmental protection efforts of BOCOG
 Yu Xiaoxuan, Deputy Director of the Construction and Environment Department of BOCOG
 UNEP Beijing Games Environmental Assessment
 Paolo Revellino, United Nations Environment Programme

“Japanese Olympic Committee report
 on Sport and Environment Commission”
 Dr. Kazuo Sano (Speech Text)
 Vice Chairman, Sport and Environment Commission of JOC
 Oct. 26, 2007, Beijing, China

10:30 – 10:45 Coffee Break

10:45 – 12:15

PARALLEL G

Conference Centre - Convention Hall 1 - 2nd Floor
Corporate social responsibility in manufacturing sport equipment

Moderator: Liu Jun, Deputy Director of the Marketing Department of BOCOG

Environment in corporate social responsibility
 André Gorgemans, Former Secretary General, World Federation of Sporting Goods Industry (WFSGI) & IOC Consultant

Sport and sustainable compliance
 Aret van Heerden, President and CEO, Fair Labor Association

Effective ways to implement environmental conservation in corporate activities

Masato Mizuno, President, Mizuno Corporation

The Li Ning perspective on manufacturing sporting goods in China

Guo Jianxin, Chief Operating Officer, Li Ning

PARALLEL H

Conference Centre - Convention Hall 17, 2nd Floor

Implementing environmental best practice and sustainability in sport

Moderator: George Kazantzopoulos, Member of the IOC Commission for Sport and Environment

Sport and the Billion Tree Campaign
 Theodore Oben, UNEP Head of Children, Youth Sport & Environment Unit

Sport for Sustainable Living: using the Games to inspire awareness & action on sustainable living choices

Brenda Metropolit, Director of Sustainability, Environment Canada

Carbon Offset and Sports Events

Florin Vladu, Programme Officer, United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC)

The case for sport and nature camps

Tatsuo Okada, Executive Director, Global Sports Alliance (GSA)

12:15 – 14:00 Lunch

14:00 – 15:30

CLOSING PLENARY (3)

Conference Centre - Convention Hall 1 - 2nd Floor

Athletes and sport at the service of the environment

Chairman: Pál Schmitt

Opening remarks

Pál Schmitt, Former President, World Olympians Association (WOA)

Communicating the sport and environment message

Yaping Deng, Olympian

Athletes, sport and environment

Roland Baar, Olympian

Sport: Champion of the Earth

T.A. Ganda Sithole, Director, IOC Department of International Cooperation and Development

15:30 – 15:45 Coffee Break

15:45 – 16:30

CLOSING CEREMONY

Conference Centre - Convention Hall 1 - 2nd Floor

Master of Ceremony: T.A. Ganda Sithole, IOC Director of International Cooperation and Development

Presentation of Beijing Declaration: Mr Pál Schmitt

Mr Liu Jingmin, Vice-president of BOCOG

Mr Pál Schmitt, Chairman of the Sport and Environment Commission

16:40 Press Conference

Good afternoon, ladies and gentlemen, my name is Kazuo Sano, Vice Chairman of Sport and Environment Commission of Japanese Olympic Committee. I would like to present JOC commission’s activities on environment. (P.1)

This is the picture of the third planet of the solar system, our indispensable spaceship, “The Earth” . Any one cannot live outside of this planet. Therefore we must keep our house clean. (P.2)

Today, quite serious climate changes caused by global warming are distracting sports, such as heat waves, lack of snow, ice and water, photo chemicals and many others. Athletes are having more difficulties to achieve their records and/or to find sports sites. In other words, the Olympic Motto “Citius, Altius, Fortius” is facing serious threat of environmental issues. (P.3,4,5,6)

I start with the short ironical metaphor “Boiling flog” . If you throw a frog into boiled water, it will jump out immediately. If you throw a frog into regular temperature water then add heat slowly, the frog will not notice the change for while. When the frog finally notice that water is too hot, it is too late to jump out and the frog will be boiled. The frog might be human being. (P.7,8,9)

Sport and environment Commission of the IOC has established under the resolution of the IOC Centennial Congress in Paris in 2004. IOC Commission has been working very hard to host its world conference every 2 years.

At the year when JOC co-hosted the 4th IOC World Conference on Sport and Environment in Nagano in 2001, JOC established the Sport and Environment Commission.

Abiding by the principle of the IOC guidelines on Sport and Environment, JOC has made their best effort to conserve environment in the sports society with creating effective and collaborative partnership with the national sports federations, other sports organizations and the Ministry of Environment.

The configuration of the commission as of April 1, 2007 is shown on the screen. The members are representing very influential sports federations of Japan such as Track and Field, Swimming, Football, Judo, Wrestling, Tennis, Skate, Gymnastics, Ice Hockey and Volleyball.

The Objectives of Sport and Environment Commission of JOC are: to promote awareness and implementation of measures

At Tthis occasion of the World Conference, I will make JOC report in accordanceparallel to the IOC Guidelines.

The IOC Guidelines suggest identifying and prioritizing issues and action plans then to have good strategy with clear target, goals, making changes, and collaborators, lobbying using effective tools.

Then it implements the action plans with clear goals, tasks, responsibilities, resources, and monitors progress.

Specific actions of JOC following the IOC Guidelines are prioritizing objectives of awareness and implementations.

I. Regarding strategy, the prioritized **targets group** are the sport organizations.

- A. There are 53 JOC affiliated NFs who host variety of events, from grass roots competitions/clinics to annual national championship. The commission requests all the NFs to be active towards environment. At the same time JOC request them to make reports of their activities with photos.
- B. Japan Amateur Sports Association who hosts the annual Japan Sports Festival. JOC asks to implement the environmental measures at the National Sports Festival.
- C. There are quite numbers of JOC affiliated organizations such as JOC Official partner companies. JOC asks them to cooperate to implement environmental measures.

2. JOC Commission set clear, realistic and **achievable goals!**

- A. One goal is to increase all targeted groups' awareness of environmental issues.
- B. JOC requests to implement concrete measures to all the targeted groups. It is quite simple that saving energy and resources and separation of waste for recycling. JOC asks NFs to make their presentations of the activities at the seminars and conferences as role model of conservation of environment in sports world.
- C. JOC commission takes all opportunities to promote the importance of conserving environment in sports society such as the meeting of Secretary General of the NFs and regional associations of JASA.

3. There are four **benefits / arguments** of the effective changes.

First, a useful change is to be a role model on environment in the society. Second is to retain good circumstances for athletes. Third, is to enable clean and cost effective operations of facilities. And forth is for the children for the future leaders on sport and environment.

- 4. Regarding the **barriers** that may prevent us from accomplishing these goals are people who disregard the issues and stereotype characteristic.
- 5. There are 4 groups of people who **assist** the actions, the commission members, JOC office people, peoples of all the affiliated NFs and sports related organizations.
- 6. JOC has been making effort to **influence / lobby** to reach the goals. JOC commission always lobby towards high ranked officers of NFs, athletes, officials, media people and sponsors by putting up the posters, distributing the leaflets and sometimes annual report at the occasions of sports related ceremonies, gatherings, conferences, seminars, inauguration of the national delegation and at every possible chances.
- 7. JOC prepare quite a variety of **tools** that could be used to influence them. The tools are posters, banners, leaflets, separation of waste annual report, questionnaires, planting trees, ISO 14001 recognition, Sport and environment ambassadors, collaboration with the Ministry of Environment and so on. Let me explain them one by one.
s are one of the most influential tools to disseminate our message. 5000 copies of new posters are printed annually since 2002 to raise awareness on environment.

- B. The banners are also quite effective tool at the venues of competitions. The commission always request to NFs to display the banners. There are about 65 banners used at various championships.
- C. The leaflets are effective tool to send the message for athletes, participants and spectators of the events. JOC tries to compile it with easy expression for kids and prints 50,000 copies for few years.
- D. The separation of waste is the key activities for establishing recyclable society. The concept of "Zero Emission" is as such, "Categorized material by separation of waste are new resources" . We strongly ask all the NFs and related organization to implement of separation of waste all the time.
- E. The JOC annual report on Sport and Environment is very influential tool for the top management of the NFs. we distribute them at the annual council meeting in June. Most of the representatives of NFs are eagerly looking for their articles in the report.
- F. Annual questionnaire survey is done in October every year with same questions so that JOC could analyze trend on NFs' attitude towards environment.
- G. The planting trees are very effective not for giving out oxygen and educational aspects as well. According to the request from President Rogge JOC promised to cooperate to the "Billion Tree Campaign" by UNEP.
- H. ISO 14001 is very appropriate tool for sports organization to promote environment management system. JOC office obtained the recognition of ISO 14001 in year 2003 and renewed it 2006.
- I. Cooperation with the Ministry of Environment of Japan works very efficiently. The Ministry is now strongly driving reduction of carbon dioxide emission. The commission works together with the Ministry of Environment to disseminate the message "Stop the Global Warming"

II. Action plans

- 1. The powerful activities have been **implemented to achieve** our goals with priority. We know that fewer can be more effective than too many.
The main theme of this conference is "Plans to Action" . We have been striving to take strong actions with NFs in the past 5 years. Today, 33 NFs are cooperating with JOC to make their implementation, which is about 60% of the NFs. We hope that more than 80 % of NFs will cooperate with us and NFs establish own environmental committee and promote strong actions in next 5 years.
Now, I would like to show the activities of each NFs. Putting up posters, hanging banners, distributing leaflets, saving energies such as electricity and resources, separation of waste and their own actions along their specific characteristics.
I will explain the implementation of each NFs on the screen in about 5 minutes.
 - (1) Japan Athletic Association of Federations
The federation has been implemented the campaign strongly.
I would like to report the outstanding "Green Project" that is IAAF legacy program started from the 2007 IAAF World Championship in Osaka

towards future championship. All the gold medalists gladly planted trees at the venue.

(2) Japan Swimming Federation

The federation has been striving the activities actively at all the national and international level events.

(3) Japan Football Association

The association created a character to promote the campaign especially for younger generations.

(4) Japan Ski Federation

They are the one who has so much fear that sport of ski might be disappeared by lack of snow.

(5) Japan Tennis Federation

(6) Japan Hockey Association

(7) Japan Amateur Boxing Federation

(8) Japan Volleyball Association

(9) Japan Gymnastic Association

The Association has a environmental problem with the powder, Carbon Magnesium.

(10) Japan Skate Federation

(11) Japan Wrestling Association

(12) Japan Sailing Association

(13) Japan Weight Lifting Association

(14) Japan Handball Association

(15) Japan Race Cycling Federation

(16) Japan Bicycle Promotion Foundation

(17) Japan Soft Tennis Association

(18) Japan Table Tennis Association

(19) Japan Soft Type Baseball Association

(20) Japan Equestrian Federation

(21) Japan Fencing Association

(22) Japan Judo Federation

(23) Japan Softball Association

(24) Japan Badminton Association

(25) Japan Kyu-do (Japanese Archery) Federation

(26) Japan Rifle Shooting Association

(27) Japan Modern Pentathlon-Biathlon Alliance

(28) Japan Rugby Football Association

(29) Japan Karate-do Federation

(30) Japan Mountaineering Association

(31) Japan Canoe Federation

(32) All Japan Archery Federation

(33) Japan Ice Hockey Federation

(34) Japan Bowling Federation

(35) Japan Bob Sleigh Luge Federation

(36) Japan High School Baseball Federation

(37) Japan Curling Association

(38) Japan Triathlon Alliance

(39) Japan Golf Association

(40) Japan Olympic Academy

(41) Japan Amateur Sports Association

(42) JOC Olympic Festival

2. Our plan is to persuade the top management of the organizations such as presidents, VPs and Secretary Generals to take leadership for striving the implementation with improving communication network.

3. We understand that the chairman of the commission suppose to take **responsibilities** for getting the task done. And members are sharing their role in the commission such as compiling the annual report, organizing the regional seminar and conferences.

4. We allocate proper **human and financial** resources to achieve the goals. Proactive human resources are the commission members, the environment ambassadors, JOC staff and NF members. Regarding the budget of JOC for environmental activities is about US \$50K. The budgets are appropriately implemented for printing the report, posters, leaflets, and hosting the seminars and conferences.

5. The annual **timeline** of the commission to have the tasks completed is as follows.

Month		
April	1	Fiscal year of JOC starts
	25	NFs+JSA Secretary General Meeting (Appealing on Sp+Env)
May	25	Sp+Env Commission Meeting
June	16	Eastern Asian Forum (Presentation on Sp+Env)
	17	JOC Olympic Concert (Appealing on Sp+Env)
	26	JOC Council Meeting (Distributing the report of JOC)
July	20	Sp+Env Commission Meeting
August	3	Sending off gathering of University Games (Appealing on Sp+Env)
September	14	Sp+ Env Commission Meeting
	14	JOC Sp+Env Regional Seminar (Tokyo)
October	8	JOC Olympic Festival (Appealing on Sp+Env)
	25	IOC World Conference on Sp+Env in Beijing

Month		
	26	Asian Indoor Games (Appealing on Sp+Env)
November	30	JOC Conference on Sp+Env for NFs
	30	Sp+Env Commission Meeting
December	3	JOC Journalist Seminar (Appealing on Sp+Env)
January		
February	15	Sp+Env Commission Meeting
	11	Nagano Seminar on Sp+Env
March		
All year round		Every Olympic Day Run (10 cities)
All year round		Every NFs National Championship
All year round		Top League Tournament (ball games)

A. In order to **measure** effectiveness of the commission, again we analyze the result of the annual questionnaires to all NFs and related organizations. And the photo reports from the NFs are clearly showing what kind of effective actions were taken by the NFs.

I. I would like to conclude my report.

Under strong leadership of IOC, proactive implementation of NOCs for conservation of environment is indispensable in sports world. JOC sport and environment commission is determined to do their best to be a role model of NOC in the field of environmental conservation. JOC sport and environment commission is more than welcome to share experiences, know-how, information with NOCs and any sports organizations through intense collaboration among them.

Thank you very much for your attention.

"The effective way to implement environmental conservation in corporate activities"

7th IOC World Conference on Sport and Environment

Oct. 27, 2007 Beijing, China

Masato Mizuno

Chairman of the board, Mizuno Corporation

(Member, Sport and Environment Commission of the IOC)

Beginning of 21st Century, human society has been threatened by much misconduct by some vicious top management of large companies and climate changes by the global warming. In order to overcome all of the issues human society faces, the Corporate Social Responsibility has been introduced.

Corporate social responsibility is consisted of following features:

1. Corporate Governance
2. Compliance
3. Risk Management
4. Internal Control
5. Environment Conservation
6. Customer Satisfaction
7. Stakeholders Satisfaction
8. Disclosure
9. Philanthropy

Environmental problems are now on a global scale, so we are facing an extremely serious situation: global warming, the destruction of the ozone layer, acid rain, the pollution of the oceans, the depletion of tropical forests, desertification and so on.

We have an obligation to pass on this irreplaceable earth to the children of the future in as beautiful condition as possible.

Implementation of conservation of environment along with the corporate social responsibility is indispensable to administrate corporation.

Introduction of Crew 21, Mizuno environmental Activity

It is necessary for us to take actions, starting with the most feasible ones, to protect and maintain sustainable natural environment. To do so, Mizuno launched its "Crew 21" program in 1991, through which all our employees take part in environmental conservation activities. "Crew 21" is the acronym of "Conservation of Resources and Environmental Wave 21". Facing the 21st century, this company will shoulder its role as a crewmember of Spaceship Earth practicing activities that conserve the environment and resources under the title of Global Environment conservation Activities. In 1999, we adopted Mizuno's Environmental Policy, which has been in place and revised as necessary to enhance our environmental conservation activities.

Mizuno celebrated its 100th anniversary in 2006, and this year the company intend to make a fresh start and take further aggressive approaches in our environmental operations to make their next 100 years an even greater achievement. Representing all

members of Mizuno Group, they will do their utmost to advance environmental activities as a one of the corporate citizen that is highly effective and appealing to sports world.

The introductory part of "Crew 21"

The environmental measures of spots equipment towards sustainable development are quite same as other sectors of the stakeholders. 3Rs, Reduce, Reuse and Recycle are the basic policy to save energy and resources as well as separation of waste that leads to the Zero Emission.

Policy

Mizuno Corporation promises to continuously promote the challenges of the followings under the slogan of "Presenting a sound and healthy sports scene to people and to mother earth" as well as they shall recognize that all of their corporate activities affects the environment and contribute to the conservation of the global and regional environment.

Mizuno Corporation promises to:

1. Work to improve environmental impacts and prevention of pollution in all of corporate activities.
2. Set environmental objectives and targets in regard to the following items, will establish and maintain the environmental management system, and will aim to achieve the objectives and targets by reviewing and improving them periodically.
 - (1) Energy saving and resources saving
 - (2) Reducing and recycling of waste
 - (3) Developing of environment-friendly products and services
 - (4) Purchasing of environment-friendly materials, items, and commodities
3. Observe the requirements of relevant environmental legislations, regulations, and agreements, etc.
4. Carry out environmental audits and work to maintain and improve environmental management system.
5. Work so that all employees will understand the environmental policy through environmental education,
etc. and will work to realize the environmental policy by having all employees take part.
6. Disclose the environmental policy, the situation of environmental conservation activities, and environmental accounting to interested parties and the public.

ISO 14001

ISO 14001 is an environmental standard set by International Standardization Organization, which can be obtain by any organization. An organization with ISO 14001 recognitions can be viewed as an organization that runs sustainable Environment Management System.

At the beginning, Mizuno Yoro Factory obtained ISO 14401 in 1998. In February 2002, Mizuno acquired the certification for its all operations in Japan. Also, in May 2004 it acquired certification for Shanghai Mizuno, its largest overseas production facility. Even after acquiring certification, in pursuit of realization of its Environmental Policy, Mizuno

is working hard to maintain and improve the management system. Mizuno maintain the system to meet legal and other requirements, review environmental targets and goals, and strengthen internal audits.

Zero Emission

Zero Emission is one of the ideal states of society. The concept of the zero emission is to categorize material by separation of waste then turn the waste to resources.

Any factory can achieve the zero emission by categorizing all the material that is out-put from the factory to products and others then make others into resources by separation of industrial waste.

In March 2003, Mizuno attained Zero Emission at all its domestic factories. Each month, we track and manage emissions, emission amounts, incineration amounts and landfill amounts for each plant. At Mizuno, we define Zero Emission as recycling of over 98 % by weight of industrial waste generated in the production process. In fiscal 2006, our recycling rate was 99.1% .

Green delivery

For deliveries of products to our company stores and our retailers, we have introduced fold-down containers, and we are aiming to reduce time taken on picking through boxing, and reduce the number of boxes used.

Promotion of Modal-Shift

From January 2005, we have shifted transport between our Tokyo and Osaka distribution centers from truck transport to train, and we are promoting the modal shift.

Education

Mizuno Video Communications (MVC), which is internal weekly video news, has been distributed every Tuesday to all members of the company over 20 offices and factories. In MVC, articles of "Crew 21", environmental program, stress the importance of conservation of environment and explain the meaning of Crew 21 and what they have to do concretely.

Development of Environmentally friendly products

Mizuno is aiming to develop products friendly to the environment under the following six concepts:

- (1) Development of products using cyclic materials
- (2) Development of products using semi-cyclic materials
- (3) Development of product using recycled materials
- (4) Development of products manufactured using ecologically friendly processes
- (5) Development of products that conserve the environment
- (6) Development of products that promote energy savings

1. Development of products using cyclic material

Products using cyclic raw material that are collected after use, recycled back to the original material for next production. The kinds of material used in the product must be limited to one type to make reprocessing easier. The easiest concept to implement, high performance products can be made by combining recycled materials with other materials.

Examples: Outfits supplied to the 24,000 volunteers of Nagano Olympic Winter Games

were made out of Material "Nylon 6" thermal plasticity. All material of the parts of outfit, surface, insulation, liners, buttons, fasteners, threads were "Nylon 6" . The used and collected outfits became Nylon 6 pallets by heated in vessel, then came back to Nylon 6 fiber or other raw materials.

2. Development of product using semi-cyclic material

To develop products using semi-cyclic materials that were collected and recycled after use in the same manner as products using cyclic materials, but then transformed into a different type of materials for different products.

Examples: Parts of sports wear out of semi-cyclic materials

3. Development of products using recycled materials

To develop products using recycled materials in part or whole. The easiest concept to implement, high performance products can be made by combining recycled materials with other materials. There are some examples of products their parts are made out of recycled materials.

Examples

- (1) Running shoes: The artificial leather for our shoes uses fabric made from recycled PET bottles.
- (2) School supply: Some of school supply products made of the sweat-absorbing, quick drying "Eco-dry Blister" fabric uses recycled polyester fabric for 70% of the cloth.
- (3) Baseball accessories: Baseball daypacks, shoe cases and bat cases that use recycled PET fabric for 60% of the outer layers.
- (4) A sequence of pictures shows development of products using recycled materials. Collected PET bottle become chips by a process, and then it becomes thread by melting and injecting process.

4. Development of products manufactured using ecologically friendly processes

To develop products that does not use any harmful toxic substances such as PVC and Freon gas for production process nor contains them as well. It is also important that no emission of any environmentally harmful waste during the production process.

Examples

- (1) Racing Shoes: Shoes that have the sole and upper glued using water-based adhesives taking into account the working environment in the factory.
- (2) Baseball Gloves: We use special leather created using environmentally friendly processes for the main part of the glove.
- (3) In order to prevent pollution, lubricating oil is filtered for re-use in the factory.

5. Development of products that conserve the environment

Developing the very safety products that do not have an adverse effect on the environment when using them or when disposing of them after use. The product supposed to have high durability, long-life products.

6. Development of products that promote energy savings

Developing the products using heat-generating materials "Breath Thermo" that effectively transform moisture from skin into heat. As a raw fabric, its heating value is around three times that of wool (in-house comparison).

IOCからJOCへのお礼状

The other hand, "Ice Touch" cool feeling material effectively expels vaporization heat and cools down the skin.

Those products using high tech materials promote energy savings in air-condition and/or heating just by wearing/using them.

Action program

It is essential that all the company members aware the critical situation of environmental reality and make action of conservation, most of the office workers participate to the clean up program at surroundings of the offices.

"Point of no return"

It is so to say that there will be a "POINT OF NO RETURN" which is a point of exceeding the limit of several elements such as average temperature or ratio of carbon dioxide, which lead all the creatures including human being to extermination. It is awful guess however according to the 4th report of IPCC, it might not be distant future. In order to retain the eco system on the earth, we have to find out the point and try our best not to exceed it.

We all are the crew of this indispensable spaceship "The Earth" . We, not only all sports industrial companies but people in sports world must collaborate and establish partnership to prevent us from exceeding the POINT OF NO RETURN.



INTERNATIONAL
OLYMPIC
COMMITTEE

Mr Kazuo SANO
Vice Chairman Sport and Environment
Commission
Kishi Memorial Hall
1-1-1 Jinnan
Shubuya-ku
150 Tokyo – JAPAN

International Cooperation
and Development Dept

Lausanne, 6 November 2007
By email : +81 3 3481 09 77

7th World Conference on Sport and the Environment

Dear Mr Sano,

Back in Lausanne, I would like to sincerely thank you for your participation as a speaker in the 7th World Conference on Sport and the Environment held from 25-27 October 2007 in Beijing.

Your contribution to the success of the Conference was greatly appreciated and I look forward to collaborating with you again in the field of environment and sustainable development.

You will of course receive a copy of the final Conference report once it has been finalized.

With kind regards,

T.A. Ganda Sithole
Director

INTERNATIONAL OLYMPIC COMMITTEE
Château de Vidy, 1007 Lausanne, Switzerland, Tel. +41 21 621 6111 / Fax +41 21 621 6216 / www.olympic.org

(3) IOCスポーツと環境・東アジア地域セミナー

IOC Regional Seminar on Sport and Environment

IOCスポーツと環境・地域セミナー 参加報告

2008年3月31日

JOCスポーツ環境専門委員会

委員 鎌賀 秀夫

主催：IOCスポーツと環境委員会

日時：2008年3月28日(金)～29日(土)

場所：大韓民国／インチョン市

対象者：アジアの国内オリンピック委員会

参加NOC：バングラデッシュ、ブルネイ・ダルサラーム、中華人民共和国、ホンコン・チャイナ、インドネシア、日本、ヨルダン、大韓民国、キルギスタン、ラオス人民民主主義共和国、レバノン、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネパール、オマーン、パキスタン、フィリピン、カタール、スリランカ、サウジアラビア、シンガポール、シリア・アラブ共和国、タジキスタン、チャイニーズ・タイペイ、ベトナム 以上26NOCs

IOCスポーツと環境委員会：パル・シュミット委員長（議長）、水野正人委員、国連環境計画地域事務所マラッシュ・プラダン氏

JOC：鎌賀秀夫スポーツ環境専門委員（日本レスリング協会）

プログラム：別紙の通り

今回の地域セミナーの決議

今回のセミナーは大韓民国環境省リー・ビュンウック副大臣によって開会された。

アジアに於いてスポーツを通じて持続可能な開発の活動の進展を促進する為に関係者が一同に会した。

セミナーではIOCスポーツと環境委員会の委員長と委員、UNEP代表、日本レスリング協会、インハ大病院、全てのNOC代表、IOC国際事務局からのスポーツ・環境と持続可能な開発のプレゼンテーションがあった。

参加者は環境がオリンピック運動のスポーツと文化と共にオリンピック運動アジェンダ21で形成されている第三の柱であることを認知した。

セミナー参加者は速やかに国には作業部会、NOCにはスポーツと環境委員会を設置する事とした。又、帰国後にNOCに対して教育、爽やかに環境に配慮したスポーツイベント、啓発促進キャンペーン、セミナー、植樹、クリーンアップキャンペーン、ポスター、競技大会、オリンピック・デー・ラン、エコツアー等を通じてスポーツと環境活動の推進を表明した。

NOCにとっての協働対象は関連競技団体、NFs、スポーツクラブ、各省庁、メディア、NGOs、スポーツ指導者、体育指導者、コーチ、地域のリーダー、ボランティア、スポンサーなどである。

参加者は人気のある競技者に協力を得て、子ども達や若者へメディアを通じ環境の持続可能性と平和で人類が健全な社会で啓発を促進させる教育をすることを表明した。

アジアで開催される世界や地域のスポーツ大会（オリンピック大会、トーチリレー、ユース大会、アジア大会、スポーツフォーオール会議）は環境に配慮したイベントとし、又スポーツと環境の有効なメッセージを広める大切な機会であると強調するべきである。

セミナーでは出席国の共通性と多様性がある事と地域として情報や経験の交換や連絡の重要性を認識した。

参加者はこの会議を共催した韓国オリンピック委員会のキム・ジュンキル会長とインチョン市のアン・サンサー市長に暖かいもてなしに感謝を表明した。

REGIONAL SEMINAR ON SPORT AND THE ENVIRONMENT

““From Plan to Action in Asia””

28 - 29 March 2008, Incheon, Korea

PROGRAMME

Thursday 27 March 2008

Arrival of participants — transfer to hotel

Friday 28 March 2008

09:00-10:00 Opening Ceremony

Welcome remarks by the Korean Olympic Committee President, Dr Jung-Kil Kim

Welcome remarks by Dr. Pal Schmitt, Chairman of the IOC Commission for Sport and Environment

Official opening by ????????

10:00-10:30 Coffee break

SESSION I: General information

10:30-11:30 1. Introduction by Pál Schmitt, Chairman of the IOC Sport and Environment Commission

- introduction

- objectives and procedure

- presentation of participants

11:30-12:30 2. Sport and sustainable development

by Mahesh Pradhan, UNEP Regional Environmental Affairs Officer

12:30-12:45 3. Projection of the Film — Bringing the Olympic Values to Life

12:45-14:00 Lunch-break

14:00-14:45 4. National Olympic Committees taking action for the environment through sport

By Masato Mizuno, Member of the IOC Commission for Sport and Environment

14:45-15:00 5. International Federations taking action for the environment through sport

By Hideo Kamaga, Japanese National Wrestling Federation

15:00-15:30 6. The IOC and environmental sustainability & the IOC Guide to Sport, Environment and Sustainable Development

by Edward Kensington, Project Officer, IOC Department of International Cooperation and Development

- 15:30-16:00 7. Sustainability in Korean Sport**
by Korean speaker ????
- 16:00-16:15** Light refreshments
- SESSION II: NOC programmes and actions**
- 16:15-18:00 8. Presentation of national programmes/actions (5 min. each)**
(Bangladesh, Brunei Darussalam, Cambodia, China, Hong Kong, India, Indonesia, Islamic Republic of Iran, Japan, Jordan, Kyrgyzstan, Lao People's Democratic Republic, Lebanon, Malaysia, Mongolia & Myanmar)
- 7.30p.m. Welcome Dinner hosted by the Korean Olympic Committee**

Saturday 29 March 2008

- 09:00-10:00 9. Presentation of national programmes/actions (5 min.each)**
(Nepal, Oman, Pakistan, Philippines, Qatar, Sri Lanka, Saudi Arabia, Syrian Arab Republic, Tajikistan, Chinese Taipei & Vietnam)
- 10:00-10:15 10. Summary of NOC presentations**
- 10:15-10:30** Light refreshments
- SESSION III: Identification of key issues, action plan & projects**
- 10:30-12:30 11. Discussion on the environment in Asia and what sport can contribute to continental/international environment sustainability efforts**
Moderated by Pal Schmitt, *Masato Mizuno*, Sang-Woo Kim, Mahesh Pradhan
- 12:30-13:30** Lunch
- SESSION IV: Future strategies / commitments**
- 13:30-14:00 12. Presentation of seminar commitments and closing remarks**
- SESSION V: Sport and environment implemented**
- 14:00-18:00** Field Visit

National Olympic Committees taking action for the environment through sport
Masato Mizuno
Member Sp+Env Commission of the IOC, VP of JOC
March 28, 2008, Incheon, Korea

I. Introduction

- A. Today, quite serious climate changes caused by global warming, such as heat waves, lack of snow, ice and water, photo chemicals and many others are distracting sports. Athletes are having more difficulties to achieve their records and/or to find sports sites. In other words, the Olympic Motto "Citius, Altius, Fortius" is facing serious threat of environmental issues.
- B. The most important keyword for the world is "Education". Educations at school are very important as well as upbringing and discipline at home and social education after school are indispensable. Education raises consciousness and sharpens sensitivities.

II. New trend on environmental issue

- A. The news of Nobel Peace Prize to IPCC and the film "An inconvenient Truth" by Al Gore made good influence to media who are now disseminating the most important global environment issue.
- 1 Journalism and media is finally reminded this serious issue and the articles are giving good influence to the people finding out the serious crisis to which we are facing.
 - 2 The forth report of International Panel on Climate Change (IPCC) was compiled by the studies of 2500 scientist of 130 countries within 3 years.
 - 3 A film "An Inconvenient Truth" by Al Gore, former VP of USA
 - a TV, Newspapers and all media is now disseminating the environment issues
 - b It is good to see that more people are now finding out the serious crisis on environment
 - 4 New wording
 - a Carbon Footprint
 - (1) Today more people who are working for environment uses a word "Carbon Footprint" A Carbon footprint is a "measure of the impact human activities have on the environment in terms of the amount of green house gases produced which is measured in units of carbon dioxide. It is meant to be useful for individuals and organizations to conceptualize their personal (or organizational) impact in contributing to global warming. A conceptual tool in response to carbon footprints is carbon offsets, or the mitigation of carbon emissions through the development of alternative projects such as solar or wind energy or reforestation.
 - b Carbon Neutral
 - (1) The words "Carbon Neutral" and "Carbon Offset" are also getting common in the society. Being carbon neutral refers to neutral (meaning zero) total carbon release, brought about by balancing the amount of carbon

released with the amount sequestered or offset. Carbon offsetting is the act of mitigating ("offsetting") greenhouse gas. A well-known example is the purchase of carbon offsets to compensate for the greenhouse gas emissions caused by personal air travel.

III. Elicitation of Phenomena on the Global Warming

A. Some facts

1 We should know the real fact that the thickness of the air layer that we can breathe is very thin. The diameter of the earth is 12700km. On which, thickness of the air that human can breathe to live is about 4km thick. If the diameter of 1m a globe, the air thickness human can breathe is only 3mm. The total amount of air of the earth is very small.

2 Global Warming is causing all kinds of the phenomena: melting ice of Arctic, Antarctic oceans and glacier, strong hurricanes and typhoons, strong tornados, floods, droughts, desertification, more tropical epidemics.

3 Global warming

A phenomenon of average temperature of the surface of earth rises by green house gas such as carbon dioxide and Methane Gas.

- Decreasing of land mass because of rising sea level
- Cause of irregular climate
- Destruction of biosphere and water supply
- Increase of desert area
- Increase of infectious disease

Destruction of Ozone layer

The hole in the ozone layer of the stratosphere caused by "CFC", let excess ultra violet rays to come through the earth's atmosphere, causes many types of global problems.

- Skin cancer and cataract
- Destruction of immune system
- Growth obstruction of plants and animals
- Air pollution

Acid Rain

Acid rain is caused by exhaust gas from combustion of fossil fuel

- Decreasing of forests
- Destruction of biosphere by acidic water in the rain
- Melting of historical ruins, statues and buildings made of marble

Decrease of variety of species

Destruction of forests, ocean pollution, spreading of desert, global warming, and acid rain decrease variety of creatures.

- Decreasing of genetic resources
- Decreasing of tourism resources
- Destruction of food chain

Decrease of forest

Slash and burn agriculture, pasture and excess deforestations results in the decrease of forest area (including tropical forest)

- Decrease of wild animals and species
- Loss of soil by heavy rain
- Loss of source of oxygen
- Decrease the function of water circulation

Increasing of desert area with global scale

Drought and excess grazing for livestock increases desert area

- Food resources begin to worsen
- Loss of diversity of species
- Acceleration of poverty
- Change of climate
- Population concentration of big cities
- Increase of refugees

Ocean Pollution

Ocean pollution is caused by tanker accidents, dumping of toxic waste, inflow of contaminated materials through rivers and waterfront development

- Destruction of biosphere
- Decrease of tourism and fishery resources
- Indirect ingestion of toxic material to human body

4 Boiling frog story

a If a frog is thrown into a pan of hot water, it will jump out from pan instantly because the frog feels high temperature. On the other hand, if a frog is thrown into a pan of normal cool water, frog stays in the water. Then, the pan of water is heated up gradually, frog would not notice the change of temperature until it is too late then frog would be boiled up to die.

B. Some examples

1 Showing the film

C. The mechanism

IV. IOC and Sp+Env

A. Since former President Juan Antonio Samaranch clearly expressed that environment conservation was the third pillar of the Olympic Movement along with sports and culture in the resolution of the centennial congress of the IOC, the Chairman Dr. Pal Schmitt and the members of Commission have been working hard for conservation of environment in the world of sports and to be one of the role model as well.

Sport and Environment in the Olympic Charter, Chapter 2, Mission and role of the IOC, clause 13 states that the role of the IOC is to encourage and support a responsible concern for environmental issues, to promote sustainable development in sport and require that the Olympic Games are held accordingly.

The Olympic Movement's Agenda 21 was resolved at the IOC World Conference on Sp+Env. at Rio de Janeiro in 1999, then officially adopted at the IOC Session afterwards. This supposed to be the textbook on sport for sustainable development.

B. The IOC World Conference on Sp+Env has been and will be held in;

- 1 1995 Lausanne, Switzerland
- 2 1997 Kuwait City, Kuwait
- 3 1999 Rio de Janeiro, Brasil

4 2001 Nagano, Japan

5 2003 Torino, Italy

6 2005 Nairobi, Kenya

7 2007 Beijing, China

8 2009 Vancouver, Canada

C. IOC Regional Seminars has been held in quite many regions.

V. IOC Request to all the NOCs

A. IOC Guidelines:

1 To identification of key issues and action plans

a Prioritize the issues you consider most important

b For each issue, consider the following questions

2 Strategy

a WHO is the target group of this change?

b WHAT exactly do we want to achieve (clearly state your goals)? Realistic and achievable goals!

c WHY is it useful or necessary to have this change? Clearly state the arguments/benefits

d WHAT are the barriers that may prevent us from accomplishing these goals?

e WHO may be able to assist you (inside) and outside your organization)?

f WHO do we need to influence / lobby to reach these goals?

g WHAT tools could be used to influence them (how when and where)?

3 Action plans

a WHAT activities can be implemented to achieve your goals? Prioritize activities: Less can be more effective than more!

b HOW do you plan to implement them (identify clear tasks)?

c WHO would be responsible for getting the task done? Identify clear responsibilities

d WHAT resources need to be sourced (human and financial)?

e By WHEN do you plan to have completed your tasks? Set a reasonable timeline.

f HOW will you measure your success in reaching your goals?

VI. The guidelines suggest to identify and to prioritize issues and action plans then to have good strategy with clear target, goals, to make changes, through collaborators, lobbying using effective tools.

VII. The resolution of IOC World Conference on Sp+Env was to recommend every stakeholder related to events from the Olympic Games, Mega Events to grass root sports activities should have strong partnership with other stakeholders. The stakeholders related to sports are such as IOC, IFs, NOCs, NFs, Organizing Committees, Governments, Ministries, Local municipalities, Athletes, Officials, Spectators, Volunteers, Media, Broadcasters, Facility management, Constructors, Sponsors, Suppliers and so on.

VIII. The first key strategy is getting a strong partnership with affiliated National Sports Federations under the NOCs

A. It is quite common that every NOCs has affiliated National Sports Federations (NFs) who is responsible for operating sport under the International Federations (IFs),

hosting National Championships, regional events and grass roots promotions.

B. In other hand, NFs set a clear rule under the IFs, strengthen their competitiveness and disseminating rules, manners and behaviors through coach clinic and grass root clinics.

C. IOC recommend that every NOCs to establish their own Sp+Env Commission in the NOCs consisted of the representatives of NFs and to make the commission have close contact with each affiliated NFs to set up standing committee of Sp+Env in the NFs.

D. The main roles of Sp+Env Commission of the NOCs are to promote AWARENESS and IMPLEMENTATION of actions.

E. Sp+Env Commission of NOCs should have Sp+Env Conference at least once a year to inform the general ideas to promote awareness and implementation of the environment actions and report and introduce good practice of NFs and exchange information each other.

F. Sp+Env Commission of NOCs should host regional seminars every once in a while to promote Sp+Env in local area.

G. The most effective tool to promote awareness of the importance of environment is posters put up at every places of sports, competition sites and offices of sports related organization.

H. Another effective tools are banners at the competition site for spectators, leaflets to distribute and ads in the programs.

I. In order to establish recyclable society, separation and/or sorting of waste is indispensable. Under the concept of "Categorized materials by separation of waste become resources."

J. It is recommended that Sp+Env Commission of NOC appoint environment ambassadors of each prime sports in their country to disseminate the proper messages to the people, especially to junior age participants in sports.

IX. Collaboration with Ministry of Environment is another key strategy

A. Ministry of Environment also need quite strong partners

B. Sport is very influential social activities in the society with so many events, so much TV program and so much publicity.

C. Relatively easy to take actions of environment measures at sports field, to promote awareness and implementation

D. E.g.: the Ministry of Environment of Japan has been promoting the "Team minus 6 %" through sports field aggressively.

X. Showing some good example of JOC activities collaborating with NFs and Ministry of Environment.

Please refer the Power point presentation.

XI. Sport is such a wonderful activity in the human society, more to say it is indispensable to give not only healthy body but also good spirit of ethics, fair play, fighting spirit, friendship, integrity, competitiveness, joy, respect to rules and opponent, braveness and solidarity.

Why don't we get together to promote Sp+Env harder in sports world?

National Federation taking action for the environment through sports
 Hideo Kamaga
 Member, Sp+Env Commission of JOC and Japan Wrestling Federation
 March 28, 2008 Incheon, Korea

I. Introduction

A. I would like to introduce myself. My name is Hideo Kamaga, a member of the Sp+Env Commission of Japanese Olympic Committee and a manager of Japan Sports Kaikan (Arena) Foundation that was founded by Ichiro Hatta who is the one of the pioneer of wrestling in Japan. I graduated from Nippon University.

II. Japan Wrestling Federation

- A. First of all, I would like to pass on history and situation of wrestling in Japan today.
 B. Japan Wrestling Federation was founded in 19XX, since first participation to the Olympic Games in 1952 at Helsinki. Japanese National Team has been obtaining medals consecutively except 1 Bronze at Paris Olympics in 1924. We won 50 medals in total, 22 gold, 15 silver, and 13 bronzes.
 C. There are XX thousand wrestlers registered to the JWF. We hope more of younger generations to participate.

III. JWF policy on Sp+Env

- A. Japan Wrestling Federation has been working together with the policies on Sp+Env of JOC that is exactly same as the policy of the IOC guidelines.
 B. IOC Request to all the NOCs
 1 IOC Guidelines:
 a Identification of key issues and action plans
 (1) Prioritize the issues you consider most important
 (2) For each issue, consider the following questions
 b Strategy
 (1) WHO is the target group of this change?
 (2) WHAT exactly do we want to achieve (clearly state your goals)? Realistic and achievable goals!
 (3) WHY is it useful or necessary to have this change? Clearly state the arguments/benefits
 (4) WHAT are the barriers that may prevent us from accomplishing these goals?
 (5) WHO may be able to assist you (inside) and outside your organization)?
 (6) WHO do we need to influence / lobby to reach these goals?
 (7) WHAT tools could be used to influence them (how when and where)?
 c Action plans
 (1) WHAT activities can be implemented to achieve your goals? Prioritize activities: Less can be more effective than more!
 (2) HOW do you plan to implement them (identify clear tasks)?
 (3) WHO would be responsible for getting the task done? Identify clear responsibilities
 (4) WHAT resources need to be sourced (human and financial)?

(5) By WHEN do you plan to have completed your tasks? Set a reasonable timeline.

(6) HOW will you measure your success in reaching your goals?

d The guidelines suggest identifying and prioritizing issues and action plans then to have good strategy with clear target, goals, making changes, and collaborators, lobbying using effective tools.

2 All the affiliated National Sports Federations under JOC have been working together with JOC on Sp+Env

a Most of the NFs have formed standing committee on environment and/or clearly defined section that take care environment matter.

IV. The activities of JWF

A. The main activities are for awareness and implementation

1 JWF puts up the posters and the banners and distribute leaflets at the competition sites for the awareness of Sp+Env.

a There are two kinds of banners today, one is general banner made by JWF and JOC. The other is made by JME

2 JWF promotes separation of waste at the site and ask all the garbage to their home.
 a In order to make clear separation, JWF made distinguished mark for every type of garbage.

3 Since last year, JWF has been collaborating with JOC-JME (Ministry of Env.)

a Promoting participation of the "Team Minus 6% "

b Putting up the banners of both JOC and JME

c Printing the ads of "Team Minus 6% " in the programs, pamphlets and magazines

B. International activities

1 Participating to the World Championship, Olympic Games, Asian Games and all the regional Games.

2 FILA (Federation Internationale des Luttes Associations) Coach Clinic held at Tokyo

C. National level activities

1 8 national level events including

a National Championship

b National Women Championship

c Junior Olympic Cup

d Inter High School Championship

e Wrestling Championship at (National sports festival

f National Senior Championship

g Inter Company Championship

h National Masters Championship

D. Junior program

1 JWF hosts 4 major junior events annually

2 The poster contest by junior wrestlers

3 Questionnaire on environment to junior wrestler

a Acknowledgement of the 3Rs

(1) 90% of the participants know the 3Rs

E. Awareness and Implementation

- 1 Raising consciousness is one of the important roles of JWF. JWF is making effort to let all the people who are related to wrestling aware the present situation of the global warming and other environmental serious issues using every data and document at every possible occasions from the board meetings to the competition sites.
 - 2 Saori Yoshida one of the top wrestlers has made it her custom to clean the river near by her house in her town.
 - 3 For the spectators to:
 - a Promoting and request to bring water canteen of themselves instead of buying pet bottles
 - b Closing trash boxes to promote bring all the trash to their home
 - c Printing message on the backside of competition AD card
 - d Printing the ads in the program
 - e Preparing the mats for the shoes in front of the competition mats
- V. Driving the participation of the team minus 6 % at the competition sites by top wrestler to spectators and participants
- A. Team minus 6% by the Ministry of Environment
 - 1 Getting 540 members of the team minus 6%
- VI. Takashi Kobayashi Gold medallist at Seoul Games 1988 is now the Env Ambassador of JOC participating events by request and telling to the people explaining the environment situation and some recommendation what to do.
- VII. Distributing Shopping bags
- A. It is recommended that all the consumer to carry their own shopping bag instead of taking plastic shopping bags from supermarkets in Japanese society.
 - B. JWF is distributing shopping bags that promoting to carry their own bags.
- VIII. Promotional efforts
- A. Try best to include environment topic in greeting cards, messages and articles.
 - B. Distributing shopping bags for not take plastic bag at checkout in supermarket
 - C. Environmental Comics: friend of Kamaga, who understands the philosophy of the env
 - 1 Attract junior wrestler to read and know
- IX. JWF will be taking much stronger and continual actions on Sp+Env in the work front of Japan
- Wrestling Federation in cooperation with JOC, JME, IOC and IWF in the future.

IOCからJOCへのお礼状



INTERNATIONAL
OLYMPIC
COMMITTEE

Mr Tsunekazu TAKEDA
President
Japanese Olympic Committee
Kishi Memorial Hall
1-1-1 Jinnan
Shibuya-ku
Tokyo
150-8050
Japan

International Cooperation and Development Dept
By fax only: +81 3 3481 0977/+81 3 3481 2292

Lausanne, 14 May 2008

IOC Regional Seminar on Sport and Environment, Incheon, Korea, 28-29 March 2008

Dear President,

I am pleased to send you the commitments adopted by the participants in the IOC regional seminar which took place in Incheon, Korea last March.

I take this opportunity to thank you for the active contribution of your delegate, Mr Hideo Kamaga, who contributed to its success; I am convinced that your NOC will continue to support his work to ensure the implementation of the adopted commitments.

To ensure the follow-up of the seminar, I would be grateful if you could keep us informed on the actions carried out by your NOC for sustainable development through sport.

We also remind you that NOCs can receive financial support towards initiatives in the area of Sport and Environment through Olympic Solidarity's World Programmes. The Sport and Environment programme aims to encourage NOCs to be actively involved in this field and to undertake, implement and adopt programmes and initiatives, using sport as a tool for sustainable development. Further information, including the programme's guidelines and the application form, is available through the NOC Extranet or by contacting Olympic Solidarity (solidarity@olympic.org).

Looking forward to hearing from you, I remain,

T.A. Ganda Sithole
Director

Encl. ment.

INTERNATIONAL OLYMPIC COMMITTEE
Château de Vidy, 1007 Lausanne, Switzerland, Tel. +41 21 621 6111 / Fax +41 21 621 6216 / www.olympic.org

(4) IOCスポーツと環境賞

IOC Award for Sport and the Environment

序： IOCスポーツと環境賞は、スポーツ分野における優れた環境活動について功績を認め、またさらなる実践を奨励することを目的として、IOCスポーツと環境委員会により創設されました。

世界各地の複数の団体が環境関連の賞を制定しており、その例として欧州環境賞 (European Better Environment Awards) やUNEPの地球大賞 (Champions of Earth Awards) などがあります。こうした環境賞はスポーツも対象としていますが、明確にスポーツを授与対象カテゴリーに定めた賞はありません。

オリンピック・ムーブメントの先頭に立つ組織として、IOCは健全な環境保全を積極的に促進し、行動規範を定めるという強い社会的責任を感じています。この考えを背景にIOCは、具体的に持続可能なスポーツと環境の分野で卓越した活動、イニシアティブ、プロジェクトを顕彰することとし、2年毎に開催するスポーツと環境世界会議の場で授与する賞を創設しました。

規定：候補者

各オリンピック委員会 (NOC)、公認の国際競技連盟 (IF) および大陸協会の推薦する個人、グループ、組織であれば賞の候補者となる資格があります。

現在IOCスポーツと環境委員会に所属するメンバーには受賞の資格がありません。

ノミネート

受賞候補者の推薦の受付は2008年11月30日までとし、IOC国際協力開発部に提出して下さい。この期日より後に提出された推薦は審議の対象となりません。

推薦状は公式の書式を用い、各オリンピック委員会 (NOC)、公認の国際競技連盟 (IF) または大陸協会の会長または事務局長の承認を受けて提出することとします。候補者の選定内容はすべてフランス語か英語で記載するものとし、以下の事項を詳細に明記して下さい。

- プロジェクトの独自性とその意義
- 明快で、評価基準の確かな、意欲的な目標
- 目標の達成と実現した利益
- 将来的な利益の予測
- 再生 (実際のおよび計画上の再生)
- スポーツと環境の行動に当たってのステークホルダーとの約束
- ステークホルダーによる評価
- 第三者による実績の検証

カテゴリー

五大洲 (アフリカ、アメリカ、アジア、ヨーロッパ、オセアニア) のそれぞれからノミネートされた候補から受賞者を一人 (一組) ずつ決定します。

下記のリストは、持続可能なスポーツと環境への卓越した貢献と認められる活動、イニシアティブ、プロジェクトについて表彰を受けるノミネート対象者の受賞分野を列挙したのですが、下記以外から選考される場合もあります。

- スポーツ施設の設計および／または建設
- スポーツを通じた生物多様性や文化遺産の保護と促進
- 環境と持続可能性の問題に関する、環境教育あるいはスポーツ・コミュニティにおける啓発活動
- スポーツ・イベント、施設、クラブの運営管理
- スポーツにおける持続可能性の促進につながるメディアの取材・報道と資料の作成
- 持続可能なスポーツの実践を盛り込んでいるアジェンダ21のイニシアティブ

賞の内容

各大陸から選ばれた受賞者は第8回スポーツと環境世界会議の席に招かれ、その場でIOCより特製のスポーツと環境トロフィーを授与されることになります。

審査委員会および選考基準

IOCスポーツと環境委員会のメンバーで構成される審査委員会が五大洲の受賞者を選定します。

審査委員会は下記の基本的な評価基準を考慮して各大陸の受賞者を決定します。

- 持続可能なスポーツの促進に関わる活動、イニシアティブ、プロジェクトのもたらす効果
 - 世界規模で持続可能なスポーツ実践に向けた活性剤としての役割をもって実行される活動、イニシアティブ、プロジェクトの実現能力
 - 自発的な貢献と革新的な取り組みの手法
- 審査委員会の決定は最終的なものであり異議を申し立てることはできないものとします。審査委員会は大陸ごとのノミネートで受賞に相応しい候補が存在しない場合、受賞該当者なしとする権限を有します。また、やむをえない事情がある場合、IOCとしては事前に通知することなく、賞の選考スケジュールを変更、または取り止めとする権限を有するものとし、その場合いかなる法的責任も負わないものとします。

規定への同意

賞へのノミネートをもって、ノミネート対象者は以上の規定に示された条件および賞の主権者の決定に同意します。

6 OCAスポーツと環境委員会

OCA Sport & Environment Committee Meeting

Date:17 July 2007
Place:Seoul,Korea,

Programme

Date	Time	Activity
July 17 (Thu)	10:00 - 10:10	Roll Call
	10:10 - 11:00	Welcome messages by Mr. Yu, Kyung-Sun, Chairman of OCA E&SC Mr. Kim, Jung-Kil, KOC President Mr. Zaiqing Yu, OCA Vice President Mr. Manuel Silvério, OCA Vice President Mr. Masato Mizuno, IOC S&EC Member Mr. Mr. Husain Al-Musallam, OCA General Director Introduction of E&SC Members
	11:00 - 11:10	Coffee Break
	11:10 - 11:40	Video Watching (Inconvenient But Too Hot: Global Warming)
	11:40 - 12:10	The Implementation of Olympic Movement's Agenda 21(Jinho Kim)
	12:10 - 13:30	Lunch
	13:30 - 14:20	Gaunzhou 2010: Environment Policy and Actions (Gaunzhou Asian Games OG)
	14:20 - 14:30	Coffee Break
	14:30 - 15:20	Role and Actions of OCA S&E Committee (Masato Mizno, IOC S&EC member)
	15:20 - 16:20	Open Discussion: OCA S&E Committee Plan
	16:20 - 16:30	Closing Remarks
	19:00 - 21:00	Official Dinner hosted by Chairman Yu, Kyung Sun

Roster of OCA Sport and Environment Committee

Chairman	Mr. Kyung-Sun Yu	KOR
Member	Cdr. H.U. Silva	SRI
	Mr. Kutubuddin Ahmad	BAN
	Mr. Mohamed Mahid Shareef	MDV
	Dr. Rashed H. Al Heraiwel	KSA
	Mr. Akram Zahir	PLE
	Prof. Meas Sarin	CAM
	Mr. Murat Saralinov	KGZ
	Mr. Ferras Moulla	SYR
	Khin Maung Lwin	MYA
	Mr. Arie P. Ariotedjo	INA

7 関連資料

References

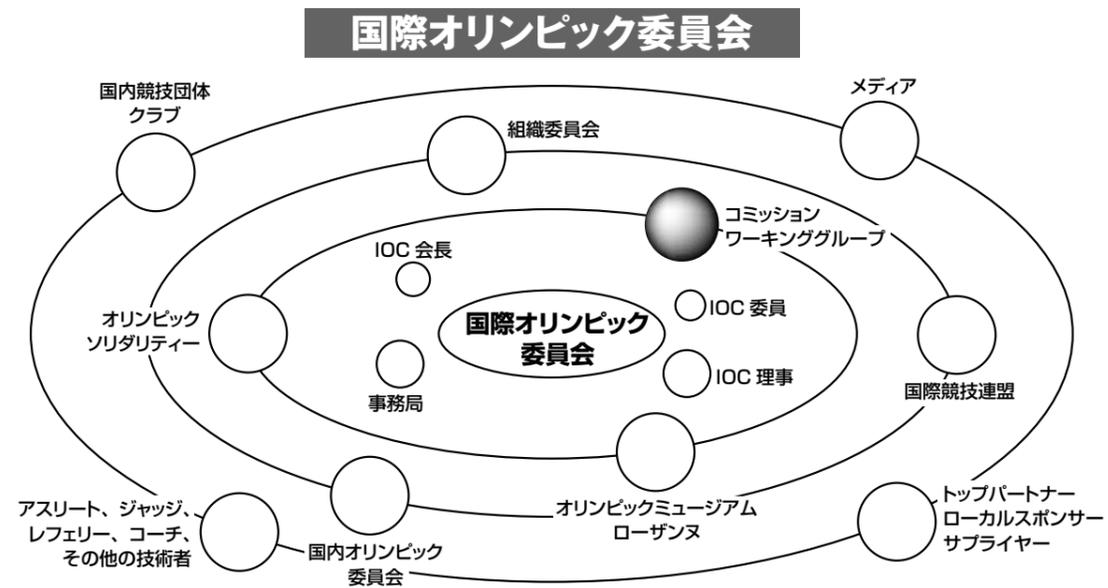
(1) JOCスポーツ環境専門委員会名簿

Roster of JOC Sport and Environment Commission

平成20年3月31日現在

役職名	氏名	出身団体(NF)	役職(NF)
委員長	板橋 一太	(財)日本オリンピック委員会	常務理事
Chairman	Ichita ITABASHI	Japanese Olympic Committee,	Senior Executive Board Member
副委員長	田嶋 幸三	(財)日本サッカー協会	専務理事/環境プロジェクト・リーダー
Vice-Chairman	Kozo TASHIMA	Japan Football Association	
"	佐野 和夫	(財)日本水泳連盟	副会長・専務理事/スポーツ環境委員長
	Kazuo SANO	Japan Swimming Federation	
委員	朝倉 正昭	(財)日本体操協会	理事/環境委員長
Member	Masaaki ASAKURA	Japan Gymnastic Association	
"	伊藤 晃	(財)日本バレーボール協会	執行役員/業務推進事業本部 副本部長
	Akira ITO	Japan Volleyball Association	
"	鎌賀 秀夫	(財)日本レスリング協会	評議員/スポーツ環境委員長
	Hideo KAMAGA	Japan Wrestling Federation	
"	土田 忠	(財)日本アイスホッケー連盟	スポーツ環境委員長
	Tadashi TSUCHIDA	Japan Ice Hockey Federation	
"	橋爪 功	(財)日本テニス協会	環境委員長
	Isao HASHIDUME	Japan Tennis Association	
"	平松 純子	(財)日本スケート連盟	理事
	Junko HIRAMATSU	Japan Skating Federation	
"	別所 恭一	学識経験者(佐川急便株式会社 理事)	
	Kyoichi BESSHO	JOC Environment Partner	
"	松岡 修造	(財)日本テニス協会	理事待遇/環境委員
	Shuzo MATSUOKA	Japan Tennis Association	
"	山口 香	(財)全日本柔道連盟	女子強化委員
	Kaori YAMAGUCHI	All Japan Judo Federation	
"	山本 征悦	(財)日本陸上競技連盟	総務委員/事務局長
	Junko HIRAMATSU	Japan Association of Athletics Federations	
アドバイザー	水野 正人	IOCスポーツと環境委員会委員/(財)日本オリンピック委員会副会長	
Adviser	Masato MIZUNO	IOC Sport and Environment Commission, Member	

(2) IOC組織・機構図



各委員会

- 理事会
- アスリート委員会
- 文化・オリンピック教育委員会
- オリンピック競技大会調整委員会
- 倫理委員会
- 財務委員会
- 国際関係委員会
- 法務委員会
- マーケティング委員会
- 医事委員会
- 指名委員会
- 2009 オリンピックコンGRESS委員会
- 切手・貨幣・記録委員会
- オリンピックプログラム委員会
- ソリダリティー委員会
- 報道委員会
- ラジオ・テレビ委員会
- スポーツと環境委員会
- スポーツと法律委員会
- スポーツ・フォア・オール委員会
- テレビ・インターネット権利委員会
- 女性とスポーツ委員会

スポーツと環境委員会

CHAIRPERSON	Mr Pál SCHMITT	General	Zoumaro GNOFAME
MEMBERS	Dr Roland BAAR	Mr Johnson	JASSON
	Mr Michel BARNIER	Mr George	KAZANTZOPOULOS
	Mr Andrès BOTERO	Mr Moss	MASHISHI
	PHILLIPSBORNE	Mr Masato	MIZUNO
	Mr Tore J. BREVIK	Mr Mamadou Diagna	NDIAYE
	Mr Enrico CARBONE	Mr Sunil	SABHARWAL
	Ms Yaping DENG	Mr Shamil	TARPISCHEV
	Mr Josef FENDT	Mr Efraim	ZINGER

DIRECTOR IN CHARGE Mr Tomas Amos Ganda SITHOLE

(3) IOCスポーツと環境委員会小史

Brief history of the IOC Sport and Environment Commission

- 1972年 札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
- 1976年 デンバーオリンピック冬季大会開催返上(経済・環境問題)
- 1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた
- 1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた(スポーツ・文化・環境)
- 1992年 パルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加NOC署名
- 1994年 第12回オリンピック・コンGRESS(IOC創立100周年)でスポーツと環境分科会開催・パリ
- 1995年 IOCにスポーツと環境委員会設置 委員長 パル・シュミット
- 第1回IOCスポーツと環境世界会議開催・ローザンヌ
- 1996年 委員に就任 岡野俊一郎(1996-2001)、水野正人(1996-現在)
- 1997年 第2回IOCスポーツと環境世界会議開催・クウェート
- 1999年 第3回IOCスポーツと環境世界会議開催・リオデジャネイロ
- オリンピックムーブメントアジェンダ21採択
- 2001年 第4回IOCスポーツと環境世界会議開催・長野市
- “GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE”
- 2002年 極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京
- 2003年 第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ
- “PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT”
- 2004年 IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ハバナ
- 2005年 極東及び東アジア、第2回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ドバイ
- 第6回IOCスポーツと環境世界会議開催・ナイロビ
- “SPORT, PEACE AND ENVIRONMENT”
- 2006年 IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・クワラルンプール
- IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・キングストン
- 2007年 第7回IOCスポーツと環境世界会議開催・北京
- “FROM PLAN TO ACTION”
- 2008年 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー開催・インチョン
- 2009年 第8回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー(予定)
- 2011年 第9回IOCスポーツと環境世界会議・ロンドン(予定)

(4) JOCスポーツ環境委員会小史

Brief history of the JOC sport and Environment Commission

平成13年度(2001年)	JOCスポーツ環境委員会設置 委員長 水野正人 委員 石川徹男、櫻井孝次、佐野和夫、瀬尾洋、早田卓次、平松純子、 松岡修造、森健兒 第4回IOCスポーツと環境世界会議主催・長野市 “GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE”(この星にスポーツを!)
平成14年度(2002年)	ファーストポスター、パンフレット作成 極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京 参加
平成15年度(2003年)	セカンドポスター作成 平成14年度スポーツ環境委員会調査研究報告書作成 7月にISO14001認証登録、IOC加盟202NOCの中で初めて 第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ 佐野和夫スポーツ環境委員からJOCの活動を報告 “PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT”
平成16年度(2004年)	サードポスター作成 平成15年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第1回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター (本会関係者、加盟団体、パートナー)
平成17年度(2005年)	ジョイントポスター・パンフレット(第2版)作成 平成16年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 環境省の「チーム・マイナス6%」のメンバーとなる 第1回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・大阪市 第2回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第6回IOCスポーツと環境世界会議・ナイロビ 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告
平成18年度(2006年)	イラストポスター・横(5th)作成 平成17年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 ISO14001認証を更新登録 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・クワラルンプール 遠藤スポーツ環境専門委員からJOCの活動を報告 第2回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・長野市 第3回スポーツと環境担当者会議開催・国立オリンピック記念青少年総合センター
平成19年度(2007年)	イラストポスター・縦(6th)作成 平成18年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第3回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・東京都 第4回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第7回IOCスポーツと環境世界会議・北京 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・インチョン 鎌賀スポーツ環境専門委員・JOC及びNFの活動を報告
平成20年度(2008年)	ポスター(7th)作成 平成19年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 IOC競技別、環境保全ガイドブック(要約)・作成(予定) 第4回JOCスポーツと環境・地域セミナー・広島市(予定) 第5回スポーツと環境担当者会議・ナショナルトレーニングセンター(予定)

(5) オリンピックムーブメント アジェンダ21(要約)

Olympic Movement's Agenda 21

1. 一般原則

1.1 持続可能な開発

1992年にリオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議」(UNCED)、別名「地球サミット」で持続可能な開発を目指す「リオ宣言」が182カ国の創意で採択された。

1.2 UNCED アジェンダ21

各国政府がそれぞれの国家戦略、計画、規制、活動を策定する際の青写真としての役割を果たすだけでなく、非政府組織にもこのアジェンダ21に基づいた独自のアジェンダ21を作成するよう求めている。

2. オリンピックムーブメントにおけるアジェンダ21の目標

傘下のメンバー全員 (IOC、IF、NOC、OCOGなど) およびスポーツをする全ての人を対象に持続可能な開発を方針に取り入れられる分野を提案し、また、各個人の行動方法についても指摘している。

3. 持続可能な開発に向けてのオリンピックムーブメントの行動計画

3.1 社会経済条件の改善

全ての個人が文化的・物質的ニーズを満たされなければならない。

3.1.1 オリンピズムの価値および持続可能な開発のための行動

持続可能な開発のための国際協力事業を強化し、社会排除と戦う一助となり、新たな消費者習慣を奨励し、健康保護奨励に積極的な役目を果たし、スポーツインフラを振興するに当たり、開発と環境の概念をスポーツの方針に取り入れていく。

3.1.2 持続可能な開発に向けての国際協力の強化

環境と開発がもたらす難題は世界的なパートナーシップを確立しなければ克服できない。特に国連環境計画 (UNEP) との協調が大切である。地域レベルではIOCとNOCとが持続可能な開発に向けて共同歩調をとるべきである。また、スポーツ用品業界では使用する材料や工程を介して持続可能な管理に努め、その活動が環境に及ぼす影響を最小限にとどめるべきである。

3.1.3 排除の撲滅

スポーツへの参加を通じて社会的不利な立場にある個人・集団を支援する。

3.1.4 消費者習慣の変化

無公害あるいはリサイクル材料を利用し、原料とエネルギーが節約できるよう製造されたスポーツ用品の使用を奨励する。同時にスポーツ用品・建造物には地域特有の従来型材料を使用するよう働きかける。

3.1.5 健康の保護

ドーピング対策はもとより、栄養、衛生、感染症・伝染病防止、弱者グループの保護、都市住民の健康面を大きく取り上げる。

3.1.6 人の居住環境および定住

スポーツ施設は土地利用計画に従って、自然・人口を問わず、地域の状況に調和して融け込むように建設・改築されるべきである。事前の環境影響調査が条件となっているのが望ましい。また、スポーツイベントで主催者は以前よりも条件的な改善を目指し、地域住民をより多く関与させることも

大切である。

3.1.7「持続可能な開発」概念のスポーツ方針への取り込み

各競技運営団体は持続可能な開発の概念をスポーツ界、スポーツ活動およびスポーツイベント企画の方針・規則や管理制度に取り入れる。

3.2 持続可能な開発のための資源の保全および管理

オリンピックムーブメントは、スポーツと文化に加えて環境をオリンピズムの第三の柱としている。その環境保全活動は社会経済条件の改善に必要な天然資源と自然環境の保全と管理に切り替えられている。

3.2.1 オリンピックムーブメントに関する環境行動の方法

オリンピックムーブメントによる行動はすべて環境に充分配慮しつつ持続可能な開発の精神に則り、環境教育を推奨し、環境保全の一助となる活動をしなければならない。

3.2.2 環境保全区域および田園地帯の保護

スポーツ活動、施設、イベントは環境保全区域、田園地帯、文化遺産と天然資源全体を保護しなければならない。また、これらに関するインフラが環境に与える影響を最小限にとどめるよう配慮しなければならない。

3.2.3 スポーツ施設

既存のスポーツ施設をできる限り最大限に活用し、良好な状態に保ち、安全性を高めて環境への影響を減らす。また、新規施設の建造の前提としては、既存施設では修理しても使用できない場合に限る。

3.2.4 スポーツ用品

環境に配慮したスポーツ用品の製造だけでなく、商品の輸送・流通のためのエネルギー消費を最小限にとどめ、出来るだけ現地の製品を利用することを奨励する。また、品質保証および環境管理に関するISOの認証を取得すべきである。

3.2.5 輸送

再生不可能なエネルギーの消費などを削減するために無公害の生産手段と公共輸送手段の利用促進を目的とした計画を進める。

3.2.6 エネルギー

- ・過剰なエネルギー消費を抑える。
- ・再生可能なエネルギー源の利用とエネルギーの節約を推奨する新技術、用具、施設、慣行の利用を推進する。
- ・再生可能で無公害のエネルギー源を入手することを推奨する。

3.2.7 主要スポーツイベントでの宿泊設備および食事サービス

- ・アジェンダ21の3.1.6節に従った構造を推奨する。
- ・衛生条件を厳守する。
- ・地元住民の発展と環境保護に充分配慮して作られた商品・食料を利用する。
- ・使用済み製品を最大限に再利用することで廃棄物を最小限に抑える。
- ・再利用できない廃棄物を処理する。

3.2.8 水の管理

- ・貯水保護および天然水の品質保全を意図した世界的・地域的な活動を奨励し、支援する。
- ・地下水または地下水を汚染する危険を持つ慣行はすべて避ける。
- ・スポーツ活動から生じた排水が必ず処理されるようにする。

- ・単にスポーツ活動でのニーズを満たすために特定の地域での全般的な水の供給を脅かさない。

3.2.9 有害な製品、廃棄物、公害の管理

- ・人類にとって有害もしくは有毒である、または環境汚染を引き起こすと認められている製品の使用は避ける。
- ・そのような製品を使用しなければならない慣行、製造、農業手法を奨励しない。
- ・排出・処理される廃棄物の量を最小限にし、廃棄物管理再利用の地域プログラムを推進する。
- ・新規のスポーツ施設の設立、既存施設の改善、新規インフラの構築および主要イベントの企画を利用して、有害なもしくは有毒な製品、汚染物質または廃棄物によって汚染されている敷地を改善する。
- ・あらゆる形態の公害、特に騒音公害を最小限に抑える。公害を低減するために過去のオリンピック競技大会で用いられた慣行・手法の成功例をもとに事を進める。

3.2.10 生物圏の質および生物多様性の維持

- ・オリンピックムーブメントは以下の慣行を非難し、反対する。
- ・大気、土壌または水を汚染する。
- ・生物多様性を危険にさらす、または動植物の種を絶滅の危機に陥れる。
- ・森林伐採の原因をつくる、または国土保全に害を及ぼす。

3.3 主要グループの役割強化

持続可能な開発の成功にはオリンピックムーブメントを構成する全てのグループがこの取組みを積極的に支援すると同時に、これらグループに敬意が払われることが不可欠である。

3.3.1 女性の役割の向上

- ・女性のスポーツ振興に邁進する。
- ・従来女性のものだと考えてきた競技種目を他のものと同様に扱う。
- ・特に教育の中核ともなる地域スポーツセンターの構築を通じて女性の教育を推進する。
- ・女性がスポーツに参加しやすくなるよう託児所などの社会的な手段を講じる手助けをする。
- ・男女のスポーツの実施を公平にマスコミが取り上げ、経済面でも公平に扱うようにする。
- ・競技運営団体において女性が責任ある地位に就けるよう奨励する。
- ・関連国際団体と共同で活動にあたる。

3.3.2 若者の役割の推進

- ・全ての若い競技者が教育を受けられ、労働生活へと溶け込めることを奨励する。
- ・競技団体内で若者が自分たちに関係のある決定を下す際に関与できるようにする。
- ・オリンピックムーブメントが手配した活動で若者が示す動員力を活用する。
- ・若者が特に犠牲となる可能性の高い人権侵害を非難し、対抗する。
- ・子どもの人権に関する国連条約(決議44/25)の承認を宣言し施行する。
- ・専門の国際団体と共同で活動する。

3.3.3 原住民族の認知および推進

- ・原住民の伝統的なスポーツを振興する。
- ・特に原住民発祥の地において、環境管理問題では先住民の昔からの知識とノウハウを使うようにし、適切な行動を取る。
- ・これらの原住民がスポーツに参加できるよう推奨する。

オリンピックムーブメントのメンバーによるアジェンダ21の誓い

1999年10月に開催された第3回スポーツと環境に関する世界会議の出席者はアジェンダ21の実施に向けての一連の行動を定める「リオ宣言」を発表した。

スポーツと持続可能な開発に関するリオ宣言

1. アジェンダ21は、オリンピックムーブメントが持続可能な開発に効果的に役立つ分野において全般的な行動を示すための道具である。
2. オリンピックムーブメントの全てのメンバーやスポーツ参加者、スポーツ関連企業は出来る限り現行のアジェンダ21の勧告に従うべきである。
3. オリンピックムーブメントの全てのメンバーは持続可能な開発を各々の方針や活動に取り入れ、また関連する個人も自らのスポーツ活動やライフスタイルが持続可能な開発に役立つような行動をすべきである。
4. アジェンダ21の実施に当たっては様々な社会・経済・地理・気候・文化・宗教などの事情を尊重しなければならない。
5. 意識向上のため、環境保全についての教育・研修に重点がおかれるべきである。
6. 競技者は環境教育・研修を進める上での貢献が期待され、マスコミもそれを支援していかなければならない。
7. アジェンダ21は同様の目標を掲げている他の全ての政府・非政府組織および国内外組織との緊密な協調を経て実施されるべきである。
8. アジェンダ21の推進・改訂についての責任はIOCにある。オリンピックムーブメントの全てのメンバーや他の関連団体は、その任務を行うスポーツ環境委員会を適切に支援するべきである。
9. IOCスポーツ委員会と国連環境計画は共同の作業委員会を設立し、方針について助言・指導するとともにアジェンダ21の実施を監視するべきである。
10. 共同の作業委員会はアジェンダ21の進捗状況をオリンピックムーブメントのメンバーが出席する会議や今後開催されるスポーツと環境に関する世界会議に提出するべきである。



編集後記

平成19年度の活動報告書の発行にあたり、皆様の啓発・実践活動へのご協力、ご尽力に感謝申し上げます。

委員会の活動も8年目を迎え、各団体からの活動報告も「計画から実践へ」と進行している様子が伺えます。国際オリンピック委員会（IOC）のスポーツと環境委員会では2007年10月に「IOCスポーツと環境賞」を創設、環境に対する積極的な取り組みを推進させています。

今後とも各団体それぞれにスポーツ環境の保全、啓発・実践活動への取り組みと、環境省との連携の「チーム・マイナス6%」への協力も併せてお願いします。

報告書編集担当 佐野和夫

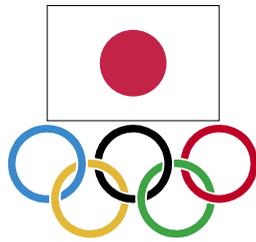
平成19年度 スポーツ環境委員会啓発・実践活動報告書

平成20年6月24日

編集・発行：財団法人 日本オリンピック委員会
〒150-8050 渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内
TEL：03-3481-2313
URL：<http://www.joc.or.jp/eco/index.html>
JOC啓発・実践活動写真提供社：アフロススポーツ
フォート・キシモト

〈問合せ先〉

財団法人 日本オリンピック委員会
〒150-8050 渋谷区神南1-1-1
(財)日本オリンピック委員会 事業・広報部
日比野哲郎、山本佳代子、秋葉将秀、山崎貴子
TEL：03-3481-2313 FAX：03-3481-0977/2292



財団法人 日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門委員会